

# 生活環境保全推進ガイドライン

## 年次報告書

(2022 年度実績)

2024 年 2 月

横浜市



## はじめに

横浜市では、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進する「横浜市環境管理計画（2018年11月）※」を定めており、この計画における生活環境分野の目標達成に向け、「生活環境保全推進ガイドライン（2019年3月）※」を策定し、取組を推進しています。本報告書は、2022年度の横浜市域の生活環境の状況やガイドラインに基づく取組の実施状況を取りまとめて公表するもので、生活環境の保全に関する施策の基礎資料としても幅広く活用できる内容となっています。

横浜市域の生活環境の状況は、環境基準が設定された項目の長期的な傾向として、二酸化窒素等の大気汚染物質、河川の生物化学的酸素要求量（BOD）、海域の全窒素・全りん等の多くの項目の環境中濃度は減少傾向を示し、良好な状況になってきています。一方、全国的にも環境基準非達成が継続している光化学オキシダントや、赤潮の発生など、未解決の課題も残されており、引き続き改善に向けて取り組んでいく必要があります。

また、横浜市は「デジタルの恩恵をすべての市民、地域に行きわたらせ、魅力あふれる都市をつくる」ことを目的として、デジタル化の方針を示す「横浜DX戦略」を2022年9月に策定しました。生活環境分野においても、届出手続のオンライン化や環境情報のデータ公表など、デジタル技術の活用に向けた取組を進めています。

環境への負荷は、市民・事業者などのあらゆる主体の活動に起因しています。また、近年は典型七公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭）への対策に加えて、地球温暖化対策や生物多様性保全への対応など、多種多様な課題が密接に関係するようになり、同時解決を図ることが必要になっています。そこで、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現を目指すSDGsの考え方を取り入れ、環境・経済・社会をめぐる課題への統合的な解決に向け、事業活動・市民生活などのあらゆる主体との連携やまちづくり・脱炭素社会の推進等の施策との連携による新たな取組を推進していきます。

様々な取組との連携を強化しながら、引き続き生活環境の保全の取組を進め、自然豊かな都市環境の充実を図り、横浜で初めての万博となる、2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の開催につなげていきます。

本報告書が、生活環境の保全に関する施策への理解を深める一助になれば幸いです。

2024年2月



※ 本報告書全体で、次の略語を用います。

環境管理計画 : 横浜市環境管理計画（2018年11月）

ガイドライン : 生活環境保全推進ガイドライン（2019年3月）

生活環境保全条例 : 横浜市生活環境の保全等に関する条例（平成14年12月横浜市条例第58号）

# 目次

## 第1章 ガイドラインの概要

1-1	生活環境の目指す姿と環境目標等	2
1-2	生活環境の保全にあたっての基本的な方向性と取組概要	3
1-3	評価・進捗管理・公表	3

## 第2章 生活環境の保全の基盤となる取組

### 2-1 大気環境の保全

(1)	環境目標の達成目安などの状況（2022年度）	6
(2)	2022年度の主な取組実績	7
ア	大気環境の監視	7
	ア 大気汚染物質の測定	
	イ 光化学スモッグ注意報への対応	
	ウ PM2.5の高濃度予報への対応	
	エ 光化学オキシダントに関する広域調査	
	オ PM2.5に関する広域調査	
	カ 空間放射線量の測定	
	キ 酸性雨調査	
イ	施設・事業所等における大気汚染・悪臭の対策	10
	ア 届出指導及び立入検査等	
	イ 大気汚染物質排出量調査	
	ウ 光化学オキシダント対策（固定発生源のVOC排出抑制対策）	
	エ PM2.5対策	
	オ 水銀の排出規制	
	カ ダイオキシン類対策	
ウ	自動車の排出ガス対策	11
	ア ディーゼル車の運行規制	
	イ 低公害車の普及促進	
	ウ エコドライブの促進	
エ	解体等工事におけるアスベスト（石綿）の飛散防止対策	13
	ア 届出指導及び立入検査	
	イ 市民相談への対応	
	ウ アスベスト（石綿）対策の推進	
	エ 関係機関と連携した災害対策	

## 2-2 水環境の保全

(1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）	15
(2) 2022年度の主な取組実績	16
ア 水環境の監視	16
ア) 公共用水域の水質測定	
イ) 横浜市水と緑の基本計画に基づく調査	
ウ) 東京湾環境一斉調査	
エ) 東京湾底質調査	
オ) マイクロプラスチックへの対応	
イ 事業所等から公共用水域への排水対策	18
ア) 届出指導及び立入検査	
イ) 富栄養化対策（総量規制）	
ウ) 排水基準の見直し（公共用水域）	
エ) 暫定排水基準の見直し（公共用水域）	
オ) 建設工事排水に対する規制	
カ) ゴルフ場の農薬対策	
キ) ダイオキシン類対策	
ウ 水再生センターへの流入水対策	20
ア) 届出指導及び立入検査	
イ) 除害施設等管理責任者資格認定講習	
ウ) 除害施設等維持管理講習会	
エ) 異常流入等への対応	
オ) 事故防止の啓発	
エ 水質事故への対応	21
ア) 水質事故の発生状況に応じた対応	
イ) 未然防止のための取組	

## 2-3 地盤環境の保全

(1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）	22
(2) 2022年度の主な取組実績	23
ア 地盤環境の監視	23
ア) 地下水質等の測定	
イ) 精密水準測量による地盤沈下の監視	
ウ) 地下水位観測等による地盤沈下の監視	
イ 土壌汚染対策	24
ア) 土壌調査	
イ) 土壌汚染が確認された区域の指定	

	(ウ) 土壌汚染が確認された区域における措置等	
	(エ) 汚染土壌処理業の許可	
	(オ) 土壌汚染対策の取組支援	
	(カ) 生活環境保全条例（土壌汚染対策関係）の改正	
	(キ) 市発注工事における土壌汚染対策法等に基づく未届事案への対応	
ウ	地下水質の保全.....	27
	(ア) 届出指導及び立入検査	
	(イ) 汚染された地下水の浄化対策	
エ	地盤沈下対策.....	28
	(ア) 地下水採取の規制	
	(イ) 掘削作業の規制	
2 - 4 音環境の保全		
(1)	環境目標の達成目安などの状況（2022年度）.....	29
(2)	2022年度の主な取組実績.....	30
ア	騒音・振動の監視.....	30
	(ア) 道路交通騒音の評価	
	(イ) 新幹線鉄道による騒音・振動の測定	
イ	事業所・建設工事等における騒音・振動対策.....	31
	(ア) 届出指導及び立入検査	
	(イ) 騒音規制法・振動規制法の特定施設の見直し	
ウ	交通に関する騒音・振動対策.....	32
	(ア) 道路交通対策	
	(イ) 鉄道交通対策	
	(ウ) 航空機騒音対策	
	(エ) 集合住宅等の新設における交通騒音対策	
2 - 5 分野横断の取組		
(1)	環境目標の達成目安などの状況（2022年度）.....	33
(2)	2022年度の主な取組実績.....	34
ア	事業所等に対する包括的な施策.....	34
	(ア) 指定事業所・環境管理事業所	
	(イ) 環境保全協定	
	(ウ) 非常時の措置	
	(エ) SDGs よこはま資金（脱炭素社会の実現に資する取組関係）	
	(オ) 公害防止管理者制度	
	(カ) 環境法令講習会	
	(キ) 九都県市首脳会議 環境問題対策委員会	
	(ク) 六大都市自動車技術評価委員会	

(ケ) 神奈川県公害防止推進協議会	
(コ) 全国環境研協議会	
(サ) 神奈川県市環境研究機関協議会	
(シ) 関東地方大気環境対策推進連絡会	
(ス) 他制度と連動した取組	
(セ) 環境法令に基づく届出等手続のデジタル化の取組	
イ 化学物質対策.....	38
(ア) PRTR 制度	
(イ) 環境リスクの低減に向けた啓発	
(ウ) 化学物質環境実態調査	
(エ) ダイオキシン類対策	
(オ) ゴルフ場の農薬対策	
(カ) 関係機関と連携した災害対策	
(キ) 市所有施設のアスベスト（石綿）対策	
(ク) 市所有施設におけるフロン類の漏えい防止	
ウ 自動車交通環境対策.....	41
(ア) 分野ごとの取組	
(イ) 駐車場等におけるアイドリングストップ	
(ウ) 環境と調和した交通施策の推進	
2-6 市民生活に関連した取組	
(1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）.....	43
(2) 2022年度の主な取組実績.....	43
ア 生活環境に関する苦情相談への対応.....	43
(ア) 生活環境に関する苦情相談	
(イ) 屋外燃焼行為への対応	
(ウ) 飲食店等から発生するにおいへの対応	
(エ) 広域異臭への対応	
(オ) 賑わいを創出するイベントに伴う騒音への対応	
(カ) 大規模小売店舗の立地に伴う騒音等への対応	
(キ) 夜間営業に係る騒音への対応	
(ク) 生活騒音への対応	
(ケ) 光害への対応	
(コ) 騒音計・振動計の貸出制度	
イ 安全・安心な市民生活に向けた情報の公表.....	46
(ア) 光化学スモッグ注意報への対応	
(イ) PM2.5の高濃度予報への対応	
(ウ) 環境監視データの公表	
(エ) 環境調査結果の公表	

- (オ) 空間放射線量の公表
- (カ) 地質調査結果の公表
- (キ) 水準測量成果の公表
- (ク) 土壌汚染が確認された土地の公表
- (ケ) 汚染井戸追跡調査結果の公表
- (コ) ダイオキシン類の測定結果の公表
- (サ) 指定事業所等の名簿の公開

### 第3章 連携による新たな取組の方針

3-1	取組方針の概要	50
3-2	2022年度の実施状況と今後の取組	51
(1)	施策間の課題の同時解決	51
	ア 賑わいを創出するイベントに伴う騒音への対応	
(2)	多様な環境課題への対応	51
	ア 光化学オキシダント対策	
	(ア) 広域調査	
	(イ) 原因物質の排出削減の取組	
	イ PM2.5対策	
	(ア) 広域調査	
	(イ) 原因物質の排出削減の取組	
	ウ 放射線対策	
	エ マイクロプラスチックへの対応	
	オ 屋外燃焼行為への対応	
	カ 大規模小売店舗の立地に伴う騒音等への対応	
	キ 関係機関と連携した災害対策	
	(ア) 災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定	
	(イ) 災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定	
	ク 事業者との継続的なコミュニケーション	
	ケ 広域異臭への対応	
(3)	身近な環境の魅力の向上	55
	ア 東京湾環境一斉調査	
(4)	わかりやすい情報発信	56
	ア 環境に対する意識等の把握	
	(ア) 環境に関する市民意識調査	
	イ 広報物による情報発信	
	ウ 「かんきょう横浜」による広報	
	エ 生活環境保全推進ガイドラインの周知	
	オ 市民・事業者との連携に向けた環境情報などのオープンデータ化	



- カ 地質調査結果の公表の取組（地盤 View）
- キ 横浜市立大学との連携による講義「環境保全学」
- ク X（旧 Twitter）「横浜 GO GREEN」による情報発信
- ケ 生活環境保全に関する広報・プロモーション
- コ 夏休み子ども環境科学教室の開催

## 第4章 資料編

### 4-1 大気環境の監視

(1) 大気汚染常時監視測定局及び測定項目 .....	62
(2) 大気汚染常時監視測定局の配置図 .....	63
(3) 常時監視測定結果 .....	64
ア 二酸化硫黄（一般局）	
イ 一酸化炭素（自排局）	
ウ 浮遊粒子状物質（一般局・自排局）	
エ 二酸化窒素（一般局・自排局）	
オ 光化学オキシダント（一般局）	
カ 微小粒子状物質（一般局・自排局）	
キ 非メタン炭化水素（一般局・自排局）	
ク メタン及び全炭化水素（一般局・自排局）	
(4) 有害大気汚染物質の測定結果 .....	78
ア 環境基準が設定されている4物質	
イ 指針値が設定されている11物質	
ウ その他8物質	
(5) ダイオキシン類の測定結果 .....	79
(6) アスベスト（石綿）濃度の測定結果 .....	80
(7) 光化学スモッグ注意報の発令状況 .....	80
(8) 空間放射線量（ガンマ線）の測定結果 .....	80
(9) 酸性雨調査の結果 .....	81

### 4-2 水環境の監視

(1) 公共用水域の水質測定項目 .....	82
(2) 公共用水域の水質測定地点 .....	83
ア 河川	
イ 海域	
(3) 公共用水域の水質測定地点の位置図 .....	85
(4) 公共用水域の水質測定結果 .....	86
ア 健康項目の環境基準適合状況	
イ 生活環境項目の環境基準適合状況	

ウ	BOD（河川）75%水質値	
エ	BOD（河川）年平均値	
オ	COD（東京湾）75%水質値	
カ	COD（東京湾）年平均値	
キ	全窒素（東京湾）年平均値	
ク	全りん（東京湾）年平均値	
ケ	ダイオキシン類	
(5)	水環境目標の水域区分図（評価地点、生物調査（河川）地点の位置図）	92
(6)	水環境目標に係る測定結果	93
ア	BOD（河川）	
イ	COD（海域）	
ウ	ふん便性大腸菌群数（河川）	
エ	ふん便性大腸菌群数（海域）	
オ	全窒素（海域）	
カ	全りん（海域）	
(7)	生物指標による水質評価	98
ア	調査結果	
イ	指標種の出現状況	
(8)	赤潮発生回数	104
4 - 3 地盤環境の監視		
(1)	地下水質の調査	105
ア	調査概要（2022年度）	
イ	調査地点の配置図	
ウ	測定結果	
エ	環境基準の超過項目	
(2)	ダイオキシン類の測定結果	109
ア	地下水	
イ	土壌	
(3)	地盤沈下の監視（精密水準測量結果）	110
ア	精密水準測量結果（2022年度）	
イ	水準点の変動状況	
(4)	地盤沈下の監視（地下水位、地盤変動の観測結果）	111
ア	観測地点の位置図	
イ	観測結果	
4 - 4 音環境の監視		
(1)	道路交通騒音	113
ア	測定地点及び面的評価路線の位置図	

イ	面的評価（全体空間）の結果（2022年度）	
ウ	面的評価（近接空間）の結果（2022年度）	
(2)	新幹線鉄道の騒音・振動.....	117
ア	測定地点の位置図	
イ	騒音の環境基準適合状況	
ウ	騒音レベルの測定結果	
エ	振動の指針適合状況	
オ	振動レベルの測定結果	
(3)	在来鉄道の騒音・振動の測定結果.....	120
4 - 5	各種協定	
(1)	環境保全協定締結事業所の位置図（2022年度末時点）.....	121
(2)	環境保全協定の締結状況（2022年度末時点）.....	122
(3)	農薬の使用に係る環境保全協定.....	126
(4)	災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定.....	126
(5)	災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定.....	126
4 - 6	生活環境に関する苦情相談及び水質事故	
(1)	生活環境に関する苦情相談件数.....	127
(2)	発生源別の苦情件数.....	127
ア	大気汚染	
イ	悪臭	
ウ	騒音	
エ	振動	
(3)	水質事故.....	129
ア	水質汚濁の状況（発生源別）	
イ	水質汚濁の水系・原因別受理件数	
ウ	魚浮上事故の被害魚種と原因	
4 - 7	環境法令に基づく届出等の件数	
(1)	大気汚染防止法.....	130
(2)	水質汚濁防止法.....	131
(3)	土壌汚染対策法（土壌汚染対策に係る届出等）.....	131
(4)	土壌汚染対策法（土壌汚染対策に係る措置内容等）.....	133
(5)	土壌汚染対策法（汚染土壌処理業に係る申請等）.....	134
(6)	土壌汚染対策法（汚染土壌処理業に係る措置内容等）.....	134
(7)	騒音規制法.....	135
(8)	振動規制法.....	135

(9) ダイオキシン類対策特別措置法 .....	135
(10) 下水道法・横浜市下水道条例 .....	136
(11) 工業用水法 .....	136
(12) 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 .....	137
(13) 化学物質排出把握管理促進法 .....	137
(14) 横浜市生活環境の保全等に関する条例（申請等） .....	138
(15) 横浜市生活環境の保全等に関する条例（措置内容等） .....	141
4－8 環境管理事業所	
(1) 環境管理事業所の認定状況（2022年度末時点） .....	142
4－9 低公害車の普及促進	
(1) 市内の次世代自動車（EV、PHV、FCV）登録台数 .....	143
4－10 広報物による情報発信	
(1) ガイドラインに基づく取組に関する広報物（2022年度作成） .....	144
4－11 市内に適用される主な環境基準等の概要	
(1) 大気環境 .....	147
ア 大気汚染に係る環境基準	
イ 有害大気汚染物質に係る環境基準	
ウ 有害大気汚染物質に係る指針値	
エ ダイオキシン類の環境基準（大気）	
オ 光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針	
(2) 水環境 .....	149
ア 水質汚濁に係る環境基準	
イ ダイオキシン類の環境基準（水質、水底の底質）	
ウ 水環境目標	
(3) 地盤環境 .....	155
ア 地下水の水質汚濁に係る環境基準	
イ ダイオキシン類の環境基準（土壌）	
ウ 土壌の汚染に係る環境基準	
(4) 音環境 .....	157
ア 騒音に係る環境基準	
イ 新幹線鉄道騒音に係る環境基準	
ウ 新幹線鉄道振動に係る指針	

## 第1章 ガイドラインの概要

## 1-1 生活環境の目指す姿と環境目標等

ガイドラインでは、環境管理計画で定められた目指す姿や環境目標等を踏まえ、生活環境の「目指す姿」を定めるとともに、生活環境の分野ごとの「2025年度までの環境目標」及び「達成の目安となる環境の状況」を設定しています。

表 1-1-1 ガイドラインで定めた目指す姿と生活環境の分野ごとの環境目標等

目指す姿		安全・安心で快適な生活環境の保全
大気環境の 保全	2025年度までの 環境目標	・大気環境が良好に保全され、市民が清浄な大気の中で、健康で快適に暮らしています。
	達成の目安となる 環境の状況	・環境基準の達成率の向上及び継続的な達成 ・光化学スモッグ注意報の発令回数を0にする
水環境の 保全	2025年度までの 環境目標	・水環境が良好に保全され、魚や様々な生き物がすめる川や海で、釣りや水遊び、水辺の散策など市民がふれて楽しんでいます。
	達成の目安となる 環境の状況	・環境基準や水環境目標の達成率の向上及び継続的な達成 ・生物指標による水質評価の目標達成率を100%にする
地盤環境の 保全	2025年度までの 環境目標	・土壌・地下水汚染や地盤沈下による被害がなく、良好な地盤環境が保たれています。
	達成の目安となる 環境の状況	・土壌汚染の拡散や人への健康被害が防止されている ・地下水質に係る環境基準を達成し、汚染の未然防止・拡散防止が行われている ・地下水の過剰な採取などが防止され、地盤への悪影響が生じていない
音環境の 保全	2025年度までの 環境目標	・騒音や振動の環境が改善され、市民生活の快適性が向上しています。
	達成の目安となる 環境の状況	・環境基準の達成率の向上及び継続的な達成 ・市民の生活環境に関する満足度の向上
分野横断の 取組	2025年度までの 環境目標	・大気・水などの環境が良好に保全されるとともに、化学物質などの環境リスクが低減しています。 ・音やにおいなどの環境が改善され、市民生活の快適性が向上しています。 ・市内のあらゆる主体が積極的に生活環境に関する取組を実施しています。
	達成の目安となる 環境の状況	・環境基準や水環境目標の達成率の向上及び継続的な達成 ・光化学スモッグ注意報の発令回数を0にする ・生物指標による水質評価の目標達成率を100%にする ・市民の生活環境に関する満足度の向上 ・生活環境の保全につながる環境行動の推進
市民生活に 関連した取組	2025年度までの 環境目標	・生活環境の改善により、市民が安全・安心を実感して快適に暮らしています。
	達成の目安となる 環境の状況	・市民の生活環境に関する満足度の向上

## 1-2 生活環境の保全にあたっての基本的な方向性と取組概要

ガイドラインでは、環境目標の達成に向けて、生活環境の保全に関する取組を推進するための基本的な方向性を定めています。

これらの方向性に基づく具体的な取組内容や方針については、ガイドライン第2章「生活環境の保全の基盤となる取組」及び第3章「連携による新たな取組の方針」にまとめています。その詳細については、ガイドラインを参照してください。

表 1-2-1 生活環境の保全にあたっての基本的な方向性とその概要

基本的な方向性	概要	
生活環境の保全の基盤となる取組の着実な推進	生活環境の悪化を未然に防止し、良好に維持するために、これまで体系的に取り組んできた典型七公害に関する法令に基づく規制指導、環境監視、苦情相談や環境情報の公表などを着実に推進していきます。	取組内容（ガイドライン第2章） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大気環境の保全</li> <li>・ 水環境の保全</li> <li>・ 地盤環境の保全</li> <li>・ 音環境の保全</li> <li>・ 分野横断の取組</li> <li>・ 市民生活に関連した取組</li> </ul>
連携による新たな取組の推進	「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現を目指す SDGs の考え方を取り入れ、環境・経済・社会をめぐる課題への統合的な解決に向け、事業活動・市民生活などのあらゆる主体間との連携やまちづくり・地球温暖化対策等の施策間との連携による新たな取組を推進していきます。	取組方針（ガイドライン第3章） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策間の課題の同時解決</li> <li>・ 多様な環境課題への対応</li> <li>・ 身近な環境の魅力の向上</li> <li>・ わかりやすい情報発信</li> </ul>

## 1-3 評価・進捗管理・公表

ガイドラインでは、生活環境の分野ごとの2025年度までの環境目標とともに、その達成の目安となる環境の状況を定めています。その達成状況を確認するため、大気環境や水環境等の環境の状況を評価するとともに、ガイドラインに基づく取組の実施状況を取りまとめ、毎年公表することとしています。

本報告書は、これに基づき2022年度実績を取りまとめた年次報告書です。第1章ではガイドラインの概要を説明しています。第2章では「環境目標の達成の目安となる環境の状況」等の評価を行うとともに、「生活環境の保全の基盤となる取組」について、関連事項も含めて実施状況を掲載しています。さらに、第3章では「連携による新たな取組の方針」について、実施状況を掲載しています。最後に、第4章として、各種データをまとめた資料編を掲載しています。





## 第2章 生活環境の保全の基盤となる取組

## 2-1 大気環境の保全

2025年度までの環境目標	・大気環境が良好に保全され、市民が清浄な大気の中で、健康で快適に暮らしています。
達成の目安となる環境の状況	・環境基準の達成率の向上及び継続的な達成 ・光化学スモッグ注意報の発令回数を0にする

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）

- 市内の大気汚染物質濃度の長期的な推移は、多くの項目で改善傾向にあります。しかし、光化学オキシダントは顕著な改善の傾向が見られておらず、全国でも同様の状況です。

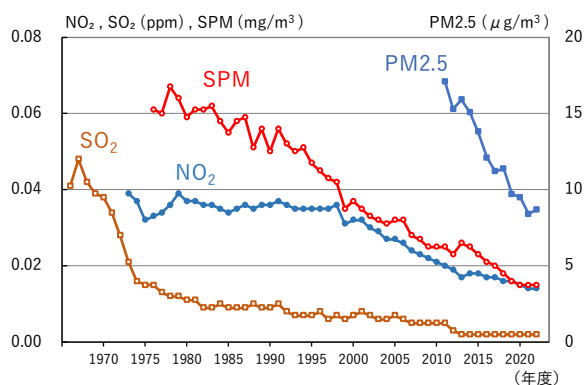


図 2-1-1 大気汚染物質の年平均濃度<sup>※1</sup>の推移

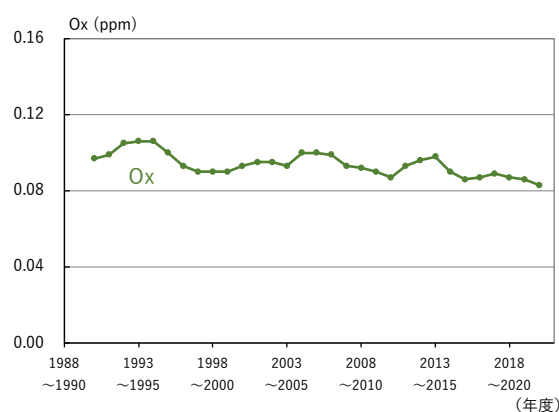


図 2-1-2 光化学オキシダント濃度<sup>※2</sup>の推移

※1 市内の各常時監視測定局の年平均値の全局平均

※2 市内の各一般環境大気測定局の「日最高8時間値の年間99%値の3年移動平均値」の最大値

- 二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）、一酸化炭素（CO）、浮遊粒子状物質（SPM）、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果は、全測定局で環境基準に継続して適合しました。
- 二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）の測定結果は、国が定める環境基準（0.04～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下）に全測定局で継続して適合しました。また、環境管理計画で定めた環境目標値（環境基準の下限值0.04ppm）にも全測定局で2年連続して適合しました。
- 光化学オキシダント（Ox）の測定結果は、全測定局で環境基準（1時間値が0.06ppm以下）に不適合でした。
- 有害大気汚染物質（ベンゼン等4物質）やダイオキシン類の測定結果は、全測定地点で環境基準に継続して適合しました。

- 光化学スモッグ注意報は2回発令されましたが、健康被害の届出はありませんでした。光化学スモッグ警報は1979年以降発令されておらず、重大緊急時警報の発令実績はありません。

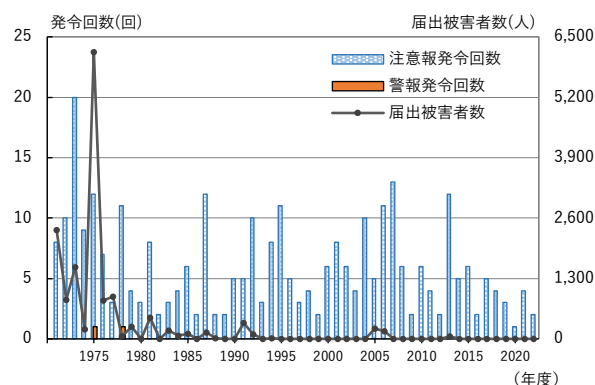


図 2-1-3 光化学スモッグ注意報等の推移

## (2) 2022 年度の主な取組実績

### ア 大気環境の監視

環境基準の適否等の現状把握や大気環境の保全に関する施策の効果を確認するため、大気汚染物質の測定等を実施しています。

#### (ア) 大気汚染物質の測定

市内には一般環境大気測定局（一般局）20局<sup>※</sup>と自動車排出ガス測定局（自排局）8局が設置されています。大気汚染防止法に基づき、二酸化窒素などの大気汚染物質の常時監視を継続して実施しているほか、3箇所の測定局において有害大気汚染物質の測定を毎月1回実施しています。また、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく大気環境中のダイオキシン類の常時監視として2022年度は市内6区（6地点）で年2回の測定を実施しました。このほかに、同様に大気中のアスベスト（石綿）濃度の測定も実施しました。



一般環境大気測定局

一般局における光化学オキシダントの測定結果は、神奈川県知事が光化学スモッグ注意報等を発令する際の判断にも活用されています。

※ 2022年度末に中区加曾台測定局を廃止したため、2023年4月1日以降は19局の一般局で市内の測定を実施しています。

◆ 大気汚染物質の測定結果 ⇒ 「4-1 大気環境の監視」参照

表 2-1-1 光化学スモッグ注意報等の状況

項目	年度別の状況				
	2018	2019	2020	2021	2022
光化学スモッグ警報 発令回数	0	0	0	0	0
光化学スモッグ注意報 発令回数	4	3	1	4	2
健康被害の届出	届出件数	0	0	2	0
	届出被害者数	0	0	2	0

(次頁に表があります)

表 2-1-2 大気汚染物質に係る環境基準の達成状況

項目	年度別の環境基準達成状況 <sup>※1</sup>				
	2018	2019	2020 <sup>※2</sup>	2021 <sup>※2</sup>	2022 <sup>※2</sup>
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	18 / 18	18 / 18	17 / 17	18 / 18	18 / 18
一酸化炭素 (CO)	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
浮遊粒子状物質 (SPM)	28 / 28	28 / 28	26 / 26	27 / 27	27 / 27
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> ) <sup>※3</sup>	14 / 28	27 / 28	24 / 26	27 / 27	27 / 27
光化学オキシダント (Ox)	0 / 19	0 / 19	0 / 18	0 / 19	0 / 19
微小粒子状物質 (PM2.5)	20 / 20	20 / 20	19 / 19	20 / 20	20 / 20

- ※1 分母が測定局数、分子が環境基準達成局数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。
- ※2 測定局数が減少している項目があります（港南区野庭中学校測定局：移転作業のため2020年度の測定を休止、中区加曽台測定局：測定体制の見直しにより2020年度から測定を休止、2022年度末に廃止）。
- ※3 横浜市の環境目標値（環境基準の下限値 0.04ppm）で達成状況を評価しています。国が定める環境基準（0.04～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下）は5年間全ての測定局で達成しています。

表 2-1-3 有害大気汚染物質の環境基準又は指針値の達成状況

項目		年度別の環境基準達成状況等 <sup>※1,※2</sup>					
		2018	2019	2020	2021	2022	
有害大気汚染物質	環境基準	ベンゼン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		トリクロロエチレン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		テトラクロロエチレン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		ジクロロメタン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
	指針値	アクリロニトリル	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		アセトアルデヒド <sup>※3</sup>	—	—	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		塩化ビニルモノマー	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		塩化メチル <sup>※3</sup>	—	—	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		クロロホルム	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		1,2-ジクロロエタン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		水銀及びその化合物	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		ニッケル化合物	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		1,3-ブタジエン	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		ヒ素及びその化合物	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3
		マンガン及びその化合物	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3	3 / 3

- ※1 分母が測定局数、分子が環境基準等の達成局数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。
- ※2 有害大気汚染物質は、毎月1回の測定による年平均値における評価です。
- ※3 アセトアルデヒドと塩化メチルは2020年8月20日に指針値が設定されたため、2020年度以降、評価を行っています。

(次頁に表があります)

表 2-1-4 ダイオキシン類・アスベスト（石綿）の測定状況等

項目	年度別の環境基準達成状況等※1,※2,※3				
	2018	2019	2020	2021	2022
ダイオキシン類	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6
アスベスト	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6

※1 3年間で市内18区を測定する計画で、2022年度は神奈川区、南区、港南区、旭区、金沢区、都筑区です。

※2 分母が測定地点数、分子が環境基準等の達成地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※3 基準達成状況等は、各地点ごとに測定結果の年平均値に対し、ダイオキシン類は環境基準、アスベストは1本/Lにより判定しています。ダイオキシン類の測定頻度は、2019年度は年4回、2018年度は年3回、2020年度以降は年2回です。アスベストの測定頻度は、2019年度までは年4回、2020年度以降は年2回です。

(イ) 光化学スモッグ注意報への対応

⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-イ-(ア)」参照

(ウ) PM2.5の高濃度予報への対応

⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-イ-(イ)」参照

(エ) 光化学オキシダントに関する広域調査

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ア-(ア)」参照

(オ) PM2.5に関する広域調査

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 イ-(ア)」参照

(カ) 空間放射線量の測定

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ウ」参照

(キ) 酸性雨調査

横浜市の降雨における酸性雨発生状況の把握のため、酸性雨の長期モニタリングを実施しており、水素イオン濃度指数（pH）と電気伝導率を測定しています。

2022年度は12回の測定を行い、最も酸性の強い雨のときはpH5.39、最も電気伝導率が高い雨の時には25.40 $\mu$ S/cmを記録しました。

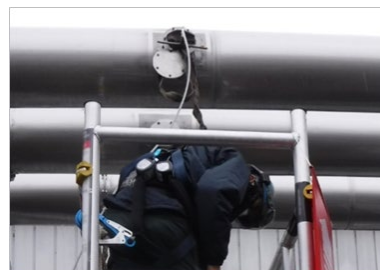
◆ 酸性雨調査の結果について ⇒ 「4-1 大気環境の監視 (9)」参照

## イ 施設・事業所等における大気汚染・悪臭の対策

大気環境を保全するため、大気汚染防止法、悪臭防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び生活環境保全条例に基づき、各法令で定められた施設や事業所に対し、大気汚染や悪臭に係る規制指導を実施しています。

### (ア) 届出指導及び立入検査等

大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び生活環境保全条例に基づく事業所からの届出を受け付けるとともに、事業所が排出基準等を満たすよう必要な指導を行っています。また、排出基準等の遵守状況を確認するため、2022年度は事業所への立入検査を69件行い、ばい煙発生施設等の排出ガスの測定等を実施しました。なお、大気汚染物質の排出規模が大きい市内30事業所については、テレメータシステムにより、その排出状況の常時監視を実施しています。



排出ガス測定の様子  
(煙道からの試料採取)  
※写真の一部を加工しています

◆ 大気汚染防止法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (1),(9),(14)」参照

表 2-1-5 大気汚染防止法等の対象施設数の推移

根拠法令及び対象施設	年度末時点の設置施設数				
	2018	2019	2020	2021	2022
大気汚染防止法					
ばい煙発生施設 <sup>※1</sup>	3,432	3,399	3,392	3,357	3,191
揮発性有機化合物排出施設	19	18	20	20	20
水銀排出施設	36	36	37	37	36
一般粉じん発生施設	610	567	622	610	604
ダイオキシン類対策特別措置法					
特定施設（大気基準適用施設）	67	62	63	63	61
生活環境保全条例					
特定小規模施設					
小規模固定型内燃機関 <sup>※2,※3</sup>	11,173	11,976	11,998	12,064	12,068
小規模焼却炉等	45	47	48	48	48

※1 大気汚染防止法の改正により2022年10月1日から「伝熱面積10m<sup>2</sup>以上かつ燃料の燃焼能力が重油換算50L/h未満のボイラー」がばい煙発生施設の対象外になりました。

※2 「重油換算燃焼能力50L/h未満で定格出力7.5kW以上のガスタービン等」を含みます。

※3 生活環境保全条例の改正により2021年10月1日から特定小規模施設のうち重油換算燃焼能力が10L/h未満のGHP（ガスヒートポンプ）について、設置や廃止等の届出が不要となりました。

### (イ) 大気汚染物質排出量調査

工場・事業場に設置されたばい煙発生施設は、大気汚染防止法や生活環境保全条例に基づくばい煙測定を行うことが義務付けられています。ばい煙発生施設の稼働状況や、法令等に基づく測定回数と排出基準の遵守状況等を確認することを目的として、2022年度は6月に3,488施設を対象として調査を実施しました。

#### (ウ) 光化学オキシダント対策（固定発生源の VOC 排出抑制対策）

光化学オキシダントの環境基準達成に向けて、主要な原因物質の1つである揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制に取り組んでいます。固定発生源への対策として、2022年度は、VOC 排出事業所に対して届出指導や稼働状況調査を行い、3件の立入検査を実施しました。

◆ その他の光化学オキシダント対策について ⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ア」参照

#### (エ) PM2.5 対策

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 イ」参照

#### (オ) 水銀の排出規制

水銀に関する水俣条約の的確かつ円滑な実施を確保するため、大気汚染防止法に基づき、水銀の大気排出規制が施行されています。水銀排出施設を設置している事業所に対し、届出指導を行うとともに、2022年度は1件の立入検査を実施しました。また、全ての水銀排出施設を対象として、水銀濃度の測定結果等の報告を求める水銀濃度測定結果等調査を行っています。本調査の結果は、水銀等の大気中への排出状況の把握等のため、環境省へ報告しています。

#### (カ) ダイオキシン類対策

⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-イ-(エ)」参照

### ウ 自動車の排出ガス対策

自動車から排出される窒素酸化物や粒子状物質の削減に向けた取組を実施しています。また、神奈川県や近隣自治体とともに九都県市首脳会議、神奈川県公害防止推進協議会、かながわエコドライブ推進協議会などの広域的な連携組織による取組を行っています。

◆ 九都県市首脳会議について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(キ)」参照

◆ 神奈川県公害防止推進協議会について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(ケ)」参照

#### (ア) ディーゼル車の運行規制

神奈川県内では県条例に基づき、2003年10月から粒子状物質の排出基準を満たさないディーゼル車の運行が禁止されています※。違反車両が走行していないかを確認するため、2022年度はビデオ撮影による検査を4回実施するとともに、警察等と連携して路上検査を1回行いました。

また、九都県市首脳会議大気保全専門部会では10月を強化月間と位置付け、九都県市で連携した取組を実施しています。2022年度は、サービスエリアやパーキングエリアへの電子公告等の掲示、運送事業者の機関誌への啓発記事の掲載等の周知活動を行いました。なお、例年実施している車両検査は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施しませんでした。

※ 東京都、埼玉県及び千葉県においても、ディーゼル車に関する同様の規制を条例で定めています。



路上検査の様子  
※写真の一部を加工しています



#### (イ) 低公害車の普及促進

九都県市首脳会議大気保全専門部会による広域的な取組として、窒素酸化物等の排出量が少ない低公害な自動車を指定し、その普及促進を図っています。2022年度は、新たに12社347型式の掲載申込<sup>※1</sup>があり、九都県市指定低公害車に追加されました。

横浜市では、大気汚染対策に加えて、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出削減にも寄与するEV（電気自動車）やFCV（燃料電池自動車）等の次世代自動車の普及啓発を進めています。2022年度の市内の次世代自動車登録台数は11,764台（特種（殊）車を除く）となりました。次世代自動車の普及促進の取組として、FCV導入補助、集合住宅向け電気自動車等<sup>※2</sup>充電設備設置補助、V2H充放電設備<sup>※3</sup>設置補助、水素ステーション設置補助を継続して実施しました。

公用車への次世代自動車等<sup>※4</sup>の導入も進めており、2022年度は52台増加しました。公用車全体の21.5%（790台）を次世代自動車等が占めています。特に普及の初期段階にあるFCV（乗用車）は累計23台を公用車に導入しており、公務に積極的に活用しています。



次世代自動車展示会

また、2022年11月に各自動車メーカー・販売店計12者と次世代自動車の普及啓発に係る連携協定を新たに締結しました<sup>※5</sup>。協定事業者と連携した取組として、試乗会イベントなどを行い、次世代自動車のPR等に取り組みました。

※1 九都県市指定低公害車には、①選考審査を経て指定するもの、②掲載申込を受理するもの（電気自動車や国土交通省の低排出ガス認定車等のうち、申し込まれたものを九都県市指定低公害車として扱う）があります。

※2 EVとPHV（プラグインハイブリッド自動車）を「電気自動車等」としています。

※3 「V2H充放電設備」とは、電気自動車等への充電だけでなく、電気自動車等から建物へ給電することができる設備です。V2Hは「Vehicle to Home」の略です。

※4 FCV、EV、PHV及びHV（ハイブリッド自動車）を「次世代自動車等」としています。

※5 燃料電池自動車普及啓発に係る協定（2020年12月16日締結）は2022年3月31日に協定期間を満了しました。

◆ 市内の低公害車の登録台数 ⇒ 「4-9 低公害車の普及促進 (1)」参照

表 2-1-6 次世代自動車の普及促進に係る事業の実績

事業	単位	年度別実績				
		2018	2019	2020	2021	2022
市民・事業者へのFCV導入促進補助	件数	16	12	34	22	19
集合住宅向け電気自動車等充電設備の設置補助	基数	—	—	6	11	33
V2H充放電設備の設置補助	基数	—	—	—	19	42
水素ステーションの設置補助	件数	0	0	1	0	0
公用車へのFCV（乗用車）導入	台数	3	3	3	3	1
FCV公用車のイベント出展	回数	21	20	11	12	11

#### (ウ) エコドライブの促進

環境に配慮した運転「エコドライブ」の普及促進のため、環境イベント（11回）で啓発グッズの配布を実施しました。



## エ 解体等工事におけるアスベスト（石綿）の飛散防止対策

アスベストを含む建材を使用した建築物等の解体・改造補修作業を伴う建設工事のうち、大気汚染防止法又は生活環境保全条例に定められた作業に対し、アスベストの飛散防止を目的とした規制指導を実施しています。

### (ア) 届出指導及び立入検査

大気汚染防止法又は生活環境保全条例で定められた作業に係る届出を受け付けるとともに、作業基準等を満たすよう必要な指導を行っています。届出受付後は、作業中の現場への立入検査を適宜実施することにより作業基準等の遵守状況を確認しており、2022年度は64件の立入検査を行いました。作業完了の届出が提出された際には、届出に添付された作業記録やアスベスト（石綿）濃度測定記録等により、作業が適切に行われたことを確認しています。



立入検査の様子  
(デジタル粉じん計による確認)

届出の対象外となる解体等工事については、アスベスト（石綿）含有建材の事前調査結果の報告や他法令の届出情報をもとに立入検査を実施しており、2022年度は237件の立入検査を行い、事前調査や作業の実施状況及び看板の設置状況等が適正かを確認しました。

◆ 大気汚染防止法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (1),(14)」参照

表 2-1-7 石綿排出作業等の届出件数

根拠	届出種類	年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
法	特定粉じん排出等作業（開始）	251	273	317	147	232
条例	特定粉じん排出等作業（完了）	257	264	316	177	203
	石綿排出作業（開始）	19	18	21	27	35
	石綿排出作業（完了）	14	22	15	27	23

表 2-1-8 解体等工事における事前調査結果の報告件数

根拠	分類	年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
法	解体等工事※1	-	-	-	-	21,761
	石綿含有建材を含む工事 （作業基準適用）※2	-	-	-	-	9,953
	法に基づく届出対象の工事※2	-	-	-	-	267

※1 大気汚染防止法の改正により2022年4月1日から、一定規模以上の解体等工事（建築物等を解体、改造又は補修する作業を伴う建設工事）を実施する際、アスベスト（石綿）の有無によらず、自治体への事前調査結果の報告が義務化されました。

※2 解体等工事に係る報告のうち、表に示した各工事に当たる件数を内数として記載しています。

#### (イ) 市民相談への対応

市民からの通報等により、周知看板の未掲示や掲示内容への疑義が指摘された場合は、届出の有無を確認するとともに、立入検査を行い、適切な作業の実施や周知看板等の確認を行っています。その際、状況によっては環境測定を行いアスベスト（石綿）の飛散の有無を確認しています。

#### (ウ) アスベスト（石綿）対策の推進

建築物等の解体等工事における石綿の飛散を防止するため、2020年6月に大気汚染防止法が改正され、2021年4月以降、段階的に施行されています。2022年4月1日から、一定規模以上の解体等工事を実施する際、アスベスト（石綿）の有無によらず、事前調査結果を自治体へ報告することが義務化されました。また、2023年10月1日から、資格者等による事前調査の実施が義務付けられます。

これらの新たな制度を円滑に運用するため、業界団体に対して会員への周知を依頼するとともに、事業者等へのリーフレット配布などを行っています。



制度周知のためのリーフレット

#### (イ) 関係機関と連携した災害対策

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 キ」参照

## 2-2 水環境の保全

2025 年度までの環境目標	・水環境が良好に保全され、魚や様々な生き物がすめる川や海で、釣りや水遊び、水辺の散策など市民がふれて楽しんでいます。
達成の目安となる環境の状況	・環境基準や水環境目標の達成率の向上及び継続的な達成 ・生物指標による水質評価の目標達成率を 100%にする

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022 年度）

- 河川の有機性汚濁の指標である生物化学的酸素要求量（BOD）の年平均濃度は、長期的に見て改善傾向にあり、近年も低濃度で推移しています。また、海域の有機性汚濁の指標である化学的酸素要求量（COD）の年平均濃度は長期的に横ばいとなっていますが、富栄養化に関与する全窒素や全りんものの年平均濃度は長期的に見て改善傾向にあります。

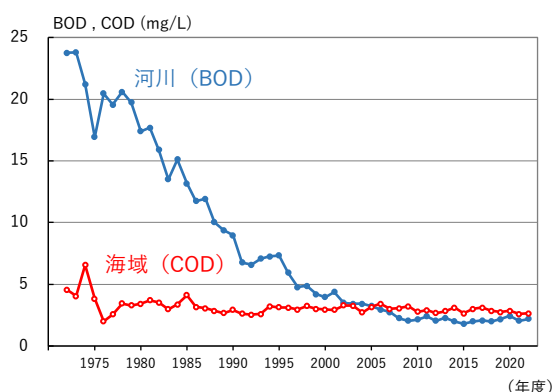


図 2-2-1 BOD・COD の濃度※の推移

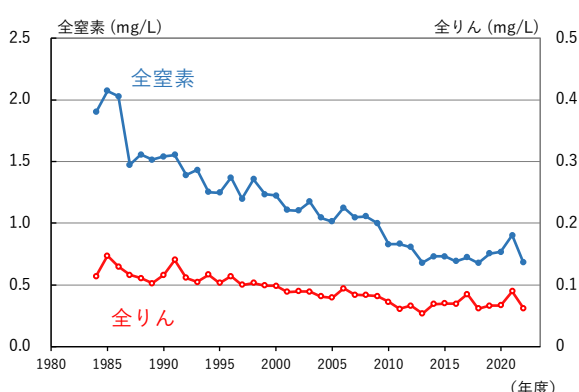


図 2-2-2 海域の全窒素・全りんの濃度※の推移

※ 市内の各測定地点の年平均値の全地点平均（河川の測定地点には国土交通省又は大和市が測定している地点を含む）

- カドミウムなど、人の健康の保護に関する環境基準が設定されている項目（健康項目）の測定結果は、全測定地点で環境基準に継続して適合しました。
- BOD や COD など、生活環境の保全に関する環境基準が設定されている項目（生活環境項目）の測定結果は、河川・海域ともに一部の項目・測定地点で環境基準に適合していない状況です。
- ダイオキシン類（水質、水底の底質）の測定結果は、全測定地点で環境基準に継続して適合しました。この調査は河川と海域を隔年で実施しており、2022 年度は海域の調査を行いました。
- 横浜市水と緑の基本計画（2016 年 6 月改定）で定めた水環境目標の達成状況について、BOD は河川 35 地点で調査を行い、31 地点で達成しました。COD は海域 8 地点で調査を行い、1 地点で達成となりました。
- 生物指標による水質評価では、河川（2022 年度冬季調査）の目標達成率は 86.8%（38 地点中 33 地点で達成）でした。なお、生物指標調査は河川と海域を交互に 2 年間ずつ実施しています。

## (2) 2022 年度の主な取組実績

### ア 水環境の監視

環境基準の達成状況等の現状把握や水環境の保全に関する施策の効果を確認するため、公共用水域（河川・海域）において水質測定等を実施しています。

#### (ア) 公共用水域の水質測定

水質汚濁防止法に基づき神奈川県が定めた「公共用水域及び地下水の水質測定計画（2022年3月）」により、市内河川21地点、海域7地点において、環境基準が設定されている項目など67項目の水質測定を実施しています。また、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく水環境中のダイオキシン類の常時監視として、水質及び底質中のダイオキシン類の測定を実施しています。この測定は河川と海域を隔年で実施しており、2022年度は海域6地点で測定を実施しました。



河川調査（橋の上から採水）の様子  
※写真の一部を加工しています

◆ 公共用水域の水質測定の結果等 ⇒ 「4-2 水環境の監視 (1)~(4)」参照

表 2-2-1 水質汚濁に係る環境基準（主な生活環境項目）の達成状況※1,※2

項目		年度別の環境基準達成状況※3				
		2018	2019	2020	2021	2022
河川※4	BOD	20 / 21	20 / 21	20 / 21	19 / 21	19 / 21
海域	COD	5 / 7	6 / 7	4 / 7	6 / 7	6 / 7
	全窒素	6 / 7	6 / 7	6 / 7	4 / 7	6 / 7
	全りん	5 / 7	4 / 7	5 / 7	3 / 7	6 / 7

※1 健康項目は全項目全地点で環境基準を達成しています。

※2 その他の生活環境項目や健康項目の詳細な達成状況は「4-2 水環境の監視」を参照してください。

※3 分母が測定地点数、分子が環境基準達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※4 河川21地点には国土交通省又は大和市が測定している地点を含みます。

表 2-2-2 ダイオキシン類の環境基準達成状況

項目		年度別の環境基準達成状況※1				
		2018	2019	2020	2021	2022
河川※2	水質	—	6 / 6	—	6 / 6	—
	底質	—	6 / 6	—	6 / 6	—
海域※2	水質	6 / 6	—	6 / 6	—	6 / 6
	底質	6 / 6	—	6 / 6	—	6 / 6

※1 分母が測定地点数、分子が環境基準達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※2 河川及び海域の調査を隔年で実施しています。

#### (イ) 横浜市水と緑の基本計画に基づく調査

横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）では、横浜らしい水・緑環境の実現に向けて、生物の生息状況や有機性汚濁物質（BOD、COD）等を水環境目標として設定しています。この達成状況を把握するため、生物指標については、河川と海域の調査を交互に2年間ずつ実施しています。また、有機性汚濁物質（BOD、COD）等については、各水域の評価地点において計画的に調査を実施しています。

2022年度は、河川の生物指標に係る調査を行うとともに、境川・柏尾川水系と海域を主な対象として水質調査を行いました。



水質階級「大変きれい」の生物指標  
アブラハヤ

◆ 水環境目標に係る測定結果等 ⇒ 「4-2 水環境の監視 (5)~(7)」参照

表 2-2-3 水環境目標の達成状況

項目		年度別の水環境目標達成状況※1				
		2018	2019	2020	2021	2022
河川	生物指標による水質評価※2	35 / 38		—		33 / 38
	BOD※3	34 / 38	31 / 35	25 / 35	33 / 38	31 / 35
	ふん便性大腸菌群数※3	8 / 17	6 / 18	4 / 16	11 / 17	2 / 18
海域	生物指標による水質評価※2	—		10 / 10		—
	COD	0 / 8	1 / 8	0 / 8	1 / 8	1 / 8
	全窒素	3 / 8	3 / 8	3 / 8	1 / 8	3 / 8
	全りん	2 / 8	1 / 8	2 / 8	1 / 8	3 / 8
	ふん便性大腸菌群数※4	—	—	1 / 2	—	—

※1 分母が調査地点数、分子が水環境目標達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※2 生物指標に係る調査は、河川と海域を交互に2年間ずつ実施する計画です。2022年度の河川の生物指標による水質評価の結果欄には、2022年度冬季調査の結果を記載しています。

※3 河川のBOD及びふん便性大腸菌群数の調査は3年間で市内全域を測定する計画です。2020年度は鶴見川水系、2021年度は帷子川・大岡川水系、2022年度は境川・柏尾川水系が主な調査対象です。

※4 海域のふん便性大腸菌群数の調査は3年に1回実施する計画です。

#### (ウ) 東京湾環境一斉調査

東京湾環境一斉調査は、東京湾再生推進会議モニタリング分科会、九都県市首脳会議水質改善専門部会、東京湾岸自治体環境保全会議、東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチームの主催により毎年度継続して実施しているもので、東京湾再生への関心を醸成するとともに、東京湾とその関係する陸域の水質環境の把握と汚濁メカニズムの解明等を目的とし、国や自治体のほか、大学・研究機関、事業者、市民団体等の多様な主体が参加して行われているものです。2022年度の調査では、横浜市のほか



東京湾環境一斉調査イメージ  
(測定)



市内 16 事業所が参加しました。

底生生物の生息・再生産にとって特に重要な要素の一つである「底層溶存酸素量（底層 DO）」については、湾中央から湾奥部で 3.0 mg/L を下回る貧酸素水塊が観測されました。有機物による水質汚濁の程度を示す「化学的酸素要求量（COD）」については、表層、中層、底層のいずれにおいても湾中央から湾口部に向かうにしたがい低下する傾向が見られました。

#### (エ) 東京湾底質調査

九都県市首脳会議水質改善専門部会の取組として、東京湾の底層水域環境の実態を把握し、底質改善対策等の効果を検証するための調査を毎年度継続して実施しています。2022 年度の調査でも、東京湾の底質、底層水の溶存酸素、底生生物等の状況について、横浜市を含む 5 自治体が調査しました。化学的酸素要求量（COD）、全りん及び全硫化物については、項目・地点により傾向は様々ですが、東京湾全体としては、ほぼ横ばい状態であることが分かりました。

横浜市内の海域については、夏季に 4 地点で調査を行いました。その結果、底質環境の評価指標である環境保全度に関して 2 地点が環境保全度 I（低評価区分）以下であり、現在の横浜市内の海域の底質環境はあまり良好ではないことが示されました。なお、湾代表値<sup>※</sup>の推移を見ると、東京湾全体の底質は長期的には改善傾向となっています。

※「湾代表値」とは、東京湾全体の底質の経年推移を評価するために 2021 年度から用いている指標で、底生生物の出現種類数等から算出する評点を用い、底質評価年度から過去 6 年分の各調査地点における評価合計の総得点を、同年度分の延べ評価地点数で割って算出した値です。

◆九都県市首脳会議について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(キ)」参照

#### (オ) マイクロプラスチックへの対応

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 エ」参照

### イ 事業所等から公共用水域への排水水対策

公共用水域の水質を保全するため、水質汚濁防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び生活環境保全条例に基づき、各法令で定められた事業所に対し、公共用水域への排水水に係る規制指導を実施しています。

#### (ア) 届出指導及び立入検査

水質汚濁防止法、ダイオキシン類対策特別措置法及び生活環境保全条例に基づく事業所からの届出を受け付けるとともに、事業所が公共用水域への排水基準を満たすよう必要な指導を行っています。また、排水基準の遵守状況を確認するため、2022 年度は事業所への立入検査を 258 件実施しました。立入検査では、事業所から公共用水域への排水水を採取し、排水中の有害物質等の濃度測定を実施しました。



事業所への立入検査の様子  
※写真の一部を加工しています

◆水質汚濁防止法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (2),(9),(14)」参照

(次頁に表があります)

表 2-2-4 水質汚濁防止法等の対象事業場数の推移

根拠法令及び対象事業場	年度末時点の事業場数				
	2018	2019	2020	2021	2022
水質汚濁防止法					
特定事業場 <sup>※2</sup>	1,667	1,661	1,479	1,481	1,403
ダイオキシン類対策特別措置法					
特定事業場（水質）	14	14	14	14	14
生活環境保全条例					
建設工事排水 <sup>※1</sup>	11	7	4	8	11

※1 各年度に届出された対象工事の数です。

※2 2020年度末の特定事業場数は、特定事業場の廃止状態確認調査を実施したため減少しています。

#### (イ) 富栄養化対策（総量規制）

東京湾は閉鎖性水域であることから流入排水による富栄養化が課題となっており、その改善を進めるため、化学的酸素要求量（COD）、窒素含有量、りん含有量について、水質汚濁防止法に基づく総量規制が導入されています。2022年度末時点で68事業場がその対象となっており、そのうち排水量の多い37事業場は自動計測器による常時測定を行っています。常時測定を行っている事業場への立入調査は31件実施し、自動計測器の維持管理状況などの確認を行いました。

また、発生源別の発生負荷量及び東京湾への流入負荷量を経年的に把握することを目的として発生負荷量調査を行っています。2021年度実績では、神奈川県から東京湾に流入するCOD負荷量は21トン/日、窒素含有量は26トン/日、りん含有量は1.7トン/日でした。

なお、2022年1月24日に国が策定した第9次総量削減基本方針に基づき、2022年11月4日に神奈川県が総量削減基本計画を策定しました。今後は当該計画に基づき対策を進めていきます。

#### (ウ) 排水基準の見直し（公共用水域）

水質汚濁に係る環境基準の見直し<sup>※1</sup>を踏まえ、それら物質に係る水質汚濁防止法に基づく排水等の規制基準について、国が見直しの検討<sup>※2</sup>を進めています。生活環境保全条例においても、法と同時期に同様の見直しができるよう国の動向を注視しています。

※1 2022年4月1日から、六価クロムの環境基準が「0.05 mg/L 以下」から「0.02 mg/L 以下」に変更されました。また、同日に大腸菌群数の環境基準が削除され、大腸菌数の環境基準が追加されました。

※2 2022年3月10日、環境省から中央環境審議会に対し、六価クロムと大腸菌群数の水質汚濁防止法に基づく排水基準の見直しについて諮問されました。

#### (エ) 暫定排水基準の見直し（公共用水域）

生活環境保全条例では公共用水域への排水の基準を設けており、直ちに達成することが困難な一部の業種については、施行規則で暫定基準を定めています。これは、水質汚濁防止法に基づく排水基準に関する暫定措置を受けたもので、同法の改正に伴い、同条例の措置も見直しています。

温泉を利用する事業所に限って適用されていた、ほう素及びその化合物・ふっ素及びその化合物の暫定排水基準は、2022年6月30日に適用期限を迎え、一般排水基準に移行しました。

2022年度末時点で、生活環境保全条例に基づく暫定排水基準は定められていません。

#### (オ) 建設工事排水に対する規制

建設工事により発生する排水を公共用水域に排出する場合、生活環境保全条例の規制遵守が求められます。2022年度は11件の届出があり、工事現場7件の立入調査を実施し、工事現場での排水処理施設が適正に管理されていることを確認しました。

#### (カ) ゴルフ場の農薬対策

⇒「2-5 分野横断の取組 (2)-イ-(オ)」参照

#### (キ) ダイオキシン類対策

⇒「2-5 分野横断の取組 (2)-イ-(エ)」参照

### ウ 水再生センターへの流入水対策

下水道施設の保護と水再生センターの放流先の公共用水域の水質保全のため、下水道法及び横浜市下水道条例に基づき、各法令で定められた事業所に対し、公共下水道への排出水に係る規制指導を実施しています。

#### (ア) 届出指導及び立入検査

下水道法及び横浜市下水道条例に基づく事業所からの届出を受け付けるとともに、事業所が公共下水道への排水基準を満たすよう必要な指導を行っています。また、排水基準の遵守状況を確認するため、2022年度は事業所への立入検査を532件実施しました。立入検査では、事業所から公共下水道への排出水採取し、排水中の有害物質等の濃度測定を実施しました。

◆ 下水道法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (10)」参照

表 2-2-5 下水道法・横浜市下水道条例の対象事業場数の推移

対象事業場		年度末時点の事業場数				
		2018	2019	2020	2021	2022
届出事業場数		3,253	3,267	3,184	3,155	3,138
内訳	特定事業場 <sup>※1,※3</sup>	2,456	2,457	2,368	2,349	2,326
	その他 <sup>※2</sup>	797	810	816	806	812

※1 下水道法の特定事業場は水質汚濁防止法の特定事業場と一部重複します。

※2 下水道法及び横浜市下水道条例に基づく届出事業場のうち、特定事業場を除いた事業場です。

※3 2020年度以降の特定事業場数は、住宅宿泊事業の用に供するちゅう房施設等が特定施設から除外されたことにより減少しています。

#### (イ) 除害施設等管理責任者資格認定講習

横浜市下水道条例の規定により、市内の下水道処理区域内で工場排水等を処理する施設（除害施設等）を設置するときは、その維持管理を適切に行うために除害施設等管理責任者を選任する必要があります。その資格を認定するための講習を毎年度実施しています。

2022年度は、YouTubeによる動画配信と横浜市電子申請・届出システムを利用して効果測定を行うオンライン形式により、7月と1月から2月に開催しました。A種（全ての除害施設等）の講習で219名、B種（含油（鉱物油）排水に係る除害施設等）の講習で143名が修了しました。



#### (ウ) 除害施設等維持管理講習会

除害施設等管理責任者や有害物質を取り扱っている事業者を主な対象として、除害施設等の適切な維持管理を啓発するための講習会を毎年度実施しています。

2022年度は、YouTubeによる動画配信と横浜市電子申請・届出システムによる受講確認を利用したオンライン形式で11月から12月に開催し、362名が受講しました。下水道の規制の概要や2021年度の事業場立入検査結果、排水処理施設の維持管理などの講習動画を配信しました。

#### (エ) 異常流入等への対応

2022年度は水再生センターへの異常流入等の水質事故が3件発生しました。異常流入発生時には、下水道施設の被害軽減や原因者の特定を目的として、事業場への立入検査等を実施しています。また、異常流入を未然に防止するため、公共下水道のマンホールで採水を行い、一定の区域にある事業場からの排水を調査する取組（広域監視）も行っています。

#### (オ) 事故防止の啓発

公共下水道への有害物質等の流出事故を未然に防止するため、2022年度は、有害物質等を使用している事業場や排水多い事業場などの立入検査の際に注意喚起を行いました。

### エ 水質事故への対応

公共用水域で確認された水質事故について、事故の収束を図るため、迅速な現地調査等により対応しています。また、チラシ配布による注意喚起等を行い、事故の未然防止に努めています。

#### (ア) 水質事故の発生状況に応じた対応

2022年度は着色や油浮遊等の公共用水域での水質事故が73件発生しました。土木事務所などの関係機関と連携して現地調査を行い、状況に応じて水質調査や汚染物等の回収を行いました。原因者の特定ができた案件については、適正な排水方法の指導等を実施しました。

◆ 水質事故の発生源別件数等 ⇒ 「4-6 生活環境に関する苦情相談及び水質事故(3)」参照

表 2-2-6 市内で発生した水質事故の件数

事故種別	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
着色	54	28	40	38	46
油浮遊	25	28	30	16	22
魚浮上	5	6	4	3	5
その他	0	1	0	0	0

#### (イ) 未然防止のための取組

水質事故の未然防止のため、2022年度は、塗装団体など業界団体へのチラシの配布による啓発を実施しました。

## 2-3 地盤環境の保全

2025年度までの環境目標	・土壌・地下水汚染や地盤沈下による被害がなく、良好な地盤環境が保たれています。
達成の目安となる環境の状況	・土壌汚染の拡散や人への健康被害が防止されている ・地下水質に係る環境基準を達成し、汚染の未然防止・拡散防止が行われている ・地下水の過剰な採取などが防止され、地盤への悪影響が生じていない

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）

- 地下水質の概況調査の環境基準達成率は、概ね高い値で推移しています。

#### ※概況調査

長期的な経年変化を調べる「定点調査」と、市内を2km又は4kmのメッシュ（2013年度までは1kmメッシュ、2014年度から2021年度までは2kmメッシュ）に区切り、複数年で市内全体を調べる「メッシュ調査」で構成される調査です。

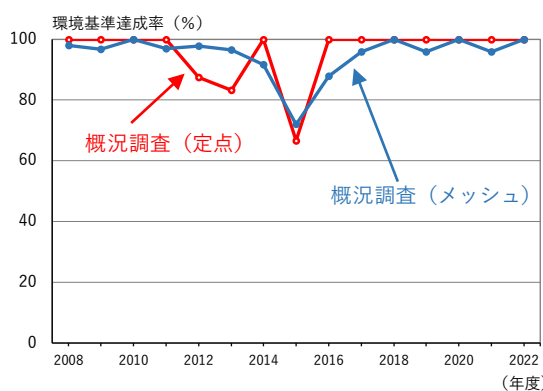


図 2-3-1 地下水質の概況調査の環境基準達成率の推移

- 土壌汚染の拡散や人への健康被害の防止のため、土壌汚染対策法や生活環境保全条例に基づき、土壌汚染が確認された区域の指定など、適正な規制指導を実施しています。
- 地下水質の概況調査の結果は、定点調査では全項目で環境基準に継続して適合し、2022年度はメッシュ調査も全項目で環境基準に適合しました。また、継続監視調査や汚染井戸に関する調査では、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、テトラクロロエチレン等の項目で不適合となる地点がありました。
- ダイオキシン類（地下水、土壌）の測定結果は、全測定地点で環境基準に継続して適合しました。
- 地下水汚染の未然防止や拡散防止のため、水質汚濁防止法や生活環境保全条例に基づき、有害物質等の地下浸透防止など、適正な規制指導を実施しています。
- 地下水の過剰な採取等による地盤沈下防止のため、工業用水法や生活環境保全条例に基づき、揚水施設等に対する規制指導を実施しています。
- 地盤沈下の状況について、精密水準測量の結果は、最大沈下量 6.0mm でした。また、地盤沈下にかかわる被害報告はありませんでした。

## (2) 2022 年度の主な取組実績

### ア 地盤環境の監視

環境基準の達成状況等の現状把握や地盤環境の保全に関する施策の効果を確認するため、地下水の水質測定を実施しています。また、地下水及び土壌中のダイオキシン類や、地盤沈下の継続的な監視も実施しています。

#### (ア) 地下水質等の測定

水質汚濁防止法に基づき神奈川県が定めた「公共用水域及び地下水の水質測定計画（2022年3月）」により、市内の地下水の調査を実施しています。調査は、全体的な地下水質の状況を把握するための概況調査（定点調査、メッシュ調査）、概況調査により新たに判明した汚染範囲の確認等を目的とした汚染井戸周辺地区調査、過去の概況調査で汚染が確認された地点の継続的な監視を行うための継続監視調査の3種類があり、原則として毎年1回の水質測定を行っています。このほかの取組として、過去の横浜市の調査等で汚染が確認された地点の継続的な監視のため、汚染井戸の監視・追跡調査を毎年1回行っています。2022年度は、概況調査26地点（定点調査6地点、メッシュ調査20地点）、継続監視調査18地点、汚染井戸監視・追跡調査23地点で実施しました。なお、汚染井戸周辺地区は、対象井戸がなかったため実施しませんでした。

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視では、地下水及び土壌中のダイオキシン類の測定を実施しており、2022年度は地下水6地点、土壌10地点で調査を行いました。

◆ 地下水質等の測定結果 ⇒ 「4-3 地盤環境の監視 (1),(2)」参照

表 2-3-1 地下水質の環境基準達成状況等

項目	年度別の環境基準達成状況等 <sup>※1</sup>				
	2018	2019	2020	2021	2022
概況調査（定点）	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6
概況調査（メッシュ）	23 / 23	24 / 25	25 / 25	24 / 25	20 / 20
継続監視調査	12 / 24	7 / 23	8 / 21	5 / 19	6 / 18
汚染井戸周辺地区調査	— <sup>※2</sup>	3 / 4	— <sup>※2</sup>	3 / 4	— <sup>※2</sup>
汚染井戸監視・追跡調査	23 / 33	21 / 29	17 / 27	18 / 27	13 / 23

※1 分母が地点数、分子が環境基準達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※2 汚染井戸周辺地区調査は、概況調査において環境基準を超える汚染が新たに判明した場合又は継続監視調査で高濃度の汚染が認められた場合に実施する調査のため、対象井戸がない年度は実施していません。

表 2-3-2 ダイオキシン類の環境基準達成状況

項目	年度別の環境基準達成状況 <sup>※1</sup>				
	2018	2019	2020	2021	2022
地下水	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6	6 / 6
土壌	10 / 10	10 / 10	10 / 10	10 / 10	10 / 10

※1 分母が地点数、分子が環境基準達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

(イ) 精密水準測量による地盤沈下の監視

地盤沈下の状況を把握するため、横浜市域のうち、主に軟弱地盤である沖積低地（171.90km<sup>2</sup>）を調査対象地域として、精密水準測量を実施しています。2022年度は118地点（延長136km、国土地理院測量の47kmを含む。）で測量を実施しました。前年度と比較できる118地点のうち、沈下が確認されたものは21地点であり、最大沈下量は港北区で観測した6.0mmでした。また、隆起が94地点で確認されました。

◆ 精密水準測量の結果 ⇒ 「4-3 地盤環境の監視 (3)」参照

表 2-3-3 沈下点数と年間最大沈下量の推移

項目	年度別調査結果				
	2018	2019	2020	2021	2022
20mm以上の沈下点数/調査水準点数	0 / 99	0 / 97	0 / 98	0 / 97	0 / 118
年間最大沈下量 (mm)	-12.8	-0.1	-7.6	-13.0	-6.0
最大沈下量を記録した区	栄区	神奈川区	栄区	栄区	港北区

(ウ) 地下水位観測等による地盤沈下の監視

軟弱地盤地域における地盤沈下の防止を目的として、10地点の地下水観測井で地下水位を継続して観測しています。また、このうち7地点では地盤変動の観測も実施しています。

2022年度の調査結果では、地下水位変化が最も大きかった地点は都筑区佐江戸公園の1.00mでした。また、地盤の変動が最も大きかった地点は都筑区佐江戸公園の1.80mmでした。

◆ 地下水位、地盤変動の観測地点と観測結果 ⇒ 「4-3 地盤環境の監視 (4)」参照

イ 土壌汚染対策

土壌汚染の状況を把握し、土壌汚染による人の健康への影響を防止するため、土壌汚染対策法及び生活環境保全条例に基づき、土壌汚染の可能性のある土地の土壌調査、土壌汚染が認められた場合の適正な土地の管理等に係る規制指導を実施しています。

(ア) 土壌調査

有害物質の使用等が行われていた事業所を廃止するときや、そのような事業所が過去に存在していた土地で形質変更を行おうとするときは、その土地の所有者に対し、土壌調査を実施するよう義務付けています。

2022年度は土壌汚染対策法に基づく土壌調査の報告は54件、生活環境保全条例に基づく土壌調査の報告は36件ありました。

◆ 土壌調査に関する報告書等の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (3),(14)」参照

表 2-3-4-(1) 土壌調査に係る調査報告書等の受付件数

根拠法令及び報告書等	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染対策法					
土壌汚染状況調査結果報告書（廃止時）	13	24	6	10	10
土壌汚染状況調査結果報告書（形質の変更時）	9	28	20	30	38
指定の申請書（自主的な調査）	9	4	4	5	6

(次頁に表があります)

表 2-3-4-(2) 土壌調査に係る調査報告書等の受付件数

根拠法令及び報告書等	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
生活環境保全条例					
特定有害物質					
条例土壌汚染状況調査結果報告書（廃止時）	19	19	6	15	9
条例土壌汚染状況調査結果報告書（形質の変更時）	31	17	33	36	26
ダイオキシン類					
条例土壌汚染状況調査結果報告書（廃止時）	2	1	1	2	1
条例土壌汚染状況調査結果報告書（形質の変更時）	13	9	8	7	0

(イ) 土壌汚染が確認された区域の指定

土壌調査により土壌汚染が認められると、人への健康被害が生じるおそれがある場合は、要措置区域に指定し、健康被害が生じるおそれがない場合は、形質変更時要届出区域に指定し、横浜市ウェブサイト等で公表します。

要措置区域に指定された場合は、土地の形質の変更（掘削等）が原則として禁止され、汚染の除去等の措置が必要となります。形質変更時要届出区域に指定された場合は、土地の形質の変更時に事前の届出や、汚染土壌を区域外へ飛散等させないための適切な維持管理が必要となります。

2023年3月31日現在で、土壌汚染対策法又は生活環境保全条例に基づき、土壌汚染で指定されている区域の合計は137件です。

また、2022年度は、区域の指定前や区域の形質変更時等に立入調査を80件実施しました。

◆ 土壌汚染が確認された土地の公表 ⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-イ-(ク)」参照

◆ 区域の指定に関する届出書等の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (3),(14)」参照

表 2-3-5 要措置区域等の指定の推移

根拠法令及び区域等	年度末時点での件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染対策法					
要措置区域 ※1	2	3	3	2	2
指定 / 解除 ※2	0 / 1	1 / 0	0 / 0	0 / 1	0 / 0
形質変更時要届出区域 ※1	103	114	120	126	135
指定 / 解除 ※2	15 / 6	16 / 5	12 / 6	13 / 7	12 / 3
生活環境保全条例					
条例要措置区域 ※1	0	0	0	0	0
指定 / 解除 ※2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
条例形質変更時要届出区域 ※1	20	23	27	32	33
指定 / 解除 ※2	10 / 3	9 / 6	6 / 2	7 / 2	4 / 3

※1 指定番号（要措置区域等として一定の範囲を指定する際に付ける番号。例：指-○）が付けられた区域の数を集計しています。

※2 各区域の新規指定又は全部解除の件数を集計しており、指定の一部解除は含んでいません。

(ウ) 土壌汚染が確認された区域における措置等

要措置区域では、人への健康被害が生じるおそれがあることから、汚染の除去等の措置が義務付けられています。形質変更時要届出区域は、人への健康被害が生じるおそれがない区域ですが、工事等による汚染の拡散を防止するため、土壌汚染対策法に規定する施行方法に関する基準、汚染土壌の運搬に関する基準等を遵守する必要があります。

また、生活環境保全条例に基づき、土壌汚染が確認された区域内で土地の形質の変更を行う場合には、あらかじめ周辺住民にその旨を周知しなければなりません。

2022年度は、形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出 48 件あり、条例形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出は 7 件ありました。

◆ 区域内の措置等に関する届出書等の受付件数 → 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (3),(14)」参照

表 2-3-6 指定区域内の措置等に係る件数

根拠法令及び届出等	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染対策法					
要措置区域における措置の指示	1	1	0	0	0
形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書	49	49	54	48	48
生活環境保全条例					
条例要措置区域における措置の指示	0	0	0	0	0
条例形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書	9	18	12	12	7

(エ) 汚染土壌処理業の許可

土壌汚染対策法に基づき、横浜市内で汚染土壌処理業を行う者は、汚染土壌処理施設ごとに横浜市長の許可を受ける必要があります。

2022年度に新規又は更新許可を受けた事業者はありませんでした。2022年度末時点では、許可を受けた汚染土壌処理業者は 5 者となっています。

また、2022年度は汚染土壌処理業者 5 者について、立入検査を実施しました。

◆ 汚染土壌処理業に係る申請書等の受付件数 → 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (5)」参照

表 2-3-7 汚染土壌処理業の許可状況

項目	年度末時点の許可状況 <sup>※1</sup>				
	2018	2019	2020	2021	2022
汚染土壌処理業の許可事業者数	5	5	5	5	5
浄化等処理施設	1	1	1	1	1
セメント等製造施設	0	0	0	0	0
埋立処理施設	0	0	0	0	0
分別等処理施設	5	5	5	5	5
自然由来等土壌利用施設 <sup>※2</sup>	—	0	0	0	0

※1 各年度末の時点で土壌汚染対策法に基づく汚染土壌処理業の許可を受けている事業者数と施設種類の内訳です。複数施設で許可を受けている事業者がいるため、許可事業者数と施設種類の合計は一致しません。

※2 土壌汚染対策法の改正により、2019年4月1日から自然由来等土壌利用施設が追加されました。



#### (オ) 土壌汚染対策の取組支援

中小企業者等による円滑な土壌汚染対策の取組を支援・促進するため、技術的な観点から適切なアドバイスを行う専門家を派遣する制度を設けています。2022年度は、2事業者に対し、アドバイザーを各1回（合計2回）派遣しました。

また、土壌汚染の未然防止及び対策に関する説明会をオンライン形式で10月に行うとともに、区役所（都筑区、保土ヶ谷区及び磯子区）での土壌相談会を10月から11月に実施しました。

#### (カ) 生活環境保全条例（土壌汚染対策関係）の改正

一定規模以上の土地の形質変更に係る手続に関して、2022年3月の土壌汚染対策法施行規則の改正を受け、同様の規定を設けている生活環境保全条例施行規則を改正しました（2022年7月1日施行）。この改正により、土地の形質変更の届出における添付書類の要件が変更されました。

#### (キ) 市発注工事における土壌汚染対策法等に基づく未届事案への対応

過去の市発注工事において、土壌汚染対策法又は生活環境保全条例に基づく未届事案が2021年度に確認されたことを踏まえ、2022年度も引き続き、再発防止のための土壌汚染関連法令に関する研修を実施しました（2022年7月、12月の2回実施）。

### ウ 地下水質の保全

地下水汚染を未然に防止するため、水質汚濁防止法及び生活環境保全条例に基づく規制指導を実施しています。

#### (ア) 届出指導及び立入検査

水質汚濁防止法に基づく事業所からの届出を受け付けるとともに、事業所が有害物質の地下浸透を防止するための基準を満たすよう必要な指導を行っています。また、2022年度は事業所への立入検査を37件実施し、構造基準の遵守状況や定期点検の実施状況などの確認を行いました。

◆ 水質汚濁防止法に基づく届出書の受付件数 → 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (2)」参照

表 2-3-8 地下浸透防止に関する件数の推移

地下浸透防止の届出がされた事業所数（施設種類別）	年度末時点の事業所数				
	2018	2019	2020	2021	2022
有害物質使用特定施設	436	428	432	418	417
有害物質貯蔵指定施設	10	10	10	9	8

#### (イ) 汚染された地下水の浄化対策

生活環境保全条例では、土壌汚染が確認された土地について、地下水汚染の状況を確認するよう定めています。2022年度は、地下水汚染が8件確認されました。

また、生活環境保全条例に基づき、地下水汚染原因である可能性のある事業者が判明した場合において、汚染原因調査を実施するよう指導しており、2022年度は1件報告がありました。

（次頁に表があります）

表 2-3-9 地下水汚染に関する件数の推移

報告書の種類	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
地下水汚染原因調査報告書	1	0	0	1	1
土壌汚染による地下水への影響調査報告書（汚染あり）	16	7	8	7	8

## エ 地盤沈下対策

地下水採取や掘削作業による地盤沈下を防止するため、工業用水法及び生活環境保全条例に基づく規制指導を実施しています。

### (ア) 地下水採取の規制

工業用水法に基づき地下水採取の許可を行うとともに、生活環境保全条例に基づき、揚水施設の規模に応じて、許可又は届出の指導を行っています。これら揚水施設の利用者に対し、揚水量等の記録などを義務付けており、年 2 回の地下水採取量及び水位測定結果報告書により、計画揚水量と相違がないかについて確認しました。

◆ 工業用水法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4 - 7 環境法令に基づく届出等の件数 (11),(14)」参照

表 2-3-10 地下水揚水施設を設置している対象事業所の件数の推移

揚水施設の種類		年度末時点の事業所数				
		2018	2019	2020	2021	2022
地下水採取	工業用水法の許可対象施設	1	1	1	1	1
	揚水施設（許可対象）	163	158	158	154	152
	小規模揚水施設（届出対象）	224	229	233	233	239

### (イ) 掘削作業の規制

生活環境保全条例に定められた一定規模以上の掘削作業に係る届出を受け付けるとともに、その作業に伴う地下水位低下による地盤沈下を防止するため必要な規制指導を行っています。2022 年度は掘削工事の届出が 11 件、トンネル工事の届出が 2 件ありました。

◆ 生活環境保全条例に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4 - 7 環境法令に基づく届出等の件数 (14)」参照

表 2-3-11 掘削作業の届出件数の推移

届出の種類		年度末時点の届出件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
掘削作業	開削工事の開始届出	15	13	22	14	11
	トンネル工事の開始届出	5	1	2	3	2



## 2-4 音環境の保全

2025 年度までの 環境目標	・騒音や振動の環境が改善され、市民生活の快適性が向上しています。
達成の目安となる 環境の状況	・環境基準の達成率の向上及び継続的な達成 ・市民の生活環境に関する満足度の向上

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022 年度）

- 幹線道路に面した地域の道路交通騒音（面的評価）の環境基準達成率の推移は、長期的に見て改善傾向にあります。

#### ※道路交通騒音の面的評価

幹線道路から 50m 範囲にある全ての住居等を対象として、騒音レベルの状況を把握し、環境基準に適合している戸数の割合を算出して評価する手法です。対象路線を 5 年周期で評価しています。

#### ※近接空間

面的評価を行う 50m 範囲のうち、2 車線以下の車線を有する幹線道路は道路端から 15m、2 車線を越える車線を有する幹線道路は道路端から 20m までの範囲です。

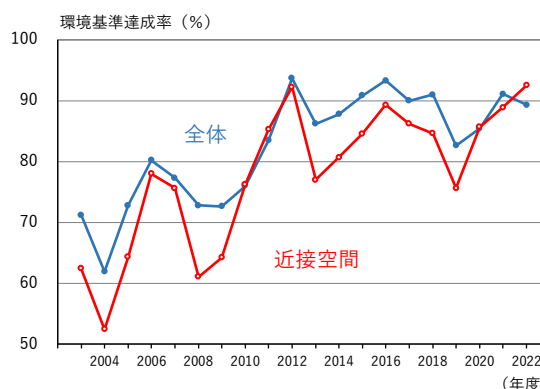


図 2-4-1 道路交通騒音（面的評価）の環境基準達成率の推移

- 幹線道路等からの自動車騒音の状況を把握するために実施している道路交通騒音の面的評価では、調査した 43 路線延べ 116.1km のうち 89.3% で昼夜間を通して環境基準に適合しました。
- 新幹線鉄道騒音調査では、6 地点中 2 地点で環境基準に適合しました。
- 2023 年度「環境に関する市民意識調査」の結果では、身のまわりの環境について、「大気汚染や騒音、臭いなどの心配がなく快適に暮らしている」と回答した市民の割合は、79.5%<sup>\*</sup>でした。

※ 「そう思う」又は「少しそう思う」と回答した市民の割合の合計

## (2) 2022 年度の主な取組実績

### ア 騒音・振動の監視

環境基準の達成状況等の現状把握や騒音・振動対策の効果を確認するため、道路交通騒音等の測定を実施しています。

#### (ア) 道路交通騒音の評価

騒音規制法に基づき、市内の幹線道路に面した地域の環境基準の達成状況等を把握するため、道路交通騒音の面的評価を実施しています。この調査は、毎年度、路線延長 100km 程度を選定し、当該評価を行っています。2022 年度は、国道 16 号（横浜横須賀道路）、環状 4 号線（鴨志田線）など総延長 116.1km の面的評価を実施しました。

◆ 騒音の評価結果等 ⇒ 「4-4 音環境の監視 (1)」参照

表 2-4-1 道路交通騒音（面的評価）の環境基準達成状況

項目	年度別調査結果				
	2018	2019	2020	2021	2022
面的評価の環境基準達成率※ <sup>1</sup>	91.0%	82.6%	85.4%	91.1%	89.3%
面的評価の評価道路長	140.2 km	117.4 km	111.1 km	108.3 km	116.1 km

※<sup>1</sup> 評価対象地域において昼間・夜間ともに環境基準を達成している割合です。

#### (イ) 新幹線鉄道による騒音・振動の測定

市内の東海道新幹線の沿線における騒音・振動の状況を把握するため、沿線 8 箇所に測定地点を設定し、継続して調査を実施しています。調査は、測定地点ごとに手前側の軌道中心から 12.5m、25m、50m と距離の異なる 3 地点で、20 本（上下線各 10 本）の列車の測定を行っています。なお、新幹線鉄道による騒音は環境基準に定める方法で、振動は環境基準が設定されていないため「環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）（昭和 51 年 3 月 12 日環大特第 32 号）」に定める方法で測定・評価しています。2022 年度は、8 箇所の測定地点のうち 2 箇所で騒音・振動の測定を実施しました。

◆ 騒音・振動の測定結果等 ⇒ 「4-4 音環境の監視 (2)」参照

表 2-4-2 新幹線鉄道による騒音・振動の環境基準等達成状況

区分	年度別の環境基準達成状況等※ <sup>1</sup>				
	2018	2019	2020	2021	2022
騒音測定※ <sup>2</sup>	16 / 24	6 / 12	5 / 6	4 / 6	2 / 6
振動測定※ <sup>2,3</sup>	23 / 24	12 / 12	6 / 6	6 / 6	6 / 6

※<sup>1</sup> 2020 年度以降は、毎年度、沿線 8 箇所のうち 2 箇所（6 地点）を測定する計画です。2018 年度は沿線 8 箇所（24 地点）、2019 年度は沿線 4 箇所（12 地点）の測定を実施しました。

※<sup>2</sup> 分母が測定地点数、分子が環境基準等達成の地点数です（不適合の地点がある場合は当該セルを灰色塗り）。

※<sup>3</sup> 振動は、環境省の指針値による評価です。

※ 一般環境騒音の測定は 2019 年度から、東海道貨物線（新貨物線）による騒音・振動の測定及び航空機騒音の測定は 2020 年度から実施していません。

## イ 事業所・建設工事等における騒音・振動対策

市民の生活環境を保全するため、騒音規制法、振動規制法及び生活環境保全条例に基づき、各法令で定められた施設や工事等に対し、騒音や振動に係る規制指導を実施しています。

### (ア) 届出指導及び立入検査

騒音規制法、振動規制法及び生活環境保全条例に基づく届出を受け付けるとともに、事業者に対して騒音や振動に係る規制基準を満たすよう必要な指導を行っています。また、規制基準の遵守を確認するため、騒音や振動の測定を伴う立入検査を実施しました（2022年度は特定工場37件、特定建設作業等62件）。



立入検査における  
騒音及び振動測定の様子

◆ 騒音規制法等に基づく届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (7),(8),(14)」参照

表 2-4-3 対象事業所数・届出件数の推移

対象	分野	年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定工場※ <sup>1</sup>	騒音	3,615	3,641	3,643	3,643	3,644
	振動	1,994	2,011	2,013	2,015	2,008
特定建設作業※ <sup>2</sup>	騒音	1,844	1,912	2,053	2,192	2,253
	振動	966	1,015	1,034	1,168	1,288
夜間営業※ <sup>1</sup>	騒音	55	54	54	54	54
屋外作業※ <sup>1</sup>	騒音	181	183	184	185	187

※<sup>1</sup> 各年度末の時点で設置されている事業所の数です。

※<sup>2</sup> 各年度の対象工事の届出件数（作業件数）です。

### (イ) 騒音規制法・振動規制法の特定施設の見直し

騒音規制法施行令の改正（2022年12月1日施行）により、環境大臣が指定する空気圧縮機は騒音規制法の規制対象から除外となりました（2022年度末時点で、空気圧縮機について、環境大臣による指定はありません。）。また、同日施行の振動規制法施行令の改正により、環境大臣が指定する圧縮機は振動規制法の規制対象から除外となりました。圧縮機については、2022年12月1日に環境省告示が施行され、低振動型圧縮機の指定に係る規程が定められました\*。

この法改正を受け、横浜市ウェブサイトや「かんきょう横浜」2022年11月号で周知を行いました。

※ 当該告示に基づき、2023年4月以降、環境省が低振動型圧縮機の型式指定を公表しています。（2023年9月22日時点で10,168型式）

◆ 「かんきょう横浜」について ⇒ 「3-2 (4)わかりやすい情報発信 ウ」参照

## ウ 交通に関する騒音・振動対策

自動車及び鉄道の走行に関する騒音・振動の測定を行うなど、騒音規制法及び振動規制法に基づく規制指導等を実施しています。また、関係者との連携による騒音・振動対策を実施しています。

### (ア) 道路交通対策

幹線道路沿道の環境基準の適合状況を把握するため、2022年度は面的評価を43路線（評価道路長116.1km）で実施しました。また、横浜市、神奈川県警察、国土交通省と高速道路事業者3社で組織する「横浜市道路交通環境対策連絡会議」を书面開催し、環境対策に係る情報の交換等を行い、地域特性を考慮した対策を求めました。このほかに、市民からの相談を受けて騒音測定を3地点、振動測定を15地点で実施しました。この測定結果を基に道路管理者と協議を行い、必要に応じて対策を求めました。

◆ 自動車走行に係る騒音の評価結果 ⇒ 「4-4 音環境の監視 (1)」参照

### (イ) 鉄道交通対策

2022年度は、新幹線鉄道の環境基準の適合状況を把握するための騒音測定を6地点、振動測定を6地点、在来鉄道の実態を体系的経年的に把握するための騒音・振動測定を4地点で実施しました。このほかに、市民からの相談を受けて騒音測定を1地点で実施しました。また、横浜市と鉄道事業者7社で組織する「横浜市鉄道環境対策連絡会議」を书面開催し、鉄道環境対策に関する情報の交換及び技術交流等を行うとともに、これらの測定結果等を鉄道事業者に提供し、必要に応じて地域特性を考慮した対策を求めました。



新幹線鉄道の騒音測定の様子  
(作業員の左側に測定器具を設置)

◆ 鉄道に係る騒音・振動の測定結果 ⇒ 「4-4 音環境の監視 (2),(3)」参照

### (ウ) 航空機騒音対策

横浜市における航空機騒音の主なものは、厚木海軍飛行場を離発着するアメリカ海軍のジェット機やヘリコプターによるものです。横浜市には管制等の権限がなく上空監視も行えないため、航空機騒音に対して主体的な関与ができませんが、市民から苦情相談があった場合には内容に応じて国や関係部署への情報提供や、問合せ先の案内を行っています。2022年度は21件の苦情相談に対応しました。このうち13件についてはアメリカ海軍の飛行機が原因の可能性があるため、政策局基地対策課へ苦情相談等の情報提供を行いました。

### (エ) 集合住宅等の新設における交通騒音対策

「集合住宅等の防音対策指導書」に基づき、幹線道路や鉄道に近接して、宅地開発や住宅建築を計画する事業者に対し、交通騒音に対する家屋側の防音対策に配慮するよう指導しています。2022年度は49件の集合住宅防音対策書が提出されました。

## 2-5 分野横断の取組

2025 年度までの 環境目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気・水などの環境が良好に保全されるとともに、化学物質などの環境リスクが低減しています。</li> <li>・音やにおいなどの環境が改善され、市民生活の快適性が向上しています。</li> <li>・市内のあらゆる主体が積極的に生活環境に関する取組を実施しています。</li> </ul>
達成の目安となる 環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基準や水環境目標の達成率の向上及び継続的な達成</li> <li>・光化学スモッグ注意報の発令回数を 0 にする</li> <li>・生物指標による水質評価の目標達成率を 100% にする</li> <li>・市民の生活環境に関する満足度の向上</li> <li>・生活環境の保全につながる環境行動の推進</li> </ul>

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022 年度）

- 市内における PRTR 制度<sup>\*1</sup>の対象となる化学物質の 2021 年度の市内排出量は 3,856 トン（届出排出量 1,022 トンと届出外排出量 2,834 トンの和）でした<sup>\*2</sup>。市内排出量の推移は、2016 年度以降、概ね減少傾向となっています。

※1 PRTR とは、Pollutant Release and Transfer Register（化学物質排出移動量届出制度）の略称です。有害性のある化学物質について、排出量（環境中に排出された量）や移動量（廃棄物に含まれて事業所外に搬出された量など）を把握し、集計し、公表する仕組みです。化学物質排出把握管理促進法に基づき、462 物質（2023 年度実績の把握分から 515 物質に変更）が把握対象となっています。

※2 2022 年度の実績は 2023 年度に届出されるものであり、集計中のため掲載していません。

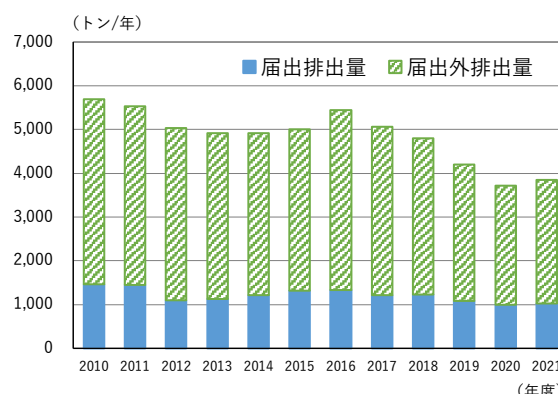


図 2-5-1 PRTR 制度対象物質の市内排出量の推移  
(神奈川県公表値を参考に作成)

- 環境基準や水環境目標の達成状況について  
⇒ 「2-1 大気環境の保全」～「2-4 音環境の保全」の各「(1) 環境目標の達成目安などの状況（2022 年度）」に掲載
- 光化学スモッグ注意報は 2 回発令されましたが、健康被害の届出はありませんでした。光化学スモッグ警報は 1979 年以降発令されておらず、重大緊急時警報の発令実績はありません。（再掲）



● 生物指標による水質評価では、河川（2022年度冬季調査）の目標達成率は86.8%（38地点中33地点で達成）でした。なお、生物指標調査は河川と海域を交互に2年間ずつ実施しています。（再掲）

● 2023年度「環境に関する市民意識調査」の結果では、身のまわりの環境について、「大気汚染や騒音、臭いなどの心配がなく快適に暮らせている」と回答した市民の割合は、79.5%※でした。（再掲）

※「そう思う」又は「少しそう思う」と回答した市民の割合の合計

● 2023年度「環境に関する市民意識調査」の結果では、環境行動の実践状況について、「近隣への悪臭、騒音などに配慮する」と回答した市民の割合は96.6%※、「排水口に油（揚げ油やお皿についた油など）を流さない」と回答した市民の割合は90.9%※でした。

※「している」又は「たまにしている」と回答した市民の割合の合計

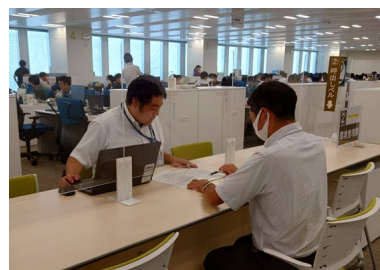
## (2) 2022年度の主な取組実績

### ア 事業所等に対する包括的な施策

現在及び将来の世代の市民の健康で文化的な生活環境を保全するため、生活環境保全条例等に基づき、事業所等を対象とした包括的な環境保全施策を推進しています。また、広域的な課題に共同で対応していくことを目的として、他の自治体と連携した取組を実施しています。

#### (ア) 指定事業所・環境管理事業所

生活環境保全条例に基づく指定事業所の設置や変更等の許可申請等を受け付けるとともに、生活環境に係る規制基準等を満たすよう必要な指導を実施しています。2022年度の指定事業所の設置許可件数は34件でした。また、環境管理事業所制度は、環境に係る自己管理能力及び責任を有すると認められる指定事業所について、事業者からの申請に基づき、環境管理事業所として認定する制度です。2022年度は、新規認定はなく、既存環境管理事業所の再認定は8件ありました。



窓口相談イメージ  
※写真の一部を加工しています

◆ 生活環境保全条例に基づく申請書等の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数(14)」参照

◆ 環境管理事業所の認定状況 ⇒ 「4-8 環境管理事業所(1)」参照

表 2-5-1 指定事業所等の設置数の推移

事業所等	年度末時点で設置されている事業所数				
	2018	2019	2020	2021	2022
指定事業所	4,777	4,740	4,726	4,700	4,678
環境管理事業所	16	17	14	11	11

#### (イ) 環境保全協定

環境負荷の低減、緑化、生物多様性の保全など、事業者による環境保全のための自主的取組を推進するため、生活環境保全条例に定められた規模の施設を有する事業者等に対し、環境保全協定の締結を要請しています。2022年度は、新たな事業所との協定の締結はありませんでした。

◆ 協定締結事業所の位置図、協定概要 ⇒ 「4-5 各種協定 (1),(2)」参照

表 2-5-2 協定締結事業所数の推移

項目	年度				
	2018	2019	2020	2021	2022
環境保全協定の締結事業所 <sup>※1</sup>	29	30	30	30	30
締結 <sup>※2</sup>	0	1	0	0	0
改定 <sup>※2</sup>	2	1	1	0	0

※1 各年度末の時点で環境保全協定を締結している事業所の数です。

※2 各年度において環境保全協定を締結又は改定した事業所の数を、内数として記載しています。

#### (ウ) 非常時の措置

生活環境保全条例では、事業者に対し、事業所において生じた事故又は車両の事故に伴い、大気汚染、悪臭又は水質汚濁の原因となる物質<sup>※</sup>の放出又は発生が起これることにより、公害が生じた場合（そのおそれがある場合も含む。）は、直ちにその旨を横浜市へ通報するとともに応急の措置をとることを義務付けています。応急の措置をとった場合には、事故の状況や措置の概要を横浜市に報告することも義務付けており、2022年度は4件（大気関係0件、水質関係4件）の報告がありました。

また、同じ趣旨の規定として「事故時の措置」が定められている環境法令があり、2022年度は水質汚濁防止法に基づく届出が6件ありました。

※ 生活環境保全条例では、非常時の措置に関する物質として、大気汚染・悪臭に係る35物質、水質汚濁に係る57物質（2023年5月2日以降はPFOA・PFOS等4物質が追加され61物質）を定めています。

#### (エ) SDGs よこはま資金（脱炭素社会の実現に資する取組関係）

横浜市中小企業融資の1つである「SDGs よこはま資金<sup>※1</sup>」は、SDGsの達成に向けた取組等を行う方を対象にした融資です。複数ある融資条件のうち、脱炭素社会の実現に資する取組を行う方を対象にした融資の一部について、その融資基準の認定<sup>※2</sup>を環境創造局環境保全部が行っています。2022年度は、融資の申込はありませんでした。

※1 「よこはまプラス資金」は、2022年度から「SDGs よこはま資金」に再編成されました。

※2 次のいずれかに該当する方の融資基準の認定（2022年度の対象者）

- 再生可能エネルギーシステムの設置、省エネルギー改修・機器の導入等を行う方
- 「地球温暖化対策計画書制度」に基づき横浜市に提出した計画の達成に要する設備投資を行う方
- 九都県市指定低公害車の新車購入を行う方

#### (オ) 公害防止管理者制度

特定工場における公害防止組織の整備に関する法律に基づき、一定の要件を満たす事業者は公害防止管理者等を選任し、公害防止組織を整備することが義務付けられています。同法に基づく事業者からの届出を受け付けるとともに、公害防止管理者等の選任・解任と事業所の承継に関して必要な指導を実施しており、2022年度は198件の届出がありました。

◆ 公害防止管理者等に係る届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (12)」参照

#### (カ) 環境法令講習会

横浜市では、事業者の環境管理の一助とするため、横浜市環境保全協議会\*が主催する環境実務担当者セミナーにおいて、環境法令に関する講義を実施しています。2022年度は、集合形式とウェブ配信の併用で9月に実施されました。環境法令に関する講義では、公害防止管理者制度、生活環境保全条例等の概要や届出等の実務的な内容について説明を行いました。

※ 横浜市環境保全協議会は、工場等における、環境保全に関する知識と技術の涵養並びに交流を図るとともに、関係行政機関との連携により、地域の環境保全・向上に資することを目的として横浜商工会議所に設置された組織です。市内の事業者と団体で構成されており、横浜市も参加しています。

#### (キ) 九都県市首脳会議 環境問題対策委員会

九都県市首脳会議は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市及び相模原市により構成され、共有する膨大な地域活力を生かし、共同して広域的課題に積極的に取り組むことを目的としています。環境分野の検討を行う環境問題対策委員会には、大気保全専門部会や水質改善専門部会が設置されており、交通環境対策、光化学オキシダント及び微小粒子状物質（PM2.5）対策、東京湾の水質改善に係る調査等に継続して取り組んでいます。

◆ 大気環境に関する取組 ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-イ,ウ」参照

◆ 水環境に関する取組 ⇒ 「2-2 水環境の保全 (2)-ア」参照

#### (ク) 六大都市自動車技術評価委員会

東京都、川崎市、横浜市、名古屋市、大阪市及び神戸市により構成される委員会で、自動車の排出ガス、騒音、振動等に係る対策事業や低公害車の開発等に係る調査等を行い、自動車の環境対策の推進を図ることを目的としています。

2022年度は、電気自動車の電費に関する調査の報告や各都市の情報交換などに取り組みました。

#### (ケ) 神奈川県公害防止推進協議会

神奈川県、横浜市及び川崎市により構成される協議会で、県市が連携して公害行政の円滑な推進を図り、快適な生活環境を実現することを目的としています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業者向け講演会及び職員研修会の開催を見送りました。また、効果的な対策を行うために各部会が設置されており、自動車交通公害対策検討部会ではエコドライブ等の普及啓発を、PM2.5等対策検討部会では微小粒子状物質（PM2.5）に関する調査研究、光化学オキシダント対策に関する調査研究や事業者ヒアリング等の情報収集を行いました。

◆ 交通環境に関する取組 ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-ウ」参照

◆ PM2.5等に関する取組 ⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ア,イ」参照



### (ロ) 全国環境研協議会

67 都道府県市の環境研究機関により構成される協議会で、横浜市（環境科学研究所）も加盟しています。環境に関する試験・調査・研究活動を通じて、各業務の運営、知識及び技術の向上を図ること等を目的としています。大気、水質、騒音振動の専門部会があり、2022 年度は情報交換を行いました。また、全国 5 つの支部のうち、関東甲信静支部の 2022 年度の支部長機関を横浜市が務め、支部役員会を 7 月に横浜市で開催し、支部総会を 9 月につくば国際会議場で開催しました。

### (ハ) 神奈川県市環境研究機関協議会

神奈川県、横浜市及び川崎市の環境研究機関により構成される協議会で、環境に関する知識及び技術の向上を図り、関係業務を推進することなどを目的としています。

2022 年度は横浜市が会長機関となっており、各機関が実施した研究成果を発表する「環境研究合同発表会」や外部講師を招いた研修会を横浜市がホストとなってハイブリッド形式（対面形式とオンライン形式の同時開催）で行いました。

### (ニ) 関東地方大気環境対策推進連絡会

関東甲信静 1 都 9 県 7 市により構成される連絡会で、光化学オキシダント等の対策を進めるため、微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議<sup>※</sup>を設置しています。この調査会議では、行政機関と試験研究機関が協同して、大気エアロゾルの実態解明、大気汚染状況のトレンドの把握、行政施策の効果検証などを目的とし、広域的な調査・解析、情報交換などを行っています。

2022 年度は、光化学オキシダントの広域調査や過年度調査結果の解析を行うとともに、微小粒子状物質（PM2.5）の過年度調査結果の解析を行いました。

※ 2021 年 4 月から名称が変更されました。（旧名称：微小粒子状物質調査会議）

◆ 光化学オキシダントに関する取組 ⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ア」参照

◆ PM2.5 に関する取組 ⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 イ」参照

### (ホ) 他制度と連動した取組

新たな開発や土地利用、大規模小売店舗の出店、産業廃棄物処理施設の建設などの行為は、周辺地域の生活環境に影響を及ぼすおそれがあるため、これらの行為に伴う他制度の手続に連動し、環境関係法令の遵守に関する事前調整を行っています。

表 2-5-3 他制度の手続と連動した環境関係法令の遵守に関する事前調整の件数

他制度の手続の名称	事前調整の対象となる主な行為	2022 年度の件数
横浜市開発審査会	市街化調整区域における開発行為又は建築行為	38
横浜市建築審査会	建築基準法に基づく横浜市の同意が必要な行為	46
横浜市土地利用総合調整会議	総合調整を必要とする重要な土地利用計画	23
横浜市産業廃棄物処理用地等調整会議	産業廃棄物処理施設等の設置又は変更	23
大規模小売店舗立地法	大規模小売店舗の設置又は変更	19
温泉法	温泉を湧出させるための土地の掘削	1

#### (七) 環境法令に基づく届出等手続のデジタル化の取組

近年、行政分野のデジタル化に向けた動きが加速しています。横浜市では、2022年9月に横浜DX戦略を策定するなど、デジタル技術の活用に向けた取組を進めています。

その一環として、生活環境の保全に関する環境法令に基づく届出等の手続についても、横浜市電子申請・届出システムを利用したオンライン化の拡大に取り組んでおり、2022年度末時点で193種類の届出等が対応しています。

また、環境法令に基づく届出等手続の要否が分からない場合の相談をオンラインで受け付ける手段として、同システムを利用した環境法令届出相談を2022年度に公開しました。引き続き、課題の整理を進め、各手続のオンライン化を推進していきます。

このほかに、届出等手続の情報を円滑に入手できるよう、生活環境分野（公害対策関係）の届出等手続の総合案内ページを横浜市ウェブサイト公開しました。



二次元コード  
(横浜市電子申請・届出システム URL)

#### ◆ 横浜市電子申請・届出システムのトップページ

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/portal/home>

### イ 化学物質対策

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（以下「化学物質排出把握管理促進法」といいます。）に基づく届出事務を行うとともに、化学物質による環境リスクの低減や化学物質の適正な使用・管理を促進するための普及啓発等の実施により、化学物質対策を推進しています。

#### (ア) PRTR 制度

化学物質排出把握管理促進法に基づく PRTR 制度では、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質を第一種指定化学物質として定め、一定要件を満たす事業者に対し、その排出量や移動量を届出することを義務付けています。これに関する事業者からの届出書を受け付けるとともに、国が集計した結果をもとに市内の届出排出量等の集計を行いました。集計の結果は、横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

※ 2021年10月に改正政令が公布され、PRTR制度の対象物質が見直されました。2023年4月1日から第一種指定化学物質は462物質から515物質に変更（そのうち特定第一種指定化学物質は15物質から23物質に変更）され、変更後の対象物質の排出・移動量の把握は2023年度から始まり、届出は2024年度から実施されます。

#### ◆ 市内の排出量等の集計結果の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/kagaku/prtr/prtr-data.html>

◆ PRTR 制度に係る届出書の受付件数 ⇒ 「4 - 7 環境法令に基づく届出等の件数 (13)」参照

(次頁に表があります)

表 2-5-4 PRTR 制度による年度ごとの届出事業所数と集計結果※1

届出年度 (把握対象年度※2)		2017 (2016)	2018 (2017)	2019 (2018)	2020 (2019)	2021 (2020)	2022 (2021)
届出事業所数		399	393	379	370	353	357
把握対象年度の 届出排出量 (トン/年)	大気へ	1,274	1,159	1,125	1,000	910	967
	水域へ	60	61	99	92	87	55
	その他	0	0	0	0	0	0
把握対象年度の 届出移動量 (トン/年)	下水道へ	20	22	24	11	17	3
	廃棄物として	861	803	617	624	485	526

※1 この表は、2022 年度届出分（把握対象年度では 2021 年度分）までを集計したものです。PRTR 制度では過年度の届出の修正等が認められているため、表の数値は修正されることがあります。

※2 PRTR 制度では、一年度分の排出量等の実績を、翌年度の 4 月 1 日から 6 月 30 日までの間に届出します。例えば、2021 年度の排出量等の実績は、2022 年度に届出します。このように、集計する排出量等の年度と届出年度が異なるため、集計する年度を把握対象年度と呼んでいます。

#### (イ) 環境リスクの低減に向けた啓発

化学物質の排出削減や適正な使用を促し、化学物質による環境リスクを低減するために啓発を行っています。

2022 年度は、市民向け啓発資料を横浜市ウェブサイトに掲載するとともに、川崎市との連携事業を行いました。市民向けの連携事業では横浜市が中心となり、セミナー「身の回りの化学製品の上手な使い方～製品表示に注意～」を開催し、日常生活における化学物質の適正な使用を啓発しました。事業者向けの連携事業では川崎市が中心となり、「化学物質対策セミナー」をオンライン形式で、「環境リスク評価講習会」を動画配信で開催し、化学物質の適正な使用・管理やリスクコミュニケーションを推進しました。



市民向けセミナーの様子  
※写真の一部を加工しています

#### (ウ) 化学物質環境実態調査

化学物質環境実態調査（黒本調査）は、一般環境中の化学物質の残留状況を把握することを目的として、環境省が毎年実施している調査です。横浜市も調査に参加しており、水質や大気等に含まれている化学物質を調べています。

2022 年度の調査では、市内で水質（鶴見川、柏尾川、横浜港）、底質（横浜港）、生物（山下公園前のムラサキイガイ）、大気（神奈川区）の試料を採取しました。また、環境水中の N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミドの分析法の開発を行い、環境省へ報告しました。



横浜港での試料採水の様子

## (エ) ダイオキシン類対策

ダイオキシン類による大気汚染や水質汚濁等を防止するため、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく規制指導を実施しています。また、生活環境保全条例に基づき、小規模焼却炉に対する規制指導や、焼却施設の解体工事におけるダイオキシン類飛散防止のための規制指導を実施しています。2022年度は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく届出が2件、焼却施設の解体工事に関する届出が4件ありました。小規模焼却炉に関する届出はありませんでした。

ダイオキシン類対策特別措置法では、同法の特定施設（廃棄物焼却炉等）を設置する事業者に対し、排出ガス等のダイオキシン類濃度を測定し、報告することを義務付けています。同法に基づき報告されたものについて、横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ ダイオキシン類の自主測定結果の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/dioxin/jishusokutei.html>

◆ ダイオキシン類対策に係る届出書の受付件数 ⇒ 「4-7 環境法令に基づく届出等の件数 (9),(14)」参照

◆ 環境中のダイオキシン類の測定結果 ⇒ 「4-1 (5)、4-2 (4)-ケ、4-3 (2)」参照

## (オ) ゴルフ場の農薬対策

ゴルフ場周辺の環境を保全するため、市内5箇所のゴルフ場と「農薬の使用に係る環境保全協定」を締結し、この協定に基づき、各ゴルフ場から農薬使用計画や使用実績等が報告されています。

◆ 協定の概要 ⇒ 「4-5 各種協定 (3)」参照

## (カ) 関係機関と連携した災害対策

⇒ 「3-2 (2)多様な環境課題への対応 キ」参照

## (キ) 市所有施設のアスベスト（石綿）対策

公共施設を利用する市民や職員の健康被害を防止するため、石綿障害予防規則等に基づきアスベスト含有建材を適切に管理するとともに、施設の改修工事等の機会を捉えて除去しています。

アスベスト含有吹付け材の対策については、2005年度に実態調査を行い、2009年度までに除去・囲い込み・封じ込め等の必要な措置を終了しています。アスベストを含有する保温材等の対応は、総務省をはじめとする各省庁からの要請を受け、2016年度から開始しました。2022年度も市所有施設（学校を除く2,212施設）におけるアスベスト含有保温材等の使用状況について調査し、劣化・損傷のみられる保温材等には適切な措置を施しました。アスベスト含有吹付け材や保温材等が残存している施設については、定期点検等による適切な維持管理を行っています。

引き続き、国などの動向を踏まえながら、適正に対応していきます。



#### (ク) 市所有施設におけるフロン類の漏えい防止

フロン類の漏えいによるオゾン層の破壊や地球温暖化の防止のため、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）に基づき、市所有施設に設置されている第一種特定製品※について、機器の点検の実施や点検・整備記録簿の作成・保存など、フロン類の漏えい防止措置を実施しています。

※ フロン排出抑制法の対象となる第一種特定製品は、業務用として製造・販売された機器で、冷媒としてフロン類が使用されているものをいいます。例えば、エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等があります。

### ウ 自動車交通環境対策

自動車交通により発生する大気汚染、騒音・振動の対策として、分野ごとに監視や規制指導等を行うほか、駐車場等におけるアイドリングストップを促す取組などを実施しています。

#### (ア) 分野ごとの取組

大気環境の対策としては、自動車から排出される窒素酸化物（NOx）や粒子状物質（PM）の低減に向け、関係自治体と連携してディーゼル車の運行規制や低公害車の普及促進等と推進するとともに、道路近傍の大気汚染の状況を把握するために自動車排出ガス測定局での常時監視等を行っています。

これらの対策の結果、国が定めた自動車 NOx・PM 総量削減基本方針を受けて 2013 年に神奈川県が策定した神奈川県自動車 NOx・PM 総量削減計画の目標「2020 年度までに、県内全域における大気環境基準を確保する」を達成しました。計画期間（2013 年 4 月から 2021 年 3 月まで）は満了していますが、神奈川県自動車 NOx・PM 総量削減計画策定協議会※<sup>1</sup>において次期計画が策定されるまでの間※<sup>2</sup>は、この計画に基づく施策を継続します。

音環境の対策としては、道路交通騒音・振動について要請限度を超過した場合に、道路管理者に対して低騒音舗装の施工や遮音壁の設置等、地域特性に応じた改善策を求めていくとともに、道路交通騒音の測定及び面的評価を行っています。また、環境対策の推進を目的として「横浜市道路交通環境対策連絡会議」を书面開催し、横浜市と道路管理者等との間で技術対策等の情報交換を行いました。

※ 1 神奈川県自動車 NOx・PM 総量削減計画策定協議会は、「自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（自動車 NOx・PM 法）」第 10 条に基づき、自動車 NOx・PM 総量削減計画に定められるべき事項について調査審議するために設置された機関です。また、協議会の下に専門委員会等を設置し、計画の策定に係る専門的事項についての調査や進行管理を行います。

※ 2 国において今後の自動車排出ガス総合対策の在り方について検討を行った結果、大気環境の維持を目的とし、引き続き現行の自動車 NOx・PM 法に基づく各種施策を継続する必要があるとされ、2026 年度までの大気環境基準の確保を目標に、2022 年 11 月に国の自動車 NOx・PM 総量削減基本方針が変更されました。これを受け、神奈川県が次期計画の策定に向けて作業を進めています。

◆ 大気環境の取組 ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-ア,ウ」参照

◆ 音環境の取組 ⇒ 「2-4 音環境の保全 (2)-ア,ウ」参照

#### (イ) 駐車場等におけるアイドリングストップ

市民からのアイドリングストップに関する相談を受け付けるとともに、生活環境保全条例に基づき、大規模な駐車場の設置者や駐車場等の管理者に対し、自動車の使用者に駐車中のアイドリングストップを促す看板設置等を行うことを求めています。2022年度は22件の駐車場等におけるアイドリングストップに係る苦情を受け付け、行為者や駐車場等の管理者に対し、生活環境保全条例に基づいた指導等を行いました。また、駐車場等の管理者等が啓発看板に利用できるアイドリング・ストップイメージマークを神奈川県公害防止推進協議会自動車交通公害対策検討部会で作成するなど普及啓発に努めています。

#### (ウ) 環境と調和した交通施策の推進

交通施策の推進にあたって、自動車からの排出ガスや騒音等の抑制は引き続き取り組むべき課題となっています。そのため、「横浜都市交通計画（2018年10月改定）」では、政策目標7として「環境と調和した交通施策の推進」を掲げています。

◆ 次世代自動車の普及促進やエコドライブの啓発活動について ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-ウ」参照

◆ 道路交通に関する騒音・振動対策について ⇒ 「2-4 音環境の保全 (2)-ウ」参照

表 2-5-5 横浜都市交通計画 政策目標7「環境と調和した交通施策の推進」の施策の方向

施策の方向	概要
自動車交通の円滑化・道路緑化	<ul style="list-style-type: none"><li>・交通渋滞の解消につながる体系的な幹線道路網の整備の推進</li><li>・慢性的な渋滞箇所における道路拡幅や交差点改良、バスベいの整備、鉄道との立体交差化などを総合的に推進</li><li>・道路交通機能の確保を前提とした、美しい景観形成、沿道環境の保全、道路利用者の快適性の向上等に向けた道路緑化の推進</li></ul>
環境に優しい自動車の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>・クリーンエネルギー・低燃費・低排出ガス車やインフラ設備等の普及の促進</li><li>・環境にやさしい自動車運転方法に関する講習会などエコドライブを実践するための啓発活動の推進</li><li>・モビリティマネジメント<sup>※1</sup>の推進</li><li>・大規模イベント時における公共交通利用の広報活動の推進</li></ul>

※1 モビリティマネジメントとは、過度なマイカー利用を抑制し、環境への負荷が少ない公共交通機関や自転車などを適度に利用する生活への転換を促す取組です。

## 2-6 市民生活に関連した取組

2025年度までの環境目標	・生活環境の改善により、市民が安全・安心を実感して快適に暮らしています。
達成の目安となる環境の状況	・市民の生活環境に関する満足度の向上

### (1) 環境目標の達成目安などの状況（2022年度）

- 生活環境に関する苦情相談件数は2,830件でした。前年度と比べて、件数に大きな変化はありませんでした。内訳で見ると、苦情件数※は20%増加し、相談件数※は6%減少となりました。公害の種類ごとの苦情件数は、おおむね前年度より増加しました。

※苦情件数

公害苦情として受け付け、現地調査等の対応を行った件数です。図中の大気汚染、悪臭、騒音、振動、水質汚濁、その他（光害、土壌汚染、地盤沈下など）が苦情件数です。

※相談件数

苦情件数とは別に、日常生活に伴う騒音や悪臭、その他公害全般に関すること等について寄せられ、電話等により一定の解決に至った相談の件数です。

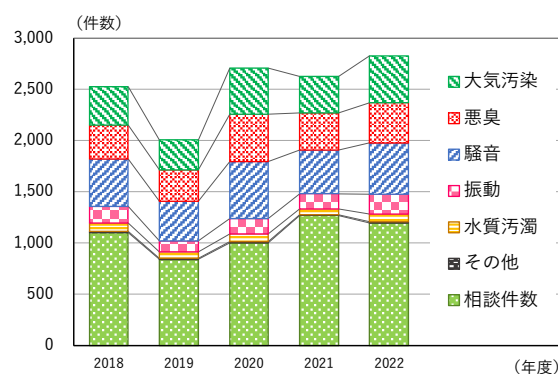


図 2-6-1 近年の苦情相談件数の推移

- 2023年度「環境に関する市民意識調査」の結果では、身のまわりの環境について、「大気汚染や騒音、臭いなどの心配がなく快適に暮らしている」と回答した市民の割合は、79.5%※でした。（再掲）

※ 「そう思う」又は「少しそう思う」と回答した市民の割合の合計

### (2) 2022年度の主な取組実績

#### ア 生活環境に関する苦情相談への対応

騒音・悪臭等の生活環境に関する苦情相談への対応を実施しています。また、未然防止対策として、騒音、悪臭、屋外燃焼行為等に関するリーフレットの配布などを行っています。

#### (ア) 生活環境に関する苦情相談

市民から寄せられた悪臭・騒音等の生活環境に関する苦情相談について、受付日から原則3日



以内（閉庁日除く）に初動対応を行っています。2022年度の苦情相談は2,830件で、そのうち現地調査等の対応を行ったものは1,632件でした。

現地調査では、必要に応じて臭気測定（1件）や騒音・振動測定（4件）を行うことにより、正確な実態把握に努めています。発生源者に対しては、法・条例が適用される場合は規制基準等による規制指導を実施し、法・条例が適用されない場合には、発生防止の措置や相談者と十分なコミュニケーションを取るなどの配慮を要請しています。



解体工事現場の例  
※写真の一部を加工しています

◆ 水質事故への対応 ⇒ 「2-2 水環境の保全 (2)-エ」参照

◆ 生活環境に関する苦情相談件数の詳細 ⇒ 「4-6 生活環境に関する苦情相談及び水質事故 (1),(2),(3)」参照

表 2-6-1 生活環境に関する苦情件数の抜粋（現地調査等の対応を行ったもの）

分野	発生源	年度別の苦情件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
大気汚染 （移動発生源除く）	ばい煙（屋外燃焼除く）	18	20	26	12	17
	屋外燃焼	204	163	315	214	246
	アスベスト（石綿）	42	37	36	41	98
	粉じん（アスベスト除く）	89	58	60	59	61
悪臭 （屋外燃焼除く）	事業所等	131	144	151	144	145
騒音	事業所・建設工事等	419	360	514	395	464
	交通関係	44	27	41	35	40
振動	事業所・建設工事等	128	83	117	118	179
	交通関係	33	25	34	29	16
水質汚濁	事業所等	84	63	74	57	73
土壌汚染・地盤沈下	—	4	1	0	2	0
光害等	事業所	5	8	13	6	10

#### (イ) 屋外燃焼行為への対応

屋外燃焼行為について市民から相談が寄せられた場合は、現地調査を行い、禁止されている行為が確認された際には行為者を指導しています。ただし、屋外燃焼行為には一部認められている行為もあるため、その場合には周辺住民への配慮を要請しています。なお、屋外燃焼行為の内容に応じて、関係部署へ情報提供することにより、連携した対応を行っています。2022年度は246件の屋外燃焼行為に関する苦情を受け付けました。

#### (ウ) 飲食店等から発生するにおいへの対応

飲食店等から発生するにおいについて、生活環境保全条例の指針として「飲食店等がにおいに関して配慮すべき事項」を定め、事業者に対して配慮を求めています。2022年度は19件の苦情を受け付けました。周辺住民等と問題が生じた場合は、横浜市が事業者と相談者の調整役を務め、両者の十分な話し合いなどを通じて、円満に解決してもらうことを目指しています。

(E) 広域異臭への対応

⇒「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ケ」参照

(F) 賑わいを創出するイベントに伴う騒音への対応

イベントに伴う一時的な騒音であっても、生活環境保全条例の規制を遵守する必要があります。イベントを開催する公園等の管理部署に対し、騒音規制について説明し、騒音に配慮したイベントを開催するよう促しています。また、市民からイベント騒音に関して苦情相談を受け付けた場合は、イベント主催団体だけでなく、管理部署にも指導しています。2022年度は2件の苦情を受け付けました。

(G) 大規模小売店舗の立地に伴う騒音等への対応

大規模小売店舗立地法による届出の事前対応として、騒音予測、悪臭対策及び光害対策ガイドライン（2021年3月改訂版 環境省）に基づく指導を経済局と連携して行っています。2022年度は19件の対応を行いました。

(H) 夜間営業に係る騒音への対応

夜間における営業を営む事業者が、その営業に伴って発生する騒音について、地域における夜間の生活環境を保全するために行う取組を支援することを目的に、「夜間における営業に係る騒音の防止に関する指針（2019年4月1日施行）」を定めています。指針では事業者の配慮すべき事項や外部騒音による公害が生じていると認められる基準を示しています。

(I) 生活騒音への対応

日常生活に伴って発生する生活騒音については、行政による規制が必ずしも効果的ではない場合が多いため、リーフレットの作成などの側面的な支援を行っています。2022年度に、リーフレットの内容を近年の生活環境や生活様式に合わせて変更しました。同時にユニバーサルデザインや男女共同参画の視点を踏まえたデザインの見直しも行い、より多くの方が手に取りやすいリーフレットへと更新しました。



生活騒音防止のためのリーフレット「住まいの音に気配りを」

(J) 光害への対応

良好な光環境の形成に向け、人や動植物、夜空の明るさに及ぼす影響等に十分配慮しつつ、地域の特性や目的に応じて適切に対策を行うことが重要であり、光害による市民からの相談に光害対策ガイドライン（2021年3月改訂版 環境省）に基づいて対応しています。

(K) 騒音計・振動計の貸出制度

市民・事業者自らが騒音・振動測定を行い客観的な数値を把握し、紛争防止や公害防止等に役立てることを目的として、騒音計・振動計を貸し出しています。1回の貸出期間は1週間で、無料です。2022年度は370件の貸出しを行いました。



貸出用振動計

## イ 安全・安心な市民生活に向けた情報の公表

市民の健康被害を未然に防止するための情報発信や、事業活動による環境汚染に対する市民の不安を払拭するための情報の公表を実施しています。また、微小粒子状物質（PM2.5）や空間放射線量など、市民の関心の高い環境情報をウェブサイトで公表しています。

### (ア) 光化学スモッグ注意報への対応

市民の健康被害を未然に防止するため、光化学スモッグ注意報等の発令・解除に合わせて、横浜市の関係機関や小学校等に連絡するとともに、公共施設の館内放送や防災情報電子メール等による周知を実施しています。

◆ 光化学スモッグ注意報の発令日等 ⇒ 「4-1 大気環境の監視 (7)」参照

### (イ) PM2.5 の高濃度予報への対応

微小粒子状物質（PM2.5）の観測データを横浜市ウェブサイトで公表するとともに、神奈川県がPM2.5 の高濃度予報を出した場合に備え、横浜市の関係機関や小学校等に連絡して注意喚起をする体制を整えています。これまで神奈川県内に高濃度予報が出たことはありません。

### (ウ) 環境監視データの公表

大気汚染物質の測定結果や河川・海域の水質測定の結果などは、横浜市ウェブサイトで公表しています。また、PM2.5 などの大気汚染防止法に基づく常時監視データは、1時間ごとのデータとして横浜市ウェブサイトで随時公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 大気汚染物質等の測定結果の公表ページ（監視センター）

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/kanshi\\_center/kanshi.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/kanshi_center/kanshi.html)

◆ 2022年度の測定結果 ⇒ 「4-1 大気環境の監視 ～ 4-4 音環境の監視」参照

### (エ) 環境調査結果の公表

マイクロプラスチック調査、酸性雨情報、大気環境中のアスベスト（石綿）濃度の調査結果、有害大気汚染物質濃度の調査結果、地下水位・地盤収縮量の観測結果について、横浜市ウェブサイトで公表しています。また、地球温暖化・ヒートアイランド現象により高温化した市内の暑さの状況把握のために気温観測を行っており、この観測結果も横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 環境調査結果の公表ページ（環境科学研究所）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/data/>

◆ 2022年度の環境調査結果 ⇒ 「4-1 大気環境の監視、4-3 地盤環境の監視」参照

(オ) 空間放射線量の公表

⇒「3-2 (2)多様な環境課題への対応 ウ」参照

(カ) 地質調査結果の公表

⇒「3-2 (4)わかりやすい情報発信 カ」参照

(キ) 水準測量成果の公表

地盤沈下の測定を目的とした水準測量を、毎年1月1日を基準として実施しています。測量結果は、環境創造局水・土壌環境課の窓口及び横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 水準測量成果閲覧サービスのページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/suijun/>

(ク) 土壌汚染が確認された土地の公表

土壌汚染対策法や生活環境保全条例に基づく土壌調査により汚染が確認された土地は、（条例）要措置区域又は（条例）形質変更時要届出区域に指定され、横浜市報で公示されます。その情報は、環境創造局水・土壌環境課の窓口及び横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 土壌汚染関連公表情報のページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/dojo/dojoosen/joho/gaiyou.html>

(ケ) 汚染井戸追跡調査結果の公表

過去に行った調査において発見された汚染井戸等のうち、汚染源調査を実施中の汚染井戸、又は汚染源調査により汚染源が特定され浄化指導中の汚染井戸について、追跡調査を実施しています。調査結果は、環境創造局水・土壌環境課の窓口及び横浜市ウェブサイトで公表しています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 地下水汚染関連情報の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/dojo/chikasuiosen/chosa.html>

(コ) ダイオキシン類の測定結果の公表

⇒「2-5 分野横断の取組 (2)-イ-(イ)」参照

#### (サ) 指定事業所等の名簿の公開

生活環境保全条例に基づく指定事業所や水質汚濁防止法に基づく特定事業場など、環境法令に基づく届出等がなされた事業所等の名簿を作成し、公開しています。

表 2-6-2 指定事業所等の閲覧用の名簿一覧（2022 年度末時点）

所管課	名称	窓口 閲覧	ウェブ 公表
環境創造局 環境管理課	横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づく指定事業所リスト	○*	-*
環境創造局 大気・音環境課	大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設台帳	○	-
	大気汚染防止法に基づく揮発性有機化合物排出施設台帳	○	-
	大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設台帳	○	-
	大気汚染防止法に基づく特定粉じん排出等作業届出台帳	○	-
	大気汚染防止法に基づく水銀排出施設台帳	○	-
	騒音規制法・振動規制法に基づく特定工場等の台帳	○	-
	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設台帳（大気基準適用施設）	○	-
環境創造局 水・土壌環境課	横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づく石綿排出作業届出台帳	○	-
	水質汚濁防止法に基づく特定事業場等名簿	○	○
	下水道法令に基づく特定事業場等台帳	○	○
	工業用水法・横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づく揚水施設の名簿	○	-

※ 横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づく指定事業所リストは、2023 年 6 月 1 日から横浜市ウェブサイト（次の URL）での公表を開始し、同年 7 月 31 日に窓口閲覧を廃止しました。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/tetsuzuki/jigyosholist.html>

◆ 水質汚濁防止法に基づく特定事業場の名簿の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/suishitsu/jigyoujyoumeibo.html>

◆ 下水道法及び横浜市下水道条例に基づく特定事業場等の名簿の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/kiseishido/minasama/todokede/16.html>



生活環境保全条例



水質汚濁防止法



下水道法・下水道条例

二次元コード（各名簿の公表ページの URL）

## 第3章 連携による新たな取組の方針



## 3-1 取組方針の概要

生活環境は全ての環境の基礎であり、まちづくりや地球温暖化対策などの他の施策とも密接に関係しています。さらに、環境への負荷は、事業活動や市民生活などのあらゆる主体の活動に起因しています。また、SDGsの目標達成に向けて、環境・経済・社会をめぐる課題への統合的な解決や地球規模のパートナーシップなどの連携の考え方が示されています。これらを踏まえ、生活環境の保全の取組にあたって、施策間や主体間の連携による新たな取組を進めていきます。

ガイドラインでは、「連携による新たな取組の方針」として、4つの方針を設定しています。

表 3-1-1 連携による新たな取組の方針の概要

取組方針		概要
方針3-1	施策間の課題の同時解決	時代の要請に応じて、施策間の連携による生活環境の保全の取組を推進し、生活環境にとどまらない様々な課題の同時解決を目指していきます。
方針3-2	多様な環境課題への対応	生活環境の保全の基盤となる取組だけでは解決の難しい多様な環境課題に対して、様々な主体と連携して対応していきます。
方針3-3	身近な環境の魅力の向上	市民と連携した取組を進めることで、市民の身近な環境への関心を高め、地域の魅力の向上につなげていきます。
方針3-4	わかりやすい情報発信	環境情報のわかりやすい発信により、市民・事業者の生活環境への理解を深め、環境行動を促進し、連携による新たな取組につなげていきます。



## 3-2 2022年度の実施状況と今後の取組

### (1) 施策間の課題の同時解決

#### ア 賑わいを創出するイベントに伴う騒音への対応

⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-ア-(オ)」参照

### (2) 多様な環境課題への対応

#### ア 光化学オキシダント対策

光化学オキシダントによる大気汚染は全国的に改善が進んでいない状況にあり、市内の一般環境大気測定局の測定結果でも環境基準を達成できていないため、改善に向けて対策を進めていく必要があります。

◆ 光化学オキシダント常時監視について ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-ア-(ア),(イ)」参照

#### (ア) 広域調査

関東甲信静1都9県7市で構成する関東地方大気環境対策推進連絡会微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議で協同して、広域的な調査・解析を行っています。

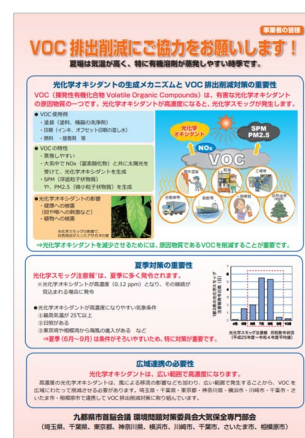
2022年度は、光化学オキシダントの発生原因物質の一つである揮発性有機化合物（VOC）について、関係自治体で日程を合わせて広域調査を実施しました。また、2020～2021年度調査の解析を行い、炭素数の少ないアルケン類やアルカン類は東京湾岸地域に発生源があることが推定されました。特に早朝の東京湾岸地域の低級アルケン類（プロピレン、1,3-ブタジエン等）は、関東地域のオゾン濃度上昇に大きく寄与している可能性が示唆されました。

◆ 広域的な連携組織による取組について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(シ)」参照

#### (イ) 原因物質の排出削減の取組

光化学オキシダントの主要な原因物質である窒素酸化物（NOx）や揮発性有機化合物（VOC）については、法令で排出基準が定められており、工場・事業場等に対して排出基準の遵守を指導しているほか、事業者自主的な排出削減を促す取組を進めています。

広域的な取組として、光化学オキシダントは夏季に高濃度となる傾向があるため、九都県市首脳会議大気保全専門部会や神奈川県公害防止推進協議会で連携し、夏季VOC対策を各自自治体のウェブサイト呼びかけています。九都県市首脳会議大気保全専門部会では、VOC対策リーフレットによる啓発も行っています。



VOC対策リーフレット

◆ 工場・事業場や自動車向けの大気汚染対策について ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-イ,ウ」参照

◆ 広域的な連携組織による取組について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(キ),(ケ)」参照

## イ PM2.5 対策

大気環境中の微小粒子状物質（PM2.5）濃度については、2011 年度から常時監視測定局において測定を開始しました。2016 年度に初めて全測定局で環境基準を達成してから、2022 年度まで継続して達成できています。また、2022 年度は全測定局で日平均値が  $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$  を超える日はありませんでした。この状況を維持していくための取組を継続していきます。

◆ PM2.5 常時監視について ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-ア-(ア),(ウ)」参照

### (ア) 広域調査

微小粒子状物質（PM2.5）による大気汚染は広域的な課題であることから、関東甲信静 1 都 9 県 7 市で構成する関東地方大気環境対策推進連絡会微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議で協同して、その汚染実態や発生源等を把握して対策を進めるための調査を行っています。2022 年度は、2021 年度調査結果を基に、季節ごとの成分組成の特徴や広域的な濃度分布の把握のほか、各種発生源の寄与割合等について発生要因等の解析を行いました。調査結果は、同調査会議のウェブサイト公開しています。



調査会議ウェブサイト  
(出典 <https://kanto-spm.org>)

また、神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会では、神奈川県内の PM2.5 の実態把握に取り組んでいます。大気中にアンモニアが高濃度で存在すると、ガス状物質の粒子化が進行し、PM2.5 が生成することが知られています。2022 年度は、これまでの調査結果を基に想定された地域の発生源を明らかにするため、県内及び県外での調査を実施しました。

◆ 広域的な連携組織による取組について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(ク),(シ)」参照

### (イ) 原因物質の排出削減の取組

微小粒子状物質（PM2.5）は、工場・事業場及び自動車などが主な発生源と考えられていますが、これらから排出される粒子状物質のほかに、ガス状物質が大気中で光化学反応により粒子化するものもあります。PM2.5 生成の原因となる硫酸酸化物（SOx）や窒素酸化物（NOx）、揮発性有機化合物（VOC）などの物質については、法令で排出基準が設定されており、工場・事業場等に対して排出基準の遵守を指導しているほか、事業者自主的な排出削減を促す取組も進めています。また、近隣自治体と九都県市首脳会議大気保全専門部会、神奈川県公害防止推進協議会などの広域的な連携組織による取組を行っています。

◆ 工場・事業場や自動車向けの大気汚染対策について ⇒ 「2-1 大気環境の保全 (2)-イ,ウ」参照

◆ 広域的な連携組織による取組について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(キ),(ケ)」参照

## ウ 放射線対策

横浜市では、災害時に設置される災害対策本部の組織に放射線対策チームを組み込んでいます。このチームは主管局を健康福祉局\*とし、消防局、水道局、環境創造局等の関係局で構成されており、災害時に備えて定期的に訓練を行っています。2022 年 9 月及び 2023 年 1 月に実施された市災害対策本部運営訓練では、放射線対策チームの各局が連携し、大規模地震の発災時における放

射線モニタリングポストの測定値の動向や放射性同位元素保有施設等の被災状況の把握及びその対応等に関する運営訓練を行いました。

また、環境創造局監視センターでは、平常時の監視として保土ヶ谷区仏向西に放射線モニタリングポストを設置しており、大気中の空間放射線量（ガンマ線）の測定を継続して実施しています。測定結果は1時間ごとのデータとして横浜市ウェブサイトですぐ公表しています。

※ 機構改革により、2023年度から主管局は医療局になりました。

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/kanshi\\_center/kanshi.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/kanshi_center/kanshi.html)



二次元コード（下記 URL）

◆ 2022年度の空間放射線量の測定結果 ⇒ 「4-1 大気環境の監視 (8)」参照

## エ マイクロプラスチックへの対応

近年、5 mm 未満の微細なプラスチックごみ（マイクロプラスチック）が生態系に及ぼす影響が懸念されています。

横浜市では、国や近隣自治体等と連携して情報共有や意見交換を行うとともに、市内水域の実態把握を進めています。2019年度から2022年度までの調査では、市内の河川（鶴見川、帷子川、大岡川、柏尾川）や水再生センター（11か所全て）において、マイクロプラスチックが確認されました。

また、生活環境保全条例に基づく「環境への負荷の低減に関する指針（事業所の配慮すべき事項）」において、樹脂ペレットの漏出防止に係る自主的な取組を規定し、対象事業者への周知や指導を行っています。



マイクロプラスチック調査の河川でのサンプリングの様子

## オ 屋外燃焼行為への対応

⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-ア-(イ)」参照

## カ 大規模小売店舗の立地に伴う騒音等への対応

⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-ア-(カ)」参照

## キ 関係機関と連携した災害対策

地震や豪雨などの大規模災害が発生した際には、人の健康や生活環境に悪影響を及ぼすおそれがある有害化学物質やアスベスト（石綿）が、環境中に飛散・漏えい等する可能性があります。横浜市では、災害時の調査体制を強化するため、関係機関と協定を締結し、協力体制を確保しています。協定締結から2022年度末までの間、協定に基づく協力要請が行われたことはありませんが、災害発生に備え、協力体制を継続していきます。

また、災害時のアスベスト対策の一環として、横浜市防災計画を補完する「横浜市災害時におけ

る石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル（2022年3月）」を備え、庁内関係部署が行う具体的な行動や業務内容等の整理、市民等に向けた注意喚起等を行い、平常時から準備を進めています。このほかに、「災害時アスベスト対策支援のための関東ブロック協議会※」に参加し、環境省、地方公共団体、各種団体等との連携に向けた情報共有等を行っています。

※ この協議会は、関東ブロック（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県及び静岡県）において、都県域を越えた連携が必要となる災害の発生時に、環境省、地方公共団体、各種団体等の連携・協力体制を構築することを目的とし、2019年度に設置されました。

#### (ア) 災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定

地震災害や大規模火災等の都市災害が発生した場合に、有害化学物質による環境汚染の状況を迅速に把握するため、民間の検査機関団体である横浜市環境技術協議会と「災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定（1999年8月締結、2020年12月1日改定）」を締結しています。

2022年度は、平常時の協力として、協議会と連携した技術研修会を2023年2月に実施しました。この研修会では、協議会の会員（6社）が参加し、排水等の規制項目である生物化学的酸素要求量（BOD）について、分析精度管理と技術研修を行いました。また、毎年度の取組として、災害発生時に円滑な活動ができるよう連絡体制の情報を共有しました。



分析用器具

◆ 協定の概要 ⇒ 「4-5 各種協定 (4)」参照

#### (イ) 災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定

市内で地震等の災害が発生した場合に、被災建築物のアスベスト（石綿）調査を速やかに実施し、アスベスト飛散による汚染の拡大や被害を防止するため、建築物石綿含有建材調査者の業界団体である一般社団法人建築物石綿含有建材調査者協会（ASA）と「災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定（2019年1月締結）」を締結しています。

2022年度は、平常時の協力として、実際の建築物を用いてアスベスト含有建材の基礎知識や見分け方を学ぶ研修を実施しました。また、毎年度の取組として、災害発生時に円滑な活動ができるよう連絡体制の情報を共有しました。



ASAの協力による研修

◆ 協定の概要 ⇒ 「4-5 各種協定 (5)」参照



## ク 事業者との継続的なコミュニケーション

現在の横浜の環境は、環境基準の多くが達成されています。また、世界的な情勢に目を向けると、環境を取り巻く状況は大きく変化しています。このような中、横浜の環境をより良くするためには、これまでの規制を中心とした環境保全行政から発展して、企業と行政が環境情報の共有や積極的対話を行いながら進めていく必要があります。

そのため、横浜市では、市内で積極的な環境活動を行っている事業所と意見交換を行い、公民連携による取組を検討していますが、2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業者との意見交換会や環境法令出前講座は中止しています。企業と協働で作成した横浜の環境保全と企業の取組を紹介するパンフレット（2020年3月発行）は、引き続き、窓口での配架と横浜市ウェブサイトへの掲載を行っています。



二次元コード（下記 URL）

◆ 「横浜の環境保全と企業の取組」パンフレットの掲載ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/hozentorikumi/jtorikumi/kankyohozentokigyo.html>

## ケ 広域異臭への対応

横浜市では微小粒子状物質（PM2.5）などの大気環境の状況をリアルタイムで測定し、異常がないかモニタリングするとともに、常時監視データを横浜市ウェブサイトで公表しています。

2020年10月以降に市内では、局地的に「ガス臭がする」などの119番通報が多数寄せられ、原因究明のため、各区消防署、水再生センター、横浜駅に乗り入れる鉄道事業者に臭気採取用のポンプと袋を配備し、異臭発生時に試料を採取する体制を構築しました。現場で採取した試料は環境科学研究所等で分析し、原因究明に取り組んでいます。

◆ 「令和2年10月以降、市内で発生している異臭について」の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/hozentorikumi/isyu.html>



二次元コード（上記 URL）



サンプリングに用いる器具

## (3) 身近な環境の魅力の向上

### ア 東京湾環境一斉調査

⇒ 「2-2 水環境の保全 (2)-ア-(ウ)」参照

## (4) わかりやすい情報発信

### ア 環境に対する意識等の把握

横浜市では、環境に対する意識や環境に配慮した行動の実施状況などを把握するため、アンケート形式による調査を実施しています。調査結果は、わかりやすく整理して公表するとともに、環境管理計画やガイドライン等の進捗把握※、環境分野の市政運営や政策立案の基礎資料として活用しています。

※ 2022 年度までに実施した取組の状況を、2023 年度の調査で確認しています。2023 年度の調査では、企業を対象にした「環境に関する企業意識調査」は実施しませんでした。

### (ア) 環境に関する市民意識調査

2023 年度の調査は 7 月に実施し、16 歳以上の市民 3,000 人のうち、1,323 人（回収率 44.1%）から回答がありました。

環境や環境の取組への関心があると答えた市民 1,170 人に対し、関心がある項目を聞いたところ、「大気汚染対策」を選択した市民の割合は 49.0%、「水質汚濁対策」は 45.0%、「騒音・振動対策」は 31.5%でした。



二次元コード（下記 URL）

また、身のまわりの環境の重要度について聞いたところ、「集積場所のごみ散乱やポイ捨てなどがなく清潔できれいなまちである」が「重要・少し重要」と回答した市民の割合が 97.8%、「大気汚染や騒音、臭いなどの心配がなく快適に暮らせている」が「重要・少し重要」と回答した市民の割合が 96.8%でした。現状についての肯定的所感※と重要度を比較したところ、「公園や街路樹、里山など、花や緑を感じられる場所がある」の肯定的所感が 87.7%、重要度が 93.0%となり、差が最も小さくなりました。

なお、調査結果については、横浜市ウェブサイトで公表しています。

※ 肯定的所感：選択肢に対し、「そう思う」「少しそう思う」と回答した割合

#### ◆ 調査結果の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/shiminchousa.html>

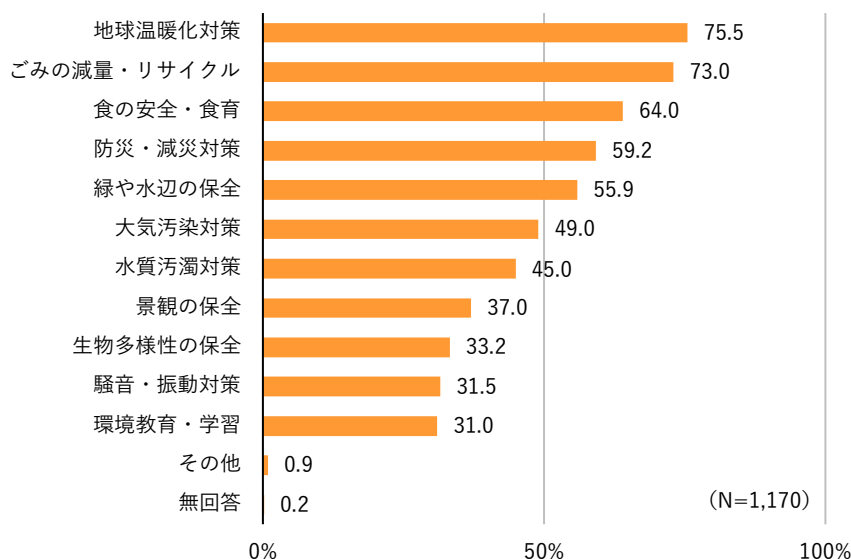


図 3-2-1 環境や環境の取組に関心がある市民に対して関心がある項目を聞いた結果（複数選択）

## イ 広報物による情報発信

市民や事業者に対し、ガイドラインに基づく取組をわかりやすく伝える手段の一つとして、年次報告書やリーフレットなどの広報物を作成しています。電子版を作成したものは、横浜市ウェブサイトで公表しています。

◆ ガイドラインに基づく取組に関する広報物 ⇒ 「4-10 広報物による情報発信 (1)」参照

◆ 生活環境保全に関する広報・プロモーション ⇒ 「3-2 (4) わかりやすい情報発信 ケ」参照

## ウ 「かんきょう横浜」による広報

「かんきょう横浜」は、横浜市環境保全協議会が隔月で発行する会員向けの会報誌で、協議会のウェブサイトに掲載されています。横浜市では、事業者の環境保全活動の推進に役立てられるように環境に関する法律・条例の改正内容や公害防止のための啓発等の情報をわかりやすく解説した記事を掲載し、関係者への周知を図っています。今後も適切な時期にわかりやすい情報発信を行い、生活環境に関する理解の促進につなげていきます。

◆ 横浜市環境保全協議会について ⇒ 「2-5 分野横断の取組 (2)-ア-(カ)」参照

表 3-2-1 「かんきょう横浜」への記事掲載の状況 (2022 年度)

掲載号	記事名称
2022 年 7 月号	・ほう素及びその化合物並びにふっ素及びその化合物に係る暫定基準の適用の終了について
2022 年 9 月号	・「土壌汚染対策法施行規則」及び「横浜市生活環境の保全等に関する条例施行規則」が改正されました
2022 年 11 月号	・大気汚染防止法施行令の一部改正について ・騒音規制法施行令及び振動規制法施行令の一部改正について ・東京湾における化学的酸素要求量等に係る第 9 次総量削減計画 (神奈川県) が策定されました。

## エ 生活環境保全推進ガイドラインの周知

生活環境保全推進ガイドライン年次報告書 (2021 年度実績) は、2023 年 3 月に発行しました。その内容を広く周知するため、市民情報センター、横浜市立図書館、各区役所等へ配架するとともに、横浜市ウェブサイトに全文を掲載しました。

◆ 公表ページ URL について ⇒ 巻末の奥付参照



## オ 市民・事業者との連携に向けた環境情報などのオープンデータ化

横浜市の大気環境の常時監視測定局の測定データは、1978年度から毎年度、「大気環境月報」として公表しています。月報の測定データは、過去のものを含め、デジタルデータとして横浜市ウェブサイトに掲載しており、誰でも自由に利用できるようにしています。このほかの環境情報についても、市民や事業者が容易にアクセスできるよう横浜市ウェブサイト等で公表しています。

また、横浜市オープンデータの推進に関する指針の趣旨を踏まえたデータ公開に取り組んでおり、大気汚染調査報告書データ集（CSV形式）の提供を進めています。



大気環境月報公表ページ

◆ 大気環境月報の公表ページ URL について ⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-イ-(ウ)」参照

◆ 環境情報の公表の取組について ⇒ 「2-6 市民生活に関連した取組 (2)-イ」参照

## カ 地質調査結果の公表の取組（地盤 View）

横浜市の公共事業における地質調査結果を集約し、行政地図情報提供システム（地盤 View）によりボーリングデータ（柱状図）を横浜市が運営するウェブサイトで公表しています。地盤 View では、ボーリングデータが登録されている地点が地図上に示されており、閲覧者がわかりやすく情報にアクセスできるようになっています。2022年度末時点で9,885件のデータを公開しており、今後も定期的に更新していく予定です。



二次元コード（下記 URL）

◆ 地盤 View のページ（横浜市行政地図情報提供システム） ⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/yokohama/Portal>

## キ 横浜市立大学との連携による講義「環境保全学」

横浜市では、横浜市立大学と連携した取組として、専門課程の学生を対象とした授業科目「環境保全学」に講師を派遣しています。この取組は次世代の環境を担う人材育成を目的としており、環境課題に対する学生の理解を深めるため、環境保全に関する科学技術や政策、法整備等について、実務を担っている横浜市職員が講義を行っています。

2022年度は、全12回の講義とし、SDGs、典型七公害、化学物質対策、環境影響評価、上下水道、脱炭素社会、生物多様性及び廃棄物対策の各テーマを各回に分けて講義したほか、横浜市環境科学研究所の施設見学により、生活環境に係る分析・研究業務の講義も行いました。

## ク X (旧 Twitter) 「横浜 GO GREEN」による情報発信

環境創造局・資源循環局・温暖化対策統括本部では、環境のことを考えるきっかけになる情報や環境イベント等の市民向けのお知らせを発信するため、X (旧 Twitter) を活用しています。生活環境の保全に関する分野では、2022 年度は、記者発表や広報印刷物、関連情報等の周知を行い、6月の環境月間には環境保全に関する話題やクイズなどを発信しました。

※ 2022 年 4 月からアカウント名を「横浜環境情報」から「横浜 GO GREEN」に変更しました。

◆ 横浜 GO GREEN (@yokohama\_kankyo) のページ ⇒ [https://twitter.com/yokohama\\_kankyo](https://twitter.com/yokohama_kankyo)



二次元コード (下記 URL)

## ケ 生活環境保全に関する広報・プロモーション

横浜の環境を「ゆるっと学ぼう」をコンセプトに掲げ、分かりやすく親しみやすい内容で生活環境保全に関する広報・プロモーションを行うため、横浜市ウェブサイト「Y-Labo (ワイラボ)」を 2023 年 1 月に立ち上げました。2022 年度は、動画「水質事故編～みんなできれいな川を守ろう～」を作成し、横浜市公式 YouTube で公開しました。

◆ Y-Labo の公表ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/hozentorikumi/ylabo.html>



二次元コード (上記 URL)



動画「水質事故編～みんなできれいな川を守ろう～」

## コ 夏休み子ども環境科学教室の開催

2022 年 8 月に開催された夏休み体験学習プログラム「子どもアドベンチャーカレッジ 2022」において、環境科学研究所のプログラムとして、市内の小学生を対象にした夏休み子ども環境科学教室を開催しました。当日は、マイクロプラスチック、暑さしらべ、横浜で見られるセミをテーマとしたプログラムで実験や観察などを行い、環境に関する様々な体験ができる内容としました。「水環境問題 ～マイクロプラスチックを調べてみよう～」のプログラムでは、海岸の砂の中のマイクロプラスチック調査を疑似体験し、実際の機器を用いて分析を行いました。



マイクロプラスチック調査を体験しよう！  
※写真の一部を加工しています



## 第4章 資料編

## 4-1 大気環境の監視

### (1) 大気汚染常時監視測定局及び測定項目

種別	地点番号	測定局名	2022年度の測定項目							
			二酸化硫黄	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	二酸化窒素	光化学オキシダント	微小粒子状物質	炭化水素 <sup>※1</sup>	有害大気汚染物質
一般環境大気測定局 (一般局)	1	鶴見区潮田交流プラザ <sup>a</sup>	○	-	○	○	○	○	○	○
	2	神奈川区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
	3	港北区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
	4	中区加曽台 <sup>※2</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-
	5	磯子区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
	6	保土ヶ谷区桜丘高校	○	-	○	○	○	○	-	-
	7	西区平沼小学校	○	-	○	○	○	○	-	-
	8	金沢区長浜	○	-	○	○	○	○	○	-
	9	鶴見区生麦小学校	-	-	○	○	○	-	○	-
	10	中区本牧	○	-	○	○	○	○	○	※4
	11	戸塚区汲沢小学校	○	-	○	○	○	-	-	-
	12	港南区野庭中央公園 <sup>※3</sup>	○	-	○	○	○	○	-	-
	13	旭区鶴ヶ峯小学校	○	-	○	○	○	○	○	-
	14	瀬谷区南瀬谷小学校	○	-	○	○	○	○	-	-
	15	南区横浜商業高校	○	-	○	○	○	○	-	-
	16	栄区上郷小学校	○	-	○	○	○	○	-	-
	17	緑区三保小学校	○	-	○	○	○	○	○	○
	18	青葉区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
	19	都筑区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
	20	泉区総合庁舎	○	-	○	○	○	○	-	-
自動車排出ガス測定局 (自排局)	21	鶴見区下末吉小学校	-	-	○	○	-	-	-	-
	22	西区浅間下交差点	-	○	○	○	-	○	○	-
	23	港南中学校	-	-	○	○	-	-	-	-
	24	戸塚区矢沢交差点	-	-	○	○	-	○	○	※4
	25	旭区都岡小学校	-	○	○	○	-	-	○	-
	26	青葉台	-	○	○	○	-	○	-	-
	27	資源循環都筑工場前	-	-	○	○	-	-	-	-
	28	磯子区滝頭	-	-	○	○	-	-	○	○

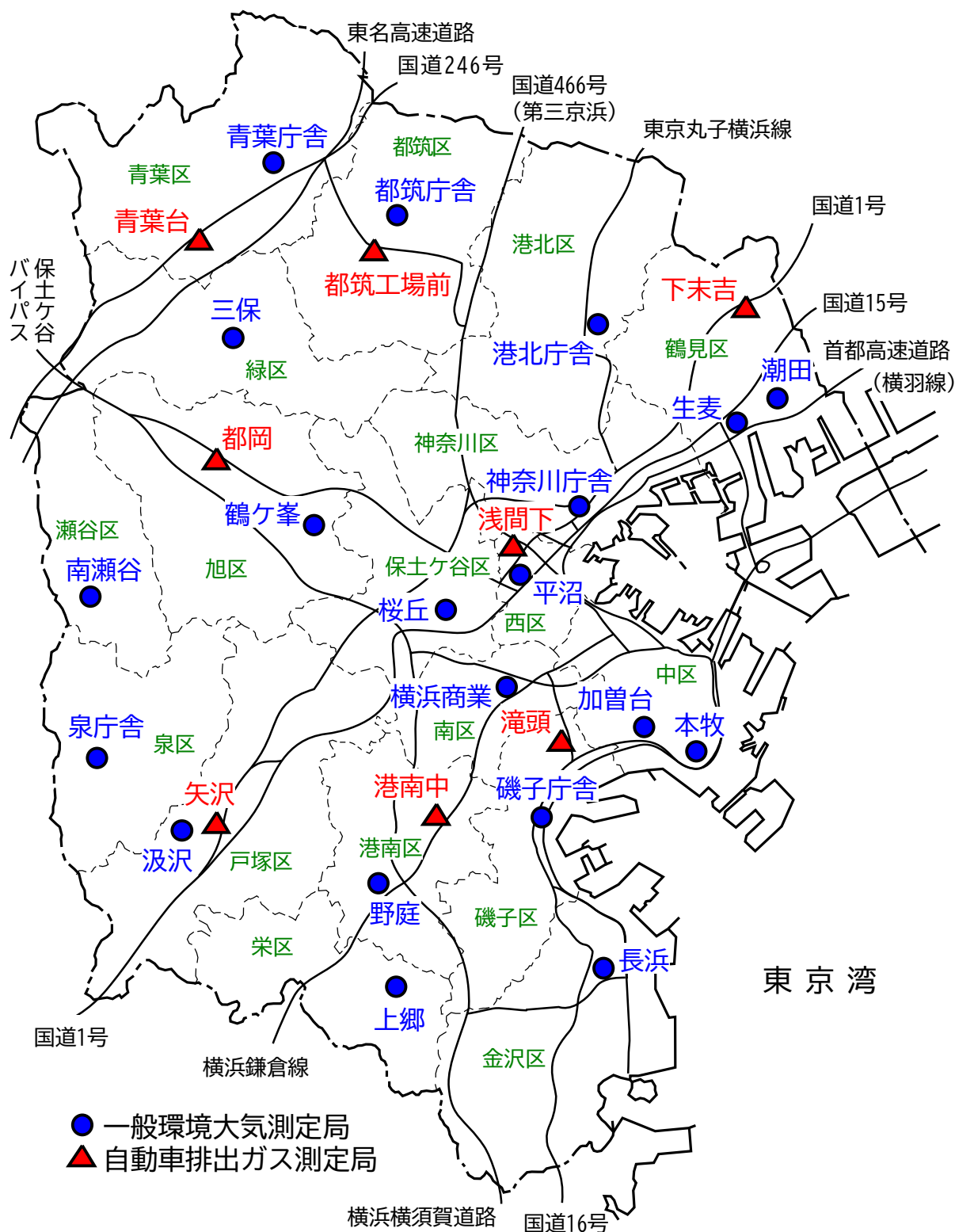
※1 炭化水素は、非メタン炭化水素、メタン及び全炭化水素の区分で測定しています。

※2 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより2020年度から測定を休止しており、2022年度末に廃止されました。この表は2022年度の内容のため、当該測定局も掲載されています。

※3 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。

※4 有害大気汚染物質の測定は、一般局では、「鶴見区潮田交流プラザ」で毎年行うとともに、「中区本牧」と「緑区三保小学校」の2局で年度ごとに交互に測定しています。また、自排局では、「戸塚区矢沢交差点」と「磯子区滝頭」の2局で年度ごとに交互に測定しています。

(2) 大気汚染常時監視測定局の配置図



※ 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより 2020 年度から測定を休止しており、2022 年度末に廃止されました。この図は 2022 年度の配置図のため、当該測定局も掲載されています。

### (3) 常時監視測定結果

#### ア 二酸化硫黄（一般局）

##### (7) 2022年度の測定結果

測定局	年平均値	1時間値が 0.1ppmを 超えた時間数	日平均値が 0.04ppmを 超えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否 <sup>※1</sup>
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.002	0	0	0.004	○
神奈川区総合庁舎	0.002	0	0	0.004	○
港北区総合庁舎	0.002	0	0	0.003	○
磯子区総合庁舎	0.002	0	0	0.004	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.002	0	0	0.003	○
西区平沼小学校	0.002	0	0	0.003	○
金沢区長浜	0.002	0	0	0.003	○
中区本牧	0.002	0	0	0.004	○
戸塚区汲沢小学校	0.001	0	0	0.002	○
港南区野庭中央公園 <sup>※2</sup>	0.002	0	0	0.003	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.002	0	0	0.003	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.002	0	0	0.003	○
南区横浜商業高校	0.002	0	0	0.004	○
栄区上郷小学校	0.001	0	0	0.003	○
緑区三保小学校	0.002	0	0	0.002	○
青葉区総合庁舎	0.002	0	0	0.003	○
都筑区総合庁舎	0.001	0	0	0.002	○
泉区総合庁舎	0.002	0	0	0.003	○
一般局平均	0.002	—	—	0.003	—

※1 二酸化硫黄の環境基準は「日平均値が0.04 ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1 ppm以下であること」であり、2%除外値を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価します。

※2 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。



(イ) 年平均値の経年推移

測定局	年度別の年平均値 (ppm)				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002
神奈川区総合庁舎	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002
港北区総合庁舎	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
磯子区総合庁舎	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002
保土ヶ谷区桜丘高校	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
西区平沼小学校	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
金沢区長浜	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
中区本牧	0.004	0.004	0.003	0.002	0.002
戸塚区汲沢小学校	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001
港南区野庭中央公園 <sup>※1</sup>	0.002	0.002	—	0.001	0.002
旭区鶴ヶ峯小学校	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
瀬谷区南瀬谷小学校	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
南区横浜商業高校	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002
栄区上郷小学校	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001
緑区三保小学校	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
青葉区総合庁舎	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
都筑区総合庁舎	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001
泉区総合庁舎	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
一般局平均	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002

※1 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。  
また、この移転作業のため、2020年度の測定を休止しました。

## イ 一酸化炭素（自排局）

### (ア) 2022年度の測定結果

測定局	年平均値	8時間値が 20ppmを 超えた回数	日平均値が 10ppmを 超えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価に よる環境基準 の適否 <sup>※1</sup>
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適○ 否×)
西区浅間下交差点	0.4	0	0	0.7	○
旭区都岡小学校	0.5	0	0	0.8	○
青葉台	0.4	0	0	0.6	○
自排局平均	0.4	—	—	0.7	—

※1 一酸化炭素の環境基準は「日平均値が10ppm以下であり、かつ、8時間平均値が20ppm以下であること」であり、2%除外値を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価します。

### (イ) 年平均値の経年推移

測定局	年度別の年平均値 (ppm)				
	2018	2019	2020	2021	2022
西区浅間下交差点	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4
旭区都岡小学校	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5
青葉台	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
自排局平均	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4

ウ 浮遊粒子状物質（一般局・自排局）

(ア) 2022年度の測定結果

測定局	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた 時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数とその割合		日平均値の 2%除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	長期的評価 による 環境基準の 適否 <sup>※1</sup> (適○ 否×)
			(日)	(%)		
鶴見区潮田交流プラザ	0.016	0	0	0	0.032	○
神奈川区総合庁舎	0.015	0	0	0	0.032	○
港北区総合庁舎	0.016	0	0	0	0.032	○
中区加曽台 <sup>※2</sup>	—	—	—	—	—	—
磯子区総合庁舎	0.015	0	0	0	0.035	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.014	0	0	0	0.029	○
西区平沼小学校	0.016	0	0	0	0.031	○
金沢区長浜	0.017	0	0	0	0.036	○
鶴見区生麦小学校	0.017	0	0	0	0.035	○
中区本牧	0.014	0	0	0	0.030	○
戸塚区汲沢小学校	0.015	0	0	0	0.030	○
港南区野庭中央公園 <sup>※3</sup>	0.015	0	0	0	0.030	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.015	0	0	0	0.032	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.017	0	0	0	0.034	○
南区横浜商業高校	0.015	0	0	0	0.031	○
栄区上郷小学校	0.014	0	0	0	0.030	○
緑区三保小学校	0.016	0	0	0	0.031	○
青葉区総合庁舎	0.016	0	0	0	0.032	○
都筑区総合庁舎	0.015	0	0	0	0.033	○
泉区総合庁舎	0.015	0	0	0	0.033	○
一般局平均	0.015	—	—	—	0.032	—
鶴見区下末吉小学校	0.015	0	0	0	0.037	○
西区浅間下交差点	0.015	0	0	0	0.030	○
港南中学校	0.015	0	0	0	0.031	○
戸塚区矢沢交差点	0.014	0	0	0	0.029	○
旭区都岡小学校	0.016	0	0	0	0.035	○
青葉台	0.015	0	0	0	0.031	○
資源循環都筑工場前	0.013	0	0	0	0.029	○
磯子区滝頭	0.015	0	0	0	0.031	○
自排局平均	0.015	—	—	—	0.032	—

※1 浮遊粒子状物質の環境基準は「日平均値が0.10 mg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m<sup>3</sup>以下であること」であり、2%除外値を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価します。

※2 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより2020年度から測定を休止しており、2022年度末に廃止されました。この表は2022年度の内容のため、当該測定局も掲載されています。

※3 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。

## (イ) 年平均値の経年推移

測定局	年度別の年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	0.018	0.017	0.016	0.015	0.016
神奈川区総合庁舎	0.018	0.018	0.016	0.014	0.015
港北区総合庁舎	0.018	0.018	0.017	0.016	0.016
中区加曽台 <sup>※1</sup>	0.018	0.015	—	—	—
磯子区総合庁舎	0.018	0.016	0.014	0.014	0.015
保土ヶ谷区桜丘高校	0.017	0.015	0.014	0.013	0.014
西区平沼小学校	0.019	0.017	0.015	0.015	0.016
金沢区長浜	0.018	0.016	0.016	0.015	0.017
鶴見区生麦小学校	0.019	0.018	0.018	0.016	0.017
中区本牧	0.018	0.016	0.014	0.014	0.014
戸塚区汲沢小学校	0.018	0.016	0.015	0.014	0.015
港南区野庭中央公園 <sup>※2</sup>	0.017	0.016	—	0.014	0.015
旭区鶴ヶ峯小学校	0.017	0.017	0.017	0.015	0.015
瀬谷区南瀬谷小学校	0.019	0.018	0.016	0.016	0.017
南区横浜商業高校	0.018	0.017	0.015	0.015	0.015
栄区上郷小学校	0.017	0.015	0.015	0.013	0.014
緑区三保小学校	0.018	0.017	0.017	0.015	0.016
青葉区総合庁舎	0.017	0.016	0.016	0.015	0.016
都筑区総合庁舎	0.017	0.017	0.016	0.015	0.015
泉区総合庁舎	0.018	0.015	0.014	0.015	0.015
一般局平均	0.018	0.017	0.016	0.015	0.015
鶴見区下末吉小学校	0.018	0.016	0.015	0.014	0.015
西区浅間下交差点	0.019	0.016	0.015	0.015	0.015
港南中学校	0.019	0.017	0.016	0.015	0.015
戸塚区矢沢交差点	0.018	0.015	0.015	0.014	0.014
旭区都岡小学校	0.017	0.015	0.015	0.014	0.016
青葉台	0.018	0.016	0.014	0.014	0.015
資源循環都筑工場前	0.016	0.015	0.014	0.013	0.013
磯子区滝頭	0.019	0.017	0.016	0.015	0.015
自排局平均	0.018	0.016	0.015	0.014	0.015

※1 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより2020年度から測定を休止しており、2022年度末に廃止されました。

※2 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。また、この移転作業のため、2020年度の測定を休止しました。

## エ 二酸化窒素（一般局・自排局）

### (ア) 2022 年度の測定結果

測定局	年平均値 (ppm)	日平均値が 0.06ppm を 超えた日数とその割合		日平均値の 年間 98% 値 (ppm)	98% 値評価 による 日平均値が 0.06ppm を 超えた日数		98% 値評価 による 環境基準 の適否 <sup>※1</sup>		横浜市の 環境目標値 の適否 <sup>※2</sup>	
		(日)	(%)		(日)	(適○ 否×)	(適○ 否×)			
鶴見区潮田交流プラザ	0.016	0	0	0.033	0	○	○			
神奈川区総合庁舎	0.015	0	0	0.033	0	○	○			
港北区総合庁舎	0.014	0	0	0.031	0	○	○			
中区加曽台 <sup>※3</sup>	—	—	—	—	—	—	—			
磯子区総合庁舎	0.016	0	0	0.035	0	○	○			
保土ヶ谷区桜丘高校	0.012	0	0	0.030	0	○	○			
西区平沼小学校	0.014	0	0	0.033	0	○	○			
金沢区長浜	0.011	0	0	0.026	0	○	○			
鶴見区生麦小学校	0.015	0	0	0.033	0	○	○			
中区本牧	0.015	0	0	0.033	0	○	○			
戸塚区汲沢小学校	0.011	0	0	0.027	0	○	○			
港南区野庭中央公園 <sup>※4</sup>	0.012	0	0	0.029	0	○	○			
旭区鶴ヶ峯小学校	0.011	0	0	0.029	0	○	○			
瀬谷区南瀬谷小学校	0.011	0	0	0.027	0	○	○			
南区横浜商業高校	0.014	0	0	0.033	0	○	○			
栄区上郷小学校	0.011	0	0	0.027	0	○	○			
緑区三保小学校	0.010	0	0	0.025	0	○	○			
青葉区総合庁舎	0.012	0	0	0.027	0	○	○			
都筑区総合庁舎	0.012	0	0	0.028	0	○	○			
泉区総合庁舎	0.012	0	0	0.030	0	○	○			
一般局平均	0.013	—	—	0.030	—	—	—			
鶴見区下末吉小学校	0.019	0	0	0.037	0	○	○			
西区浅間下交差点	0.020	0	0	0.039	0	○	○			
港南中学校	0.016	0	0	0.034	0	○	○			
戸塚区矢沢交差点	0.014	0	0	0.030	0	○	○			
旭区都岡小学校	0.018	0	0	0.032	0	○	○			
青葉台	0.015	0	0	0.031	0	○	○			
資源循環都筑工場前	0.013	0	0	0.028	0	○	○			
磯子区滝頭	0.016	0	0	0.033	0	○	○			
自排局平均	0.016	—	—	0.033	—	—	—			

※1 二酸化窒素の環境基準は「日平均値が 0.04 ppm から 0.06 ppm までのゾーン内、又はそれ以下であること」であり、年間 98% 値を環境基準と比較して評価します。

※2 横浜市では環境基準のゾーン下限値（0.04 ppm）を環境目標値としています。

※3 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより 2020 年度から測定を休止しており、2022 年度末に廃止されました。この表は 2022 年度の内容のため、当該測定局も掲載されています。

※4 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により 2021 年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。

(イ) 年平均値の経年推移

測定局	年度別の年平均値 (ppm)				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	0.018	0.018	0.016	0.016	0.016
神奈川区総合庁舎	0.017	0.017	0.015	0.015	0.015
港北区総合庁舎	0.016	0.015	0.014	0.014	0.014
中区加曽台 <sup>※1</sup>	0.017	0.017	—	—	—
磯子区総合庁舎	0.017	0.017	0.016	0.016	0.016
保土ヶ谷区桜丘高校	0.014	0.014	0.013	0.012	0.012
西区平沼小学校	0.017	0.017	0.016	0.015	0.014
金沢区長浜	0.014	0.013	0.013	0.012	0.011
鶴見区生麦小学校	0.018	0.017	0.016	0.015	0.015
中区本牧	0.017	0.017	0.017	0.016	0.015
戸塚区汲沢小学校	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011
港南区野庭中央公園 <sup>※2</sup>	0.013	0.013	—	0.013	0.012
旭区鶴ヶ峯小学校	0.014	0.013	0.012	0.011	0.011
瀬谷区南瀬谷小学校	0.013	0.013	0.012	0.012	0.011
南区横浜商業高校	0.016	0.015	0.014	0.015	0.014
栄区上郷小学校	0.012	0.012	0.012	0.011	0.011
緑区三保小学校	0.012	0.012	0.011	0.010	0.010
青葉区総合庁舎	0.015	0.014	0.013	0.013	0.012
都筑区総合庁舎	0.014	0.013	0.012	0.012	0.012
泉区総合庁舎	0.014	0.013	0.012	0.013	0.012
一般局平均	0.015	0.015	0.014	0.013	0.013
鶴見区下末吉小学校	0.019	0.020	0.018	0.019	0.019
西区浅間下交差点	0.024	0.023	0.021	0.021	0.020
港南中学校	0.018	0.018	0.016	0.017	0.016
戸塚区矢沢交差点	0.019	0.018	0.017	0.017	0.014
旭区都岡小学校	0.017	0.017	0.016	0.017	0.018
青葉台	0.018	0.018	0.017	0.016	0.015
資源循環都筑工場前	0.015	0.015	0.014	0.013	0.013
磯子区滝頭	0.018	0.019	0.017	0.017	0.016
自排局平均	0.019	0.019	0.017	0.017	0.016

※1 「中区加曽台」測定局は、測定体制の見直しにより2020年度から測定を休止しており、2022年度末に廃止されました。

※2 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。また、この移転作業のため、2020年度の測定を休止しました。



オ 光化学オキシダント（一般局）

(ア) 2022年度の測定結果※<sup>1</sup>

測定局	昼間の 1時間値の 年平均値	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた 日数と時間数		昼間の1時間値が 0.12ppm以上の 日数と時間数		昼間の 1時間値の 最高値	環境基準の 適否※ <sup>2</sup>
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.029	44	149	0	0	0.104	×
神奈川区総合庁舎	0.029	52	197	0	0	0.114	×
港北区総合庁舎	0.031	56	234	1	1	0.127	×
磯子区総合庁舎	0.028	31	104	0	0	0.093	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.030	50	213	0	0	0.114	×
西区平沼小学校	0.029	48	172	0	0	0.107	×
金沢区長浜	0.028	39	174	0	0	0.107	×
鶴見区生麦小学校	0.029	44	155	0	0	0.119	×
中区本牧	0.028	40	141	0	0	0.098	×
戸塚区汲沢小学校	0.034	70	333	0	0	0.097	×
港南区野庭中央公園※ <sup>3</sup>	0.032	59	257	0	0	0.099	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.033	66	311	0	0	0.109	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.031	49	217	0	0	0.093	×
南区横浜商業高校	0.031	60	265	0	0	0.116	×
栄区上郷小学校	0.033	65	305	0	0	0.101	×
緑区三保小学校	0.031	64	287	0	0	0.117	×
青葉区総合庁舎	0.031	68	311	2	4	0.135	×
都筑区総合庁舎	0.033	72	328	3	5	0.133	×
泉区総合庁舎	0.032	60	277	0	0	0.093	×
一般局平均	0.031	—	—	—	—	—	—

※<sup>1</sup> 光化学オキシダントの測定において、「昼間」とは、5時00分から20時00分までの時間帯をいいます。

※<sup>2</sup> 光化学オキシダントの環境基準は「1時間値が0.06ppm以下であること」であり、昼間の全ての1時間値によって評価します。

※<sup>3</sup> 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。

(イ) 昼間の日最高1時間値の年平均値の経年推移

測定局	年度別の「昼間の日最高1時間値の年平均値」(ppm)				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	0.042	0.040	0.041	0.044	0.042
神奈川区総合庁舎	0.043	0.042	0.043	0.043	0.043
港北区総合庁舎	0.045	0.043	0.043	0.046	0.044
磯子区総合庁舎	0.043	0.041	0.041	0.042	0.040
保土ヶ谷区桜丘高校	0.044	0.042	0.042	0.045	0.043
西区平沼小学校	0.043	0.042	0.042	0.044	0.042
金沢区長浜	0.042	0.041	0.042	0.044	0.040
鶴見区生麦小学校	0.043	0.043	0.042	0.044	0.043
中区本牧	0.042	0.041	0.041	0.043	0.041
戸塚区汲沢小学校	0.048	0.047	0.048	0.049	0.047
港南区野庭中央公園 <sup>※1</sup>	0.046	0.042	—	0.046	0.044
旭区鶴ヶ峯小学校	0.048	0.045	0.046	0.048	0.046
瀬谷区南瀬谷小学校	0.044	0.044	0.044	0.045	0.044
南区横浜商業高校	0.046	0.043	0.042	0.045	0.044
栄区上郷小学校	0.047	0.045	0.046	0.048	0.046
緑区三保小学校	0.047	0.045	0.046	0.047	0.046
青葉区総合庁舎	0.047	0.046	0.046	0.047	0.046
都筑区総合庁舎	0.049	0.048	0.047	0.049	0.047
泉区総合庁舎	0.046	0.044	0.044	0.047	0.045
一般局平均	0.045	0.043	0.044	0.046	0.044

※1 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。  
また、この移転作業のため、2020年度の測定を休止しました。

(ウ) 日最高8時間値の年間99%値の3年移動平均値の経年推移

測定局	日最高8時間値の年間99%値の3年移動平均値 (ppm) ※1				
	2016～2018 年度の平均	2017～2019 年度の平均	2018～2020 年度の平均	2019～2021 年度の平均	2020～2022 年度の平均
鶴見区潮田交流プラザ	0.075	0.078	0.076	0.073	0.071
神奈川区総合庁舎	0.080	0.082	0.080	0.078	0.075
港北区総合庁舎	0.082	0.085	0.082	0.082	0.079
磯子区総合庁舎	0.075	0.079	0.077	0.075	0.070
保土ヶ谷区桜丘高校	0.081	0.083	0.080	0.079	0.076
西区平沼小学校	0.079	0.081	0.078	0.077	0.073
金沢区長浜	0.079	0.081	0.078	0.077	0.074
鶴見区生麦小学校	0.076	0.078	0.076	0.076	0.074
中区本牧	0.076	0.078	0.076	0.075	0.071
戸塚区汲沢小学校	0.084	0.087	0.087	0.085	0.081
港南区野庭中央公園※2	0.083	0.086	—	—	—
旭区鶴ヶ峯小学校	0.082	0.085	0.083	0.082	0.079
瀬谷区南瀬谷小学校	0.078	0.080	0.080	0.078	0.075
南区横浜商業高校	0.083	0.086	0.082	0.079	0.075
栄区上郷小学校	0.085	0.087	0.084	0.083	0.079
緑区三保小学校	0.084	0.086	0.083	0.082	0.080
青葉区総合庁舎	0.084	0.087	0.085	0.084	0.083
都筑区総合庁舎	0.087	0.089	0.087	0.086	0.083
泉区総合庁舎	0.082	0.084	0.083	0.081	0.077
一般局平均	0.081	0.083	0.081	0.080	0.076

※1 「日最高8時間値の年間99%値の3年移動平均値」は、光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための指標として環境省が2014年9月に設定したものです。この指標は、計算対象となる3年分の「日最高8時間値の年間99%値」が有効である場合に限り算出します。

※2 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。また、この移転作業のため、2020年度の測定を休止しました。

カ 微小粒子状物質（一般局・自排局）

(ア) 2022年度の測定結果

測定局	日平均値の 年平均値	日平均値の 年間98%値	日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を 超えた日数とその割合		環境基準の 適否 <sup>※1</sup>
	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	(日)	(%)	(適○ 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	10.2	21.6	0	0	○
神奈川区総合庁舎	9.3	20.5	0	0	○
港北区総合庁舎	9.6	19.7	0	0	○
磯子区総合庁舎	9.4	20.7	0	0	○
保土ヶ谷区桜丘高校	8.1	17.0	0	0	○
西区平沼小学校	9.0	19.0	0	0	○
金沢区長浜	7.0	15.0	0	0	○
中区本牧	7.8	16.2	0	0	○
港南区野庭中央公園 <sup>※2</sup>	7.1	15.4	0	0	○
旭区鶴ヶ峯小学校	7.5	15.5	0	0	○
瀬谷区南瀬谷小学校	10.0	19.4	0	0	○
南区横浜商業高校	7.2	15.0	0	0	○
栄区上郷小学校	5.9	13.8	0	0	○
緑区三保小学校	5.9	14.0	0	0	○
青葉区総合庁舎	8.7	18.9	0	0	○
都筑区総合庁舎	8.1	17.0	0	0	○
泉区総合庁舎	9.5	20.8	0	0	○
一般局平均	8.3	17.6	—	—	—
西区浅間下交差点	11.1	20.8	0	0	○
戸塚区矢沢交差点	10.0	19.7	0	0	○
青葉台	11.9	23.6	0	0	○
自排局平均	11.0	21.4	—	—	—

※1 微小粒子状物質の環境基準は「年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」であり、年平均値と年間98%値をそれぞれ環境基準と比較して評価します。

※2 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により2021年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。

(イ) 日平均値の年平均値の経年推移

測定局	年度別の「日平均値の年平均値」( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	13.9	12.3	10.7	9.2	10.2
神奈川区総合庁舎	12.4	10.7	10.3	9.4	9.3
港北区総合庁舎	12.4	10.8	10.3	9.4	9.6
磯子区総合庁舎	11.7	9.6	10.0	8.6	9.4
保土ヶ谷区桜丘高校	11.6	9.2	8.9	7.9	8.1
西区平沼小学校	12.0	10.1	9.6	8.5	9.0
金沢区長浜	9.7	8.4	8.4	6.9	7.0
中区本牧	10.3	8.7	8.4	7.4	7.8
港南区野庭中央公園 <sup>※1</sup>	9.0	7.4	—	6.7	7.1
旭区鶴ヶ峯小学校	9.0	7.8	7.7	7.3	7.5
瀬谷区南瀬谷小学校	12.6	10.9	10.4	9.8	10.0
南区横浜商業高校	9.9	8.9	7.8	7.5	7.2
栄区上郷小学校	9.4	7.7	6.7	5.8	5.9
緑区三保小学校	9.5	7.8	7.6	5.7	5.9
青葉区総合庁舎	11.7	10.0	9.4	8.5	8.7
都筑区総合庁舎	9.1	7.5	7.0	8.1	8.1
泉区総合庁舎	13.7	10.9	10.9	9.1	9.5
一般局平均	11.1	9.3	9.0	8.0	8.3
西区浅間下交差点	13.3	11.8	12.0	10.9	11.1
戸塚区矢沢交差点	12.7	11.2	10.9	10.0	10.0
青葉台	14.3	12.8	12.8	10.9	11.9
自排局平均	13.4	11.9	11.9	10.6	11.0

※1 「港南区野庭中学校」測定局は、移転により 2021 年度から「港南区野庭中央公園」に名称を変更しました。  
また、この移転作業のため、2020 年度の測定を休止しました。

キ 非メタン炭化水素（一般局・自排局）

(ア) 2022年度の測定結果

測定局	年平均値	6～9時における年平均値	6～9時測定日数	6～9時3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合		6～9時3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合	
	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(日)	(%)	(日)	(%)
鶴見区潮田交流プラザ	0.17	0.17	363	107	29.5	27	7.4
金沢区長浜	0.12	0.13	364	59	16.2	6	1.6
鶴見区生麦小学校	0.14	0.14	365	62	17.0	14	3.8
中区本牧	0.13	0.13	364	42	11.5	11	3.0
旭区鶴ヶ峯小学校	0.14	0.14	362	54	14.9	15	4.1
緑区三保小学校	0.12	0.13	364	40	11.0	6	1.6
西区浅間下交差点	0.18	0.18	350	115	32.9	31	8.9
戸塚区矢沢交差点	0.12	0.13	365	38	10.4	15	4.1
旭区都岡小学校	0.20	0.21	349	149	42.7	48	13.8
磯子区滝頭	0.16	0.17	362	101	27.9	28	7.7

※1 非メタン炭化水素に環境基準は設定されていません。指針値として、午前6時から9時までの3時間平均値が0.20ppmCから0.31ppmCの範囲と設定されています。詳しくは「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要(1)-オ」を参照してください。

(イ) 年平均値の経年推移

測定局	年度別の年平均値 (ppmC)				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	0.14	0.14	0.16	0.16	0.17
金沢区長浜	0.10	0.11	0.12	0.12	0.12
鶴見区生麦小学校	0.13	0.13	0.14	0.14	0.14
中区本牧	0.16	0.15	0.15	0.13	0.13
旭区鶴ヶ峯小学校	0.14	0.14	0.15	0.14	0.14
緑区三保小学校	0.11	0.11	0.12	0.13	0.12
西区浅間下交差点	0.17	0.17	0.18	0.17	0.18
戸塚区矢沢交差点	0.12	0.12	0.13	0.14	0.12
旭区都岡小学校	0.16	0.17	0.18	0.18	0.20
磯子区滝頭	0.16	0.17	0.17	0.17	0.16



ク メタン及び全炭化水素（一般局・自排局）

(ア) 2022年度の測定結果

測定局	メタン			全炭化水素		
	年平均値	6～9時における年平均値	6～9時測定日数	年平均値	6～9時における年平均値	6～9時測定日数
	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(日)
鶴見区潮田交流プラザ	2.03	2.04	363	2.20	2.22	363
金沢区長浜	2.04	2.05	364	2.15	2.18	364
鶴見区生麦小学校	2.04	2.05	365	2.17	2.19	365
中区本牧	2.02	2.04	364	2.15	2.17	364
旭区鶴ヶ峯小学校	2.01	2.02	362	2.15	2.16	362
緑区三保小学校	2.02	2.02	365	2.14	2.16	364
西区浅間下交差点	2.12	2.13	350	2.29	2.31	350
戸塚区矢沢交差点	2.07	2.08	365	2.19	2.20	365
旭区都岡小学校	2.10	2.11	349	2.30	2.32	349
磯子区滝頭	2.05	2.07	362	2.22	2.24	362

※1 メタン及び全炭化水素に環境基準は設定されていません。

(イ) 年平均値の経年推移（メタン）

測定局	年度別の年平均値 (ppmC)				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	1.97	1.99	2.01	2.03	2.03
金沢区長浜	1.96	1.96	2.00	2.01	2.04
鶴見区生麦小学校	1.98	2.01	2.01	2.05	2.04
中区本牧	1.94	1.98	1.99	2.01	2.02
旭区鶴ヶ峯小学校	1.96	1.97	2.00	2.01	2.01
緑区三保小学校	1.97	1.97	2.00	2.01	2.02
西区浅間下交差点	1.98	2.00	2.01	2.06	2.12
戸塚区矢沢交差点	1.97	1.96	1.99	2.04	2.07
旭区都岡小学校	1.96	1.96	1.99	2.08	2.10
磯子区滝頭	1.98	1.98	2.00	2.03	2.05

(ウ) 年平均値の経年推移（全炭化水素）

測定局	年度別の年平均値（ppmC）				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見区潮田交流プラザ	2.11	2.13	2.17	2.19	2.20
金沢区長浜	2.06	2.06	2.11	2.13	2.15
鶴見区生麦小学校	2.11	2.15	2.15	2.19	2.17
中区本牧	2.10	2.13	2.14	2.14	2.15
旭区鶴ヶ峯小学校	2.09	2.11	2.15	2.15	2.15
緑区三保小学校	2.08	2.09	2.12	2.14	2.14
西区浅間下交差点	2.15	2.17	2.20	2.23	2.29
戸塚区矢沢交差点	2.09	2.08	2.12	2.18	2.19
旭区都岡小学校	2.12	2.13	2.17	2.26	2.30
磯子区滝頭	2.14	2.15	2.17	2.19	2.22

(4) 有害大気汚染物質の測定結果

ア 環境基準が設定されている4物質

物質名	単位	環境基準	測定局名（測定局の属性）と2022年度測定結果（年平均値）		
			鶴見区潮田交流プラザ （固定発生源）	緑区三保小学校 <sup>※1</sup> （一般環境）	磯子区滝頭 <sup>※1</sup> （沿道）
ベンゼン	μg/m <sup>3</sup>	3以下	0.58	0.52	0.76
トリクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	130以下	0.48	0.29	0.26
テトラクロロエチレン	μg/m <sup>3</sup>	200以下	0.12	0.078	0.062
ジクロロメタン	μg/m <sup>3</sup>	150以下	1.4	0.99	0.78

※1 「緑区三保小学校」と「磯子区滝頭」の測定局は、それぞれ「中区本牧」と「戸塚区矢沢交差点」の測定局と年度ごとに交互に測定を行っています。

イ 指針値が設定されている11物質

物質名	単位	指針値	測定局名（測定局の属性）と2022年度測定結果（年平均値）		
			鶴見区潮田交流プラザ （固定発生源）	緑区三保小学校 <sup>※1</sup> （一般環境）	磯子区滝頭 <sup>※1</sup> （沿道）
アクリロニトリル	μg/m <sup>3</sup>	2以下	0.059	0.021	0.038
アセトアルデヒド	μg/m <sup>3</sup>	120以下	1.8	2.1	1.9
塩化ビニルモノマー	μg/m <sup>3</sup>	10以下	0.047	0.022	0.042
塩化メチル	μg/m <sup>3</sup>	94以下	1.1	1.0	1.0
クロロホルム	μg/m <sup>3</sup>	18以下	0.20	0.16	0.16
1,2-ジクロロエタン	μg/m <sup>3</sup>	1.6以下	0.088	0.078	0.082
水銀及びその化合物	ng/m <sup>3</sup>	40以下	1.6	1.5	1.6
ニッケル化合物	ng/m <sup>3</sup>	25以下	2.9	1.5	2.7
1,3-ブタジエン	μg/m <sup>3</sup>	2.5以下	0.24	0.061	0.13
ヒ素及びその化合物	ng/m <sup>3</sup>	6以下	0.73	0.77	0.66
マンガン及びその化合物	ng/m <sup>3</sup>	140以下	21	27	23

※1 「緑区三保小学校」と「磯子区滝頭」の測定局は、それぞれ「中区本牧」と「戸塚区矢沢交差点」の測定局と年度ごとに交互に測定を行っています。

## ウ その他8物質

物質名※1	単位	測定局名（測定局の属性）と2022年度測定結果（年平均値）		
		鶴見区潮田交流プラザ （固定発生源）	緑区三保小学校※1 （一般環境）	磯子区滝頭※1 （沿道）
クロム及びその化合物	ng/m <sup>3</sup>	6.6	4.3	5.8
酸化エチレン	μg/m <sup>3</sup>	0.11	0.068	0.088
ベリリウム及びその化合物	ng/m <sup>3</sup>	0.015	0.029	0.013
ベンゾ（a）ピレン	ng/m <sup>3</sup>	0.089	0.088	0.21
ホルムアルデヒド	μg/m <sup>3</sup>	2.3	2.6	2.3
四塩化炭素	μg/m <sup>3</sup>	0.38	0.38	0.38
1,2-ジクロロプロパン	μg/m <sup>3</sup>	0.018	0.018	0.016
トルエン	μg/m <sup>3</sup>	5.7	4.0	4.7

※1 「その他8物質」には環境基準や指針値は設定されていません。

※2 「緑区三保小学校」と「磯子区滝頭」の測定局は、それぞれ「中区本牧」と「戸塚区矢沢交差点」の測定局と年度ごとに交互に測定を行っています。

## (5) ダイオキシン類の測定結果

番号	測定局※1	2022年度の測定結果（pg-TEQ/m <sup>3</sup> ）※2		
		夏	冬	年平均値※3
		2022.8.18～25	2023.1.19～26	
1	神奈川区総合庁舎	0.011	0.014	0.013
2	南区横浜商業高校	0.011	0.013	0.012
3	港南区野庭中央公園	0.011	0.011	0.011
4	旭区鶴ヶ峰小学校	0.012	0.0088	0.010
5	金沢区長浜	0.010	0.012	0.011
6	都筑区総合庁舎	0.017	0.012	0.015

※1 3年間で市内18区を測定する計画で、2022年度は神奈川区、南区、港南区、旭区、金沢区、都筑区です。

※2 「TEQ」は「毒性等量」を示す符号です。ダイオキシン類には多数の異性体が存在するため、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを示します。

※3 ダイオキシン類（大気）の環境基準は「0.6 pg-TEQ/m<sup>3</sup>以下」であり、年平均値で評価します。

## (6) アスベスト（石綿）濃度の測定結果

番号	測定局※ <sup>1</sup>	2022年度の測定結果（本/L）※ <sup>2</sup>		
		夏	冬	最大濃度
		2022.8.18～19	2023.1.19～20	
1	神奈川区総合庁舎	0.025 未満	0.046 未満	0.046 未満
2	南区横浜商業高校	0.025 未満	0.046 未満	0.046 未満
3	港南区野庭中央公園	0.025 未満	0.046	0.046
4	旭区鶴ヶ峯小学校	0.025 未満	0.046 未満	0.046 未満
5	金沢区長浜	0.025 未満	0.046 未満	0.046 未満
6	都筑区総合庁舎	0.025 未満	0.14	0.14

※<sup>1</sup> 3年間で市内18区を測定する計画で、2022年度は神奈川区、南区、港南区、旭区、金沢区、都筑区です。

※<sup>2</sup> 大気中のアスベスト濃度に環境基準は設定されていません。世界保健機関（WHO）の「環境保健クライテリア」において、健康リスクが検出できないほど低いとされている濃度を参考に、1本/Lを目安値として評価しています。

## (7) 光化学スモッグ注意報の発令状況

番号	2022年度発令日	措置種類	発令時刻	光化学オキシダント濃度の市内最高値			市内届出被害者数（人）	神奈川県内の他地域の発令状況
				最高値（ppm）	測定局	時刻		
1	6/30(木)	注意報	13:20～17:30	0.133	都筑区総合庁舎	15時	0	川崎、県央
2	7/1(金)	注意報	13:20～14:30	0.127	港北区総合庁舎	13時	0	川崎

## (8) 空間放射線量（ガンマ線）の測定結果

項目		2022年										2023年			年間
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
測定時間	時	720	744	720	744	744	720	744	720	744	744	666	744	8,754	
最高値	nGy/時	49	44	45	47	54	45	53	48	48	48	44	47	54	
最低値	nGy/時	28	28	28	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	
平均値	nGy/時	30	30	30	30	30	29	30	30	30	30	29	30	30	
標準偏差	nGy/時	3	2	2	2	2	1	3	3	2	2	2	3	2	

※<sup>1</sup> 測定地点は保土ヶ谷区仏向西の市有地で、地上1mの空間放射線量を測定しています。

※<sup>2</sup> 測定単位は吸収線量率として nGy/時を用いています。吸収線量は、放射線が物質中を通過するときに、その物質に吸収される放射線エネルギー量であり、グレイ（gray、記号 Gy）が単位として用いられています。

1 nGy（ナノグレイ）=10億分の1 Gy（グレイ）

1 Gy=物質1 kg中に1ジュールのエネルギーが吸収されたときのエネルギー量

※<sup>3</sup> 空間放射線量（ガンマ線）に環境基準は設定されていません。

(9) 酸性雨調査の結果

2022年度の捕集期間	水素イオン濃度指数 (pH)	電気伝導率 ( $\mu$ S/cm)	降水量 (mm)
3/28 ~ 4/25	5.39	9.40	178.5
4/25 ~ 6/6	5.49	11.45	243.4
6/6 ~ 7/4	5.76	20.30	57.8
7/4 ~ 8/1 ※ <sup>4</sup>	5.87	6.60	—
8/1 ~ 8/29	5.58	18.11	151.4
8/29 ~ 9/26 ※ <sup>5</sup>	5.98	16.03	328.6以上
9/26 ~ 11/7	5.96	8.33	99.0
11/7 ~ 12/5	5.99	21.60	84.2
12/5 ~ 1/4	6.40	6.34	61.3
1/4 ~ 1/30	6.30	25.40	16.3
1/30 ~ 3/9	6.13	13.56	41.9
3/9 ~ 3/27	5.70	11.07	115.3

※1 環境科学研究所(神奈川区)において、1か月程度の降水を捕集し、pH及び電気伝導率を測定しています。

※2 一般に「pH5.6以下の雨」を酸性雨と呼んでいます。

※3 電気伝導率は、電流の流れやすさを示す指標で、降水の汚染度の目安となるものです。

※4 採水機の不調により一部の降水を採取できなかったため、降水量を欠測としています。

※5 大雨によるオーバーフローがあり、一部採取できなかった降水があります。

## 4-2 水環境の監視

### (1) 公共用水域の水質測定項目

測定項目の区分		項目数	測定項目※1
環境基準が設定されている項目	健康項目	27	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン
	生活環境項目	12	水素イオン濃度指数 (pH)、生物化学的酸素要求量 (BOD)、化学的酸素要求量 (COD)、浮遊物質 (SS)、溶存酸素量 (DO)、大腸菌数、n-ヘキサン抽出物質、全窒素、全りん、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS)
水質汚濁防止法や生活環境保全条例の排水規制の対象項目		7	フェノール類、銅、溶解性鉄、溶解性マンガン、クロム、EPN、ニッケル
環境基準の達成状況を判断する上で必要な項目		8	アンモニア性窒素、リン酸態リン、電気伝導率、塩化物イオン、塩分、陰イオン界面活性剤、クロロフィル a、非イオン界面活性剤
採水時に現場にて観測する項目		13	天候、前日天候、水深、採取水深、流速、流量、気温、水温、色相、透視度、透明度、臭気、外観

※ 神奈川県が定めた「公共用水域及び地下水の水質測定計画（2022年3月）」に基づき、市内で測定している項目一覧です。測定は年12回（月1回）としていますが、測定項目によっては測定地点数や測定頻度が異なるものがあります。



## (2) 公共用水域の水質測定地点

### ア 河川

水域名	支川名	測定地点名	生活環境項目 ア <sup>※1</sup>		生活環境項目 イ <sup>※2</sup>	
			環境基準点 <sup>※3</sup>	類型	環境基準点 <sup>※3</sup>	類型
鶴見川		千代橋		D		生物 B
		亀の子橋 <sup>※4</sup>	○	D		
		大綱橋 <sup>※4</sup>		C		
		末吉橋 <sup>※4</sup>		C		
		臨港鶴見川橋 <sup>※4</sup>	○	C	○	
	恩田川	都橋		D		
	大熊川	大竹橋 <sup>※4</sup>		D		
	鳥山川	又口橋 <sup>※4</sup>		D		
	早淵川	峰大橋 <sup>※4</sup>		C		
	矢上川	矢上川橋 <sup>※4</sup>		C		
入江川		入江橋	○	B	○	
帷子川		水道橋	○	B	○	
大岡川		清水橋	○	B	○	
宮川		瀬戸橋	○	B	○	
侍従川		平潟橋	○	B	○	
境川		鶴間橋 <sup>※5</sup>		D		
		新道大橋 <sup>※5</sup>		D		
		高鎌橋		D		
	柏尾川	吉倉橋		C		
		鷹匠橋		C		
	いたち川	いたち川橋		C		

※1 水素イオン濃度指数 (pH)、生物化学的酸素要求量 (BOD)、浮遊物質 (SS)、溶存酸素量 (DO)、大腸菌数の5項目です。

※2 全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS) の3項目です。

※3 「○」は環境基準点 (その水域の水質を代表する地点) を示します。ただし、市内の測定地点について、大腸菌数に係る環境基準点は設定されていません。

※4 国土交通省が測定を実施した地点です。

※5 大和市が測定を実施した地点です。

イ 海域

測定地点名	生活環境項目 ア <sup>※1</sup>		
	環境基準点 <sup>※4</sup>	水域名	類型
鶴見川河口先	○	東京湾（6）	C
横浜港内	○		C
磯子沖	○	東京湾（7）	C
平潟湾内	○	東京湾（10）	B
本牧沖	○	東京湾（12）	B
富岡沖	○		B
平潟湾沖			B

測定地点名	生活環境項目 イ <sup>※2</sup>			生活環境項目 ウ <sup>※3</sup>		
	環境基準点 <sup>※4</sup>	水域名	類型	環境基準点 <sup>※4</sup>	水域名	類型
鶴見川河口先		東京湾（口）	IV		東京湾 （全域）	海 域 生 物 A
横浜港内			IV			
磯子沖			IV			
平潟湾内		東京湾（二）	III			
本牧沖	○	東京湾（口）	IV	○		
富岡沖	○		IV	○		
平潟湾沖		東京湾（二）	III			

※1 水素イオン濃度指数（pH）、化学的酸素要求量（COD）、溶存酸素量（DO）、大腸菌数、n-ヘキサン抽出物質（油分等）の5項目です。

※2 全窒素、全りん の2項目です。

※3 全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（LAS）の3項目です。

※4 「○」は環境基準点（その水域の水質を代表する地点）を示します。ただし、市内の測定地点について、大腸菌数に係る環境基準点は設定されていません。



#### (4) 公共用水域の水質測定結果

##### ア 健康項目の環境基準適合状況

測定項目	2022年度の調査結果 <sup>※1</sup>					
	測定地点数		環境基準 適合地点数 <sup>※2</sup>		適合率	
	河川	海域	河川	海域	河川	海域
カドミウム	15	7	15	7	100%	100%
全シアン	15	7	15	7	100%	100%
鉛	15	7	15	7	100%	100%
六価クロム	15	7	15	7	100%	100%
ヒ素	15	7	15	7	100%	100%
総水銀	15	7	15	7	100%	100%
アルキル水銀 <sup>※3</sup>	0	0	—	—	—	—
PCB	8	7	8	7	100%	100%
ジクロロメタン	15	7	15	7	100%	100%
四塩化炭素	15	7	15	7	100%	100%
1,2-ジクロロエタン	15	7	15	7	100%	100%
1,1-ジクロロエチレン	15	7	15	7	100%	100%
シス-1,2-ジクロロエチレン	15	7	15	7	100%	100%
1,1,1-トリクロロエタン	15	7	15	7	100%	100%
1,1,2-トリクロロエタン	15	7	15	7	100%	100%
トリクロロエチレン	15	7	15	7	100%	100%
テトラクロロエチレン	15	7	15	7	100%	100%
1,3-ジクロロプロペン	15	7	15	7	100%	100%
チウラム	15	7	15	7	100%	100%
シマジン	15	7	15	7	100%	100%
チオベンカルブ	15	7	15	7	100%	100%
ベンゼン	15	7	15	7	100%	100%
セレン	15	7	15	7	100%	100%
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	21	7	21	7	100%	100%
ふっ素 <sup>※4</sup>	9	—	9	—	100%	—
ほう素 <sup>※4</sup>	9	—	9	—	100%	—
1,4-ジオキサン	15	7	15	7	100%	100%

※1 河川の調査結果には、国土交通省又は大和市が測定を実施した地点の結果が含まれています。測定地点の詳細は「4-2 水環境の監視 (2)-ア」を参照してください。

※2 健康項目に関する環境基準は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (2)-ア-(ア)」を参照してください。

※3 アルキル水銀は、総水銀が検出された場合にのみ分析しています。

※4 海域には、ふっ素及びほう素の基準値は適用しないため、分析していません。

イ 生活環境項目の環境基準適合状況

水域	測定項目	評価手法	2022年度の調査結果					
			測定地点数	測定頻度 (※2)	調査検体数 (合計) (※3)	環境基準適合状況※4		
						適合検体数 (※5)	適合地点数 (※5)	適合率 (※6)
河川※1	水素イオン濃度指数 (pH)	日間平均値	21	12又は24	252	249	—	99%
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	75%水質値	21	12又は24	252	—	19	90%
	溶存酸素量 (DO)	日間平均値	21	12又は24	252	249	—	99%
	浮遊物質量 (SS)	日間平均値	21	4又は12 又は24	228	228	—	100%
	全亜鉛	年間平均値	21	12	252	—	20	95%
	ノニルフェノール	年間平均値	7	2又は4	16	—	7	100%
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 及びその塩 (LAS)	年間平均値	7	2又は4	16	—	7	100%
海域	水素イオン濃度指数 (pH)	日間平均値	7	12	84	64	—	81%
	化学的酸素要求量 (COD)	75%水質値	7	12	84	—	6	86%
	溶存酸素量 (DO)	日間平均値	7	12	84	84	—	100%
	n-ヘキサン抽出物質	日間平均値	7	4	28	28	—	100%
	全窒素	年間平均値	7	12	84	—	6	86%
	全りん	年間平均値	7	12	84	—	6	86%
	全亜鉛	年間平均値	2	12	24	—	2	100%
	ノニルフェノール	年間平均値	5	2	10	—	5	100%
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 及びその塩 (LAS)	年間平均値	5	2	10	—	5	100%

※1 河川の調査結果には、国土交通省又は大和市が測定した地点の結果が含まれています。測定地点の詳細は「4-2 水環境の監視 (2)-ア」を参照してください。

※2 測定頻度「24」は1日2回の測定を毎月1回実施しました。また、測定頻度「12」は1日1回の測定を毎月1回、以下同様に「4」は3か月ごとに1回、「2」は半年ごとに1回の測定を実施しました。

※3 調査検体数は、環境基準の適用を受ける評価検体数を記載しています（例えば、評価手法が日間平均値の場合は、平均後の検体数）。そのため、「測定地点数」に「測定頻度」を乗じた値と「調査検体数（合計）」の値は一致しないことがあります。

※4 生活環境項目に関する環境基準は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (2)-ア-(イ),(ウ)」を参照してください。

※5 検体数で評価する測定項目（評価手法が日間平均値のもの）の場合は「適合検体数」を記載し、地点数で評価する測定項目（評価手法が75%水質値又は年間平均値のもの）の場合は「適合地点数」を記載しています。

※6 環境基準適合率が99%を超え100%未満の場合は、99%と記載しています。

ウ BOD（河川）75%水質値

水域名	類型	河川名	測定地点名	年度別の75%水質値 (mg/L) ※1				
				2018	2019	2020	2021	2022
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	3.6	3.5	5.5	5.0	9.3
	D		亀の子橋※2	4.5	3.5	5.8	3.2	3.4
	C		大綱橋※2	4.4	3.9	4.5	5.3	4.4
	C		末吉橋※2	1.6	1.9	2.1	1.8	1.7
	C		臨港鶴見川橋※2	1.5	1.9	2.4	1.9	2.0
	D	恩田川	都橋	9.5	8.7	11	5.5	11
	D	大熊川	大竹橋※2	1.1	1.4	1.8	1.2	1.4
	D	鳥山川	又口橋※2	1.0	1.3	1.7	1.1	1.1
	C	早淵川	峰大橋※2	1.2	1.5	1.6	1.5	1.2
	C	矢上川	矢上川橋※2	1.8	2.1	1.7	2.1	1.7
入江川	B	入江川	入江橋	1.6	2.0	2.7	2.6	1.4
帷子川	B	帷子川	水道橋	1.2	1.5	1.3	1.0	1.2
大岡川	B	大岡川	清水橋	1.4	2.1	1.7	3.6	1.4
宮川	B	宮川	瀬戸橋	1.2	1.7	1.6	1.1	1.2
侍従川	B	侍従川	平潟橋	1.6	1.7	2.3	2.3	1.4
境川	D	境川	鶴間橋※3	1.3	1.0	1.6	1.2	1.1
	D		新道大橋※3	3.7	2.6	2.9	2.1	2.3
	D		高鎌橋	3.3	2.5	1.7	1.3	1.5
	C	柏尾川	吉倉橋	1.3	2.0	1.3	1.2	1.1
	C		鷹匠橋	2.6	3.2	2.0	2.1	2.0
	C	いたち川	いたち川橋	1.4	1.9	1.6	2.4	1.2
適合率 (%)				95	95	95	90	90

※1 BOD（河川）の環境基準は「B類型 3 mg/L 以下、C類型 5 mg/L 以下、D類型 8 mg/L 以下」であり、75%水質値で評価します。

※2 国土交通省が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

※3 大和市が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

## エ BOD（河川）年平均値

水域名	類型	河川名	測定地点名	年度別の年平均値（mg/L）				
				2018	2019	2020	2021	2022
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	3.3	3.0	4.8	3.7	6.4
	D		亀の子橋 <sup>※1</sup>	3.9	3.2	4.6	3.1	3.1
	C		大綱橋 <sup>※1</sup>	3.6	3.0	4.1	4.0	3.4
	C		末吉橋 <sup>※1</sup>	1.8	1.8	2.2	1.9	1.6
	C		臨港鶴見川橋 <sup>※1</sup>	1.3	1.9	1.9	1.7	1.8
	D	恩田川	都橋	6.2	7.8	8.0	4.5	8.7
	D	大熊川	大竹橋 <sup>※1</sup>	1.1	1.3	2.0	1.0	1.2
	D	鳥山川	又口橋 <sup>※1</sup>	0.9	1.1	1.8	1.1	1.0
	C	早淵川	峰大橋 <sup>※1</sup>	0.9	1.3	1.5	1.3	1.2
	C	矢上川	矢上川橋 <sup>※1</sup>	1.6	1.6	2.2	1.6	1.8
入江川	B	入江川	入江橋	1.4	2.2	1.9	3.4	1.5
帷子川	B	帷子川	水道橋	1.0	1.2	1.1	0.9	1.2
大岡川	B	大岡川	清水橋	1.2	1.8	1.6	2.7	1.2
宮川	B	宮川	瀬戸橋	1.0	1.5	1.4	1.0	1.1
侍従川	B	侍従川	平潟橋	1.4	1.7	1.7	1.8	1.4
境川	D	境川	鶴間橋 <sup>※2</sup>	1.0	0.8	1.5	1.0	1.0
	D		新道大橋 <sup>※2</sup>	3.2	2.3	2.5	2.0	2.1
	D		高鎌橋	2.5	1.9	1.6	1.1	1.5
	C	柏尾川	吉倉橋	1.0	1.7	1.1	0.9	0.9
	C		鷹匠橋	2.3	2.8	1.8	2.2	2.5
	C	いたち川	いたち川橋	1.3	1.9	1.6	1.8	1.4

※1 国土交通省が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

※2 大和市が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

## オ COD（東京湾）75%水質値

水域名	類型	測定地点名	年度別の75%水質値（mg/L） <sup>※1</sup>				
			2018	2019	2020	2021	2022
東京湾 6	C	鶴見川河口先	3.7	3.8	3.7	3.6	4.1
		横浜港内	3.7	4.0	4.5	3.2	3.9
東京湾 7	C	磯子沖	3.1	2.8	3.2	2.7	2.7
東京湾 10	B	平潟湾内	3.8	3.4	3.5	3.2	3.9
東京湾 12	B	本牧沖	3.0	2.7	2.9	2.4	2.5
		富岡沖	3.2	2.7	3.1	2.4	2.7
		平潟湾沖	2.8	2.4	3.1	2.5	2.6
適合率（%）			71	86	57	86	86

※1 COD（海域）の環境基準は「B類型 3mg/L以下、C類型 8mg/L以下」であり、75%水質値で評価します。



## カ COD（東京湾）年平均値

水域名	類型	測定地点名	年度別の年平均値（mg/L）				
			2018	2019	2020	2021	2022
東京湾 6	C	鶴見川河口先	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4
		横浜港内	3.3	3.5	3.4	3.0	3.0
東京湾 7	C	磯子沖	2.7	2.4	2.5	2.4	2.2
東京湾 10	B	平潟湾内	3.1	3.0	3.1	2.9	3.0
東京湾 12	B	本牧沖	2.6	2.5	2.4	2.3	2.2
		富岡沖	2.5	2.4	2.6	2.1	2.4
		平潟湾沖	2.5	2.2	2.6	2.2	2.2

## キ 全窒素（東京湾）年平均値

水域名	類型	測定地点名	年度別の年平均値（表層）（mg/L）※1				
			2018	2019	2020	2021	2022
東京湾（口）	IV	鶴見川河口先	1.4	1.6	1.9	2.0	1.9
		横浜港内	0.83	0.94	0.92	1.1	0.77
		磯子沖	0.50	0.55	0.52	0.70	0.42
		本牧沖	0.59	0.65	0.62	0.73	0.48
		富岡沖	0.45	0.48	0.46	0.59	0.39
東京湾（二）	III	平潟湾内	0.50	0.58	0.50	0.61	0.38
		平潟湾沖	0.47	0.49	0.45	0.58	0.43
適合率（%）			86	86	86	57	86

※1 全窒素（海域）の環境基準は「Ⅲ類型 0.6 mg/L 以下、Ⅳ類型 1 mg/L 以下」であり、表層の年平均値で評価します。

## ク 全りん（東京湾）年平均値

水域名	類型	測定地点名	年度別の年平均値（表層）（mg/L）※1				
			2018	2019	2020	2021	2022
東京湾（口）	IV	鶴見川河口先	0.12	0.12	0.14	0.17	0.13
		横浜港内	0.081	0.095	0.087	0.12	0.076
		磯子沖	0.044	0.048	0.047	0.069	0.042
		本牧沖	0.051	0.058	0.057	0.078	0.055
		富岡沖	0.041	0.043	0.043	0.059	0.039
東京湾（二）	III	平潟湾内	0.052	0.055	0.053	0.066	0.049
		平潟湾沖	0.042	0.047	0.042	0.065	0.043
適合率（%）			71	57	71	43	86

※1 全りん（海域）の環境基準は「Ⅲ類型 0.05 mg/L 以下、Ⅳ類型 0.09 mg/L 以下」であり、表層の年平均値で評価します。

## ケ ダイオキシン類

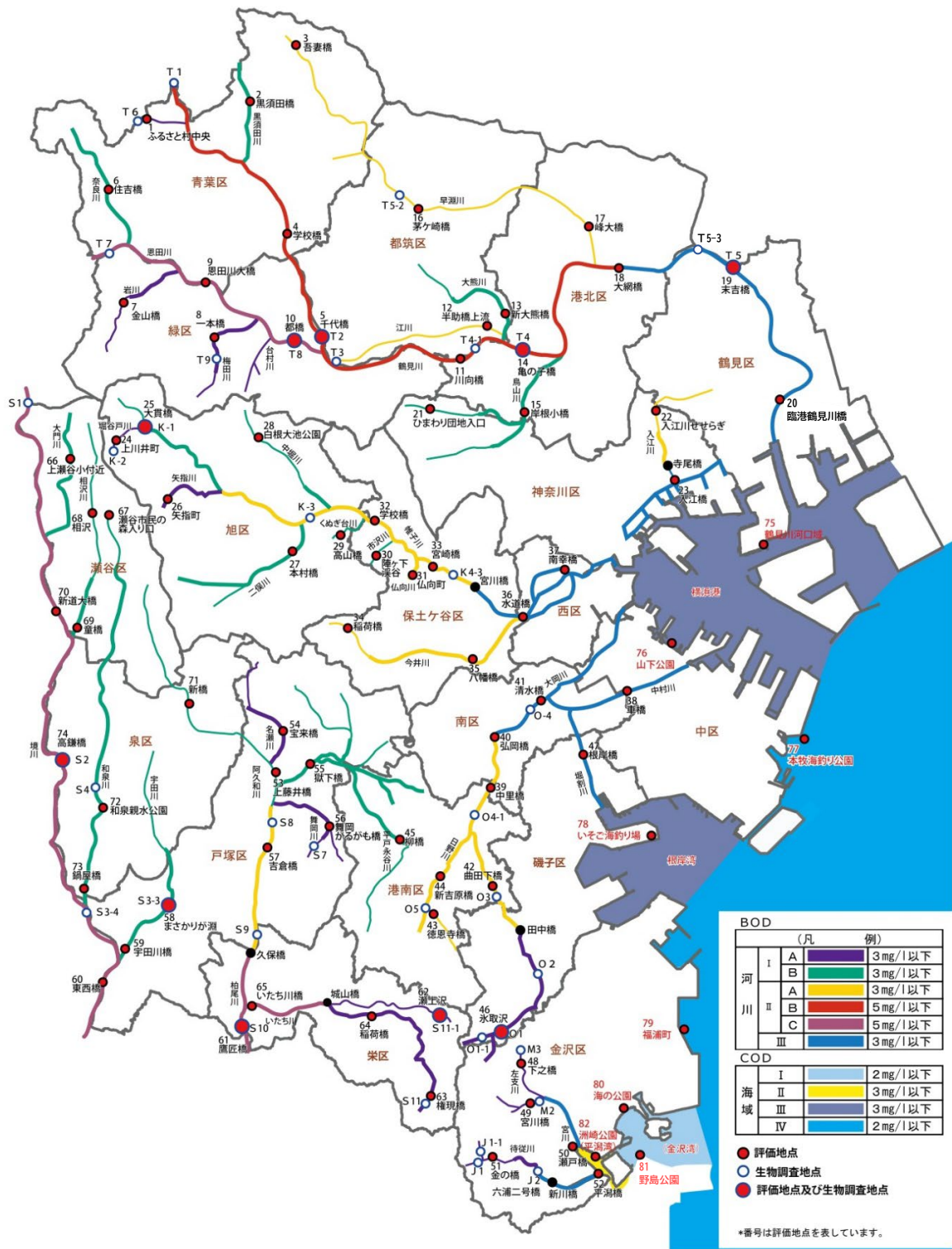
番号	測定地点 <sup>※1</sup>		2022年度の測定結果 <sup>※2</sup>	
	区分	測定地点名	水質 (pg-TEQ/L) <sup>※3</sup>	底質 (pg-TEQ/g) <sup>※3</sup>
1	海域	鶴見川河口先	0.071	5.9
2		横浜港内	0.073	21
3		磯子沖	0.060	1.9
4		平潟湾内	0.065	16
5		本牧沖	0.071	9.1
6		富岡沖	0.060	0.79

※1 調査は河川・海域を隔年で実施しています。

※2 ダイオキシン類の環境基準は「水質 1 pg-TEQ/L 以下、水底の底質 150 pg-TEQ/g 以下」です。

※3 「TEQ」は「毒性等量」を示す符号です。ダイオキシン類には多数の異性体が存在するため、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを示します。

(5) 水環境目標の水域区分図（評価地点、生物調査（河川）地点の位置図）



※ 市内水域を河川6区分（IA～Ⅲ）、海域4区分（I～IV）に分類し、水域の区分ごとに水環境目標を設定しています。図中の河川や海域は、それぞれの水域の区分に応じて、凡例で示した色を付けています。

※ BODの測定について、鶴見川の4地点（14 亀の子橋、18 大綱橋、19 末吉橋、20 臨港鶴見川橋）及び早淵川の1地点（17 峰大橋）は、国土交通省が測定を実施した地点です。同様に、境川の1地点（70 新道大橋）は、大和市が測定を実施した地点です。

※ T5 地点では橋梁工事が行われているため、代替として T5-3 地点を設定し、生物調査を実施しています。

(6) 水環境目標に係る測定結果

ア BOD (河川)

地点 番号	水域名	評価地点名	環境基準 類型※1 (基準値)	本市区分※2 (目標値)	年度別の測定結果 (mg/L) ※3				
					2018	2019	2020	2021	2022
1	寺家川	ふるさと村中央	D (8)	I A (3)	-	-	2.9	-	-
7	岩川	金山橋			-	-	2.2	-	-
8	梅田川	一本橋			-	-	1.2	-	-
24	堀谷戸川	上川井町	B (3)		0.9	-	-	0.7	-
26	矢指川	矢指町			1.5	-	-	1.5	-
46	大岡川	氷取沢			1.0	-	-	0.5未満	-
48	宮川	下之橋			-	-	1.0	-	-
49	宮川	宮川橋			-	-	1.2	-	-
51	侍従川	金の橋	-		-	0.9	-	-	
54	名瀬川	宝来橋	C (5)		-	2.0	-	-	1.7
56	舞岡川	舞岡かるがも橋			-	1.9	-	-	1.7
62	いたち川	瀬上沢			-	3.0	-	-	1.3
63	いたち川	権現橋			-	1.2	-	-	2.3
64	いたち川	稻荷橋		-	1.5	-	-	1.4	
25	帷子川	大貫橋	B (3)	1.9	-	-	2.3	-	
27	二俣川	本村橋		1.4	-	-	0.9	-	
28	中堀川	白根大池公園		1.9	-	-	2.1	-	
30	市沢川	陣ヶ下溪谷		0.8	-	-	1.2	-	
29	くぬぎ台川	高山橋		4.4	-	-	1.3	-	
2	黒須田川	黒須田橋	D (8)	-	-	1.3	-	-	
6	奈良川	住吉橋		-	-	1.9	-	-	
13	大熊川	新大熊橋		-	-	2.3	-	-	
21	鳥山川	ひまわり団地入口		-	-	2.8	-	-	
15	鳥山川	岸根小橋		-	-	1.5	-	-	
71	阿久和川	新橋	C (5)	-	2.2	-	-	1.7	
53	阿久和川	上藤井橋		-	2.5	-	-	1.4	
45	平戸永谷川	柳橋		-	1.6	-	-	1.7	
55	平戸永谷川	嶽下橋		-	1.5	-	-	1.8	
66	大門川	上瀬谷小付近		-	5.8	-	-	10	
68	相沢川	相沢	D (8)	-	1.0	-	-	1.2	
69	相沢川	童橋		-	1.1	-	-	1.1	
67	和泉川	瀬谷市民の森入口		-	1.1	-	-	1.0	
72	和泉川	和泉親水公園		-	1.0	-	-	1.6	
73	和泉川	鍋屋橋		-	1.0	-	-	1.4	
58	宇田川	まさかりが淵		-	1.7	-	-	1.2	
59	宇田川	宇田川橋		-	1.9	-	-	1.8	
22	入江川	入江川せせらぎ	B (3)	-	-	1.4	-	-	
32	帷子川	学校橋		II A (3)	1.1	-	-	3.0	-
33	帷子川	宮崎橋			0.8	-	-	1.6	-

(次頁へ続きます)

地点 番号	水域名	評価地点名	環境基準 類型※ <sup>1</sup> (基準値)	本市区分※ <sup>2</sup> (目標値)	年度別の測定結果 (mg/L) ※ <sup>3</sup>				
					2018	2019	2020	2021	2022
31	仏向川	仏向町	B (3)	II A (3)	0.6	—	—	1.3	—
34	今井川	稻荷橋			7.6	—	—	2.2	—
35	今井川	八幡橋			1.5	—	—	3.3	—
42	大岡川	曲田下橋			1.4	—	—	1.2	—
39	大岡川	中里橋			1.6	—	—	1.3	—
43	日野川	徳恩寺橋			0.7	—	—	1.6	—
44	日野川	新吉原橋			0.9	—	—	0.9	—
12	江川	半助橋上流			D (8)		—	—	3.1
3	早淵川	吾妻橋	C (5)		—	—	1.5	—	
16	早淵川	茅ヶ崎橋		—	—	1.8	—	—	
17	早淵川	峰大橋※ <sup>4</sup>		1.2	1.5	1.6	1.5	1.2	
57	柏尾川	吉倉橋		2.6	2.0	1.3	1.2	1.1	
4	鶴見川	学校橋	D (8)	II B (5)	—	—	3.6	—	—
5	鶴見川	千代橋			3.6	3.5	5.5	5.0	9.3
11	鶴見川	川向橋			—	—	5.9	—	—
14	鶴見川	亀の子橋※ <sup>4</sup>			4.5	3.5	5.8	3.2	3.4
9	恩田川	恩田川大橋	D (8)	II C (5)	—	—	5.4	—	—
10	恩田川	都橋			9.5	8.7	11.0	5.5	11
61	柏尾川	鷹匠橋	C (5)		2.6	3.2	2.0	2.1	2.0
65	いたち川	いたち川橋			1.4	1.9	1.6	2.4	1.2
70	境川	新道大橋※ <sup>5</sup>	D (8)		3.7	2.6	2.9	2.1	2.3
74	境川	高鎌橋			3.3	2.5	1.7	1.3	1.5
60	境川	東西橋			—	1.9	—	—	1.3
23	入江川	入江橋	B (3)		III (3)	1.6	2.0	2.7	2.6
36	帷子川	水道橋		1.2		1.5	1.3	1.0	1.2
37	帷子川	南幸橋		1.5		—	—	1.7	—
40	大岡川	弘岡橋		1.6		—	—	1.3	—
41	大岡川	清水橋		1.4		2.1	1.7	3.6	1.4
38	大岡川	車橋		1.1		—	—	5.3	—
47	大岡川	根岸橋		0.9		—	—	2.8	—
50	宮川	瀬戸橋		1.2		1.7	1.6	1.1	1.2
52	侍従川	平潟橋		1.6		1.7	2.3	2.3	1.4
18	鶴見川	大綱橋※ <sup>4</sup>		C (5)		4.4	3.9	4.5	5.3
19	鶴見川	末吉橋※ <sup>4</sup>	1.6		1.9	2.1	1.8	1.7	
20	鶴見川	臨港鶴見川橋※ <sup>4</sup>	1.5		1.9	2.4	1.9	2.0	
水環境目標の達成地点数/評価地点数					34/38	31/35	25/35	33/38	31/35
水環境目標の達成率 (%)					89	89	71	87	89

※<sup>1</sup> 環境基準類型と基準値 (括弧書き、単位 mg/L 以下) を記載しています。

※<sup>2</sup> 横浜市水と緑の基本計画 (2016 年 6 月改定) で設定した水域ごとの区分と目標値 (括弧書き、単位 mg/L 以下) を記載しています。

※<sup>3</sup> 3 年間で市内全域を測定する計画のため、測定を実施していない地点の測定結果欄には「—」と記載しています。

※<sup>4</sup> 国土交通省が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

※<sup>5</sup> 大和市が測定を実施した地点であり、その結果を引用しています。

## イ COD（海域）

地点 番号	水域名	評価地点名	環境基準 類型※ <sup>1</sup> (基準値)	本市区分※ <sup>2</sup> (目標値)	年度別の測定結果 (mg/L)				
					2018	2019	2020	2021	2022
80	金沢湾	海の公園	C (8)	I (2)	2.8	2.4	3.1	2.5	2.6
81	金沢湾	野島公園	B (3)		2.8	2.4	3.1	2.5	2.6
82	平潟湾	洲崎公園		II (3)	3.8	3.4	3.5	3.2	3.9
75	横浜港	鶴見川河口域		III (3)	3.7	3.8	3.7	3.6	4.1
76	横浜港	山下公園			3.7	4.0	4.5	3.2	3.9
78	根岸湾	いそご海釣り場	C (8)	3.1	2.8	3.2	2.7	2.7	
77	東京湾	本牧海釣り公園	B (3)	IV (2)	3.0	2.7	2.9	2.4	2.5
79	東京湾	福浦町	C (8)		3.2	2.7	3.1	2.4	2.7
水環境目標の達成地点数/評価地点数					0/8	1/8	0/8	1/8	1/8
水環境目標の達成率 (%)					0	13	0	13	13

※<sup>1</sup> 環境基準類型と基準値（括弧書き、単位 mg/L 以下）を記載しています。

※<sup>2</sup> 横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）で設定した水域ごとの区分と目標値（括弧書き、単位 mg/L 以下）を記載しています。

## ウ ふん便性大腸菌群数（河川）

地点 番号	水域名	評価地点名※ <sup>1</sup>	環境基準 類型※ <sup>2</sup>	本市区分※ <sup>3</sup> (目標値)	年度別の測定結果 (個/100ml) ※ <sup>4</sup>				
					2018	2019	2020	2021	2022
1	寺家川	ふるさと村中央	D	I A (1,000)	-	-	1,300	-	-
7	岩川	金山橋			-	-	2,000	-	-
8	梅田川	一本橋			-	-	1,300	-	-
24	堀谷戸川	上川井町	B		980	-	-	80	-
26	矢指川	矢指町			950	-	-	490	-
46	大岡川	氷取沢			850	-	-	590	-
48	宮川	下之橋			-	-	140	-	-
49	宮川	宮川橋			-	-	12,000	-	-
51	侍従川	金の橋			-	-	290	-	-
54	名瀬川	宝来橋	C		-	2,100	-	-	2,300
56	舞岡川	舞岡かるがも橋			-	2,900	-	-	12,000
62	いたち川	瀬上沢			-	1,200	-	-	2,100
63	いたち川	権現橋			-	1,100	-	-	6,700
64	いたち川	稻荷橋		-	590	-	-	3,200	
25	帷子川	大貫橋	B	I B (1,000)	2,500	-	-	870	-
27	二俣川	本村橋			340	-	-	430	-
28	中堀川	白根大池公園			91,000	-	-	830	-
30	市沢川	陣ヶ下渓谷			3,000	-	-	1,900	-
29	くぬぎ台川	高山橋			14,000	-	-	870	-
2	黒須田川	黒須田橋	D	-	-	1,200	-	-	
6	奈良川	住吉橋		-	-	840	-	-	
13	大熊川	新大熊橋		-	-	2,700	-	-	

(次頁へ続きます)

地点 番号	水域名	評価地点名※1	環境基準 類型※2	本市区分※3 (目標値)	年度別の測定結果(個/100ml)※4					
					2018	2019	2020	2021	2022	
21	鳥山川	ひまわり団地入口	D	I B (1,000)	-	-	3,100	-	-	
15	鳥山川	岸根小橋			-	-	1,100	-	-	
71	阿久和川	新橋	C		-	1,400	-	-	2,600	
53	阿久和川	上藤井橋			-	38,000	-	-	11,000	
45	平戸永谷川	柳橋			-	3,300	-	-	10,000	
55	平戸永谷川	嶽下橋	D		-	1,800	-	-	4,100	
66	大門川	上瀬谷小付近			-	4,200	-	-	13,000	
68	相沢川	相沢			-	1,300	-	-	1,700	
69	相沢川	童橋			-	960	-	-	1,600	
67	和泉川	瀬谷市民の森入口			-	87	-	-	1,200	
72	和泉川	和泉親水公園			-	420	-	-	640	
73	和泉川	鍋屋橋			-	230	-	-	1,000	
58	宇田川	まさかりが淵			-	1,000	-	-	2,800	
59	宇田川	宇田川橋	-		620	-	-	1,700		
22	入江川	入江川せせらぎ	B		II A (1,000)	-	-	570	-	-
32	帷子川	学校橋		830		-	-	740	-	
33	帷子川	宮崎橋		210		-	-	860	-	
31	仏向川	仏向町		<1		-	-	5	-	
34	今井川	稻荷橋		2,200		-	-	1,000	-	
35	今井川	八幡橋		3,400		-	-	3,800	-	
42	大岡川	曲田下橋		1,500		-	-	2,800	-	
39	大岡川	中里橋		480		-	-	4,700	-	
43	日野川	徳恩寺橋		2,000		-	-	3,300	-	
44	日野川	新吉原橋		3,600		-	-	1,100	-	
12	江川	半助橋上流		D		-	-	1,000	-	-
3	早淵川	吾妻橋		C		-	-	3,800	-	-
16	早淵川	茅ヶ崎橋	-			-	3,200	-	-	
17	早淵川	峰大橋	-			-	4,600	-	-	
57	柏尾川	吉倉橋	-			2,700	-	-	4,100	
水環境目標の達成地点数/評価地点数					8/17	6/18	4/16	11/17	2/18	
水環境目標の達成率(%)					47	33	25	65	11	

※1 水環境目標に係る河川の評価地点は74地点ありますが、ふん便性大腸菌群数に係る目標値が設定されているのは51地点であり、当該51地点を記載しています。

※2 ふん便性大腸菌群数について、環境基準は設定されていません。

※3 横浜市水と緑の基本計画(2016年6月改定)で設定した水域ごとの区分と目標値(括弧書き、単位 個/100ml以下)を記載しています。

※4 3年間で市内全域を測定する計画のため、測定を実施していない地点の測定結果欄には「-」と記載しています。



## エ ふん便性大腸菌群数（海域）

地点番号	水域名	評価地点名※1	環境基準類型※2	本市区分※3	目標値 (個/100ml)	年度別の測定結果（個/100ml）※4				
						2018	2019	2020	2021	2022
80	金沢湾	海の公園	C	I	100 以下	-	-	370	-	-
81	金沢湾	野島公園	B			-	-	6	-	-
水環境目標の達成地点数／評価地点数						-	-	1/2	-	-
水環境目標の達成率（％）						-	-	50	-	-

※1 水環境目標に係る海域の評価地点は8地点ありますが、ふん便性大腸菌群数に係る目標値が設定されているのは2地点であり、当該2地点を記載しています。

※2 ふん便性大腸菌群数について、環境基準は設定されていません。

※3 横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）で設定した水域ごとの区分を記載しています。

※4 3年に1回の測定のため、測定を実施していない地点の測定結果欄には「-」と記載しています。

## オ 全窒素（海域）

地点番号	水域名	評価地点名	環境基準類型	本市区分※1	目標値 (mg/L)	年度別の測定結果（mg/L）				
						2018	2019	2020	2021	2022
80	金沢湾	海の公園	Ⅲ	I	0.3 以下	0.47	0.49	0.45	0.58	0.43
81	金沢湾	野島公園				0.47	0.49	0.45	0.58	0.43
82	平潟湾	洲崎公園		Ⅱ	0.6 以下	0.50	0.58	0.50	0.61	0.38
75	横浜港	鶴見川河口域	Ⅳ	Ⅲ	1.0 以下	1.4	1.6	1.9	2.0	1.9
76	横浜港	山下公園				0.83	0.94	0.92	1.1	0.77
78	根岸湾	いそご海釣り場		0.50	0.55	0.52	0.70	0.42		
77	東京湾	本牧海釣り公園		Ⅳ	0.3 以下	0.59	0.65	0.62	0.73	0.48
79	東京湾	福浦町				0.45	0.48	0.46	0.59	0.39
水環境目標の達成地点数／評価地点数						3/8	3/8	3/8	1/8	3/8
水環境目標の達成率（％）						38	38	38	13	38

※1 横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）で設定した水域ごとの区分を記載しています。

## カ 全りん（海域）

地点番号	水域名	評価地点名	環境基準類型	本市区分※1	目標値 (mg/L)	年度別の測定結果（mg/L）				
						2018	2019	2020	2021	2022
80	金沢湾	海の公園	Ⅲ	I	0.03 以下	0.042	0.047	0.042	0.065	0.043
81	金沢湾	野島公園				0.042	0.047	0.042	0.065	0.043
82	平潟湾	洲崎公園		Ⅱ	0.05 以下	0.052	0.055	0.053	0.066	0.049
75	横浜港	鶴見川河口域	Ⅳ	Ⅲ	0.09 以下	0.120	0.120	0.14	0.17	0.13
76	横浜港	山下公園				0.081	0.095	0.087	0.12	0.076
78	根岸湾	いそご海釣り場		0.044	0.048	0.047	0.069	0.042		
77	東京湾	本牧海釣り公園		Ⅳ	0.03 以下	0.051	0.058	0.057	0.078	0.055
79	東京湾	福浦町				0.041	0.043	0.043	0.059	0.039
水環境目標の達成地点数／評価地点数						2/8	1/8	2/8	1/8	3/8
水環境目標の達成率（％）						25	13	25	13	38

※1 横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）で設定した水域ごとの区分を記載しています。

(7) 生物指標による水質評価

ア 調査結果

区分※1	地点番号	河川名	支川名	地点名	水域区分※2	水質評価値 (達成目標)	達成状況※1		
							冬季	夏季	総合評価
河川	T1	鶴見川		水車橋	ⅡB	きれい	○	2023 年度 調査 予定	2023 年度 評価 予定
	T2			千代橋	ⅡB	きれい	○		
	T3			落合橋	ⅡB	きれい	○		
	T4-1			第三京浜道路下	ⅡB	きれい	○		
	T4			亀の子橋	ⅡB	きれい	○		
	T5-3			鷹野大橋	Ⅲ	きれい	×		
	T6		寺家川	山田谷戸	ⅠA	大変きれい	○		
	T7		恩田川	堀の内橋	ⅡC	きれい	○		
	T9		梅田川	神明橋	ⅠA	大変きれい	○		
	T8		恩田川	都橋	ⅡC	きれい	○		
	T5-2		早淵川	境田橋	ⅡA	大変きれい	○		
	K1		帷子川		大貫橋上流	ⅠB	大変きれい		
	K2	上川井農専地区			ⅠA	大変きれい	○		
	K3	鶴舞橋			ⅡA	大変きれい	○		
	K4-3	横浜新道下			ⅡA	大変きれい	○		
	O1-1	大岡川		氷取沢 (左)	ⅠA	大変きれい	○		
	O1			氷取沢	ⅠA	大変きれい	○		
	O2			陣屋橋上流	ⅠA	大変きれい	○		
	O3			曲田橋	ⅡA	大変きれい	○		
	O4-1			日野川合流点下	ⅡA	大変きれい	○		
	O4			井土ヶ谷橋	Ⅲ	きれい	○		
	O5		日野川	高橋	ⅡA	大変きれい	×		
	S1	境川		目黒橋	ⅡC	きれい	○		
	S2			高鎌橋	ⅡC	きれい	○		
	S3-4			遊水地橋	ⅡC	きれい	○		
	S4		和泉川	地藏原の水辺	ⅠB	大変きれい	○		
	S3-3		宇田川	まさかりが淵	ⅠB	大変きれい	○		
	S7		舞岡川	宮根橋上流	ⅠA	大変きれい	○		
	S8		柏尾川	大橋	ⅡA	大変きれい	×		
	S9		柏尾川	栄第二水再生センター下流	ⅡA	大変きれい	×		
	S11		稲荷川	杉之木橋上流	ⅠA	大変きれい	○		
	S11-1		いたち川	瀬上沢	ⅠA	大変きれい	○		
	S10		柏尾川	鷹匠橋	ⅡC	きれい	○		
M2	宮川		桜橋	Ⅲ	きれい	○			
M3			清水橋上流	ⅠA	大変きれい	○			
J1-1	侍従川		金の橋上流 (左)	ⅠA	大変きれい	○			
J1			金の橋上流	ⅠA	大変きれい	○			
J2			六浦二号橋	Ⅲ	きれい	○			
2022年度冬季調査の結果に基づく水環境目標の達成率 (達成地点数/評価地点数)							86.8% (33/38)		

※1 生物指標による水質評価は河川・海域を交互に2年間ずつ実施しており、2022～2023年度は河川の調査を行います。夏冬どちらかの調査で指標生物が確認された場合に、当該地点の目標達成とします。

※2 横浜市水と緑の基本計画(2016年6月改定)で設定した水域ごとの区分を記載しています。

イ 指標種の出現状況

(ア) 河川の源流・上流域（河川ⅠA・ⅠB）における指標種の出現状況（その1）

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）							
			T6	T9	K1	K2	O1-1	O1	O2	
大変 きれい ①	魚類	シマドジョウ						●	●	
		ホトケドジョウ				●	●	●		
		ギバチ								
		アブラハヤ		●				●	●	
	底生動物	ヌカエビ					●	●	●	
		サワガニ								
		フタスジモンカゲロウ					●	●		
		シロタニガワカゲロウ					●	●	●	
		オナシカワゲラ科					●	●		
		ヤマトフタツメカワゲラ					●	●		
		カワトンボ					●	●		
		オニヤンマ				●	●			
	藻類	ヘビトンボ								
		カクツツトビケラ科						●		
		タンスイベニマダラ						●		
カワモズク類		●								
きれい ②	魚類	コバンケイソウ	●	●	●	●	●	●	●	
		イタケイソウ		●		●	●	●	●	
	底生動物	ドジョウ	●							
		メダカ			●					
		カワニナ	●	●		●		●		
		ヤマトクロスジヘビトンボ								
	藻類	シロハラコカゲロウ		●			●	●	●	
		ウルマーシマトビケラ		●					●	
	水草	チャヅツケイソウ		●		●	●	●		
		ハリケイソウ（A）		●	●	●	●	●		
	オランダガラシ									
	やや 汚れて いる ③	魚類	オランダガラシ							
			モツゴ			●				
		底生動物	フナ類			●				
			ミズムシ	●	●	●	●		●	●
アメリカザリガニ				●	●			●		
サホコカゲロウ										
藻類		コガタシマトビケラ属					●	●	●	
		マガリケイソウ	●	●	●	●	●	●	●	
水草	ナガケイソウ		●				●			
	エビモ									
オオカナダモ										
汚れて いる ④	底生動物	イトミミズ科	●	●	●	●		●	●	
		セスジユスリカ								
	水草	ハリケイソウ（B）	●		●			●		
		アイノコイトモ								
コカナダモ										
細菌類	ミズワタ									
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	大変きれい（①）		2	3	1	4	10	13	6	
	きれい（②）		2	5	2	3	3	4	2	
	やや汚れている（③）		2	4	5	2	2	5	3	
	汚れている（④）		2	1	2	1	0	2	1	
水質評価 <sup>※1</sup> （各地点の水質評価を水質階級①～④で表示）			①	①	②	①	①	①	①	

※1 指標種の生息域（水質階級）に幅があるため、2種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要（2）-ウ-(イ)」を参照してください。

河川の源流・上流域（河川ⅠA・ⅠB）における指標種の出現状況（その2）

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）							
			S4	S3-3	S7	S11	S11-1	M3	J1-1	J1
大変 きれい ①	魚類	シマドジョウ								
		ホトケドジョウ								
		ギバチ								
		アブラハヤ		●	●	●	●	●		
	底生動物	ヌカエビ								
		サワガニ								
		フタスジモンカゲロウ				●			●	
		シロタニガワカゲロウ	●			●	●			
		オナシカワゲラ科			●		●	●	●	●
		ヤマトフタツメカワゲラ				●	●	●		●
		カワトンボ					●	●		●
		オニヤンマ			●			●		●
		ヘビトンボ				●	●			
		カクツツトビケラ科	●		●	●		●	●	●
藻類	タンスイベニマダラ				●			●	●	
	カワモズク類									
	コバンケイソウ	●	●	●	●	●	●	●	●	
	イタケイソウ		●							
きれい ②	魚類	ドジョウ			●		●			
		メダカ			●					
	底生動物	カワニナ		●	●	●	●	●	●	
		ヤマトクロスジヘビトンボ						●	●	
		シロハラコカゲロウ	●	●	●	●	●	●	●	
		ウルマーシマトビケラ							●	
	藻類	チャツツケイソウ	●							
ハリケイソウ（A）		●	●		●	●				
水草	オランダガラシ									
やや 汚れて いる ③	魚類	モツゴ			●					
		フナ類								
	底生動物	ミズムシ	●	●	●	●	●	●	●	
		アメリカザリガニ			●	●				
		サホコカゲロウ		●						
		コガタシマトビケラ属		●		●	●		●	
	藻類	マカリケイソウ	●	●		●	●	●	●	
ナガケイソウ										
水草	エビモ									
	オオカナダモ									
汚れて いる ④	底生動物	イトミミズ科	●	●	●	●	●	●	●	
		セスジユスリカ								
	藻類	ハリケイソウ（B）		●	●		●	●		
		アイノコイトモ								
水草	コカナダモ									
	細菌類	ミズワタ								
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	大変きれい（①）		3	3	5	8	7	7	5	7
	きれい（②）		3	3	4	3	4	3	2	3
	やや汚れている（③）		2	4	3	4	3	2	3	3
	汚れている（④）		1	2	2	1	2	2	1	0
水質評価※1（各地点の水質評価を水質階級①～④で表示）			①	①	①	①	①	①	①	①

※1 指標種の生息域（水質階級）に幅があるため、2種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要（2）-ウ-(イ)」を参照してください。

(イ) 河川の中流・下流域（河川ⅡA・ⅡB・ⅡC）における指標種の出現状況（その1）

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）							
			T1	T2	T3	T4-1	T4	T7	T8	T5-2
大変 きれい ①	魚類	シマドジョウ								
		アブラハヤ		●						
	底生動物	ヌカエビ								
		オニヤンマ								
		ヤマトフタツメカワゲラ								
		ヘビトンボ								
		シロタニガワカゲロウ								
	藻類	ヒゲナガガガンボ属								
コバンケイソウ		●	●	●		●	●	●	●	
		イタケイソウ	●	●	●		●	●	●	
きれい ②	魚類	ドジョウ	●				●	●		
		メダカ	●	●	●			●	●	●
		ウグイ								
		アユ								
	底生動物	ナミウズムシ								
		カワニナ								
		シロハラコカゲロウ								●
		ウルマーシマトビケラ								
	藻類	チャヅツケイソウ	●	●	●	●	●	●	●	●
		ハリケイソウ（A）		●		●				●
	水草	オランダガラシ								
	やや 汚れて いる ③	魚類	モツゴ		●				●	
フナ類									●	
オイカワ			●	●	●		●	●	●	●
カマツカ			●	●	●	●	●	●	●	
底生動物		シマイシビル	●		●				●	
		サカマキガイ			●					
		ミズムシ	●	●	●	●		●		
		アメリカザリガニ	●						●	
		サホコカゲロウ	●	●	●	●		●	●	
		コガタシマトビケラ属	●	●	●		●	●		●
藻類		マガリケイソウ	●	●	●	●	●	●	●	●
		ナガケイソウ	●				●			●
水草		エビモ								
		オオカナダモ								
汚れて いる ④	底生動物	イトミミズ科	●	●	●	●	●	●	●	●
		セスジユスリカ			●					
	藻類	ハリケイソウ（B）	●	●	●	●	●	●	●	●
		アイノコイトモ								
	水草	コカナダモ								
細菌類	ミズワタ									
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	大変きれい（①）		2	3	2	0	2	2	2	2
	きれい（②）		3	3	2	2	2	3	2	4
	やや汚れている（③）		9	7	8	4	5	7	7	4
	汚れている（④）		2	2	3	2	2	2	2	2
水質評価 <sup>※1</sup> （各地点の水質評価を水質階級①～④で表示）			①	①	①	②	①	①	①	①

※1 指標種の生息域（水質階級）に幅があるため、2種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要（2）-ウ-(イ)」を参照してください。

河川の中流・下流域（河川ⅡA・ⅡB・ⅡC）における指標種の出現状況（その2）

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）				
			K3	K4-3	O3	O4-1	O5
大変 きれい ①	魚類	シマドジョウ			●	●	
		アブラハヤ					
	底生動物	ヌカエビ					
		オニヤンマ	●	●			
		ヤマトフタツメカワゲラ					
		ヘビトンボ					
		シロタニガワカゲロウ					
	藻類	ヒゲナガガガンボ属					
コバンケイソウ		●	●	●	●	●	
		イタケイソウ	●	●	●	●	
きれい ②	魚類	ドジョウ					
		メダカ					
		ウグイ	●				
		アユ					
	底生動物	ナミウズムシ					
		カワニナ	●		●		●
		シロハラコカゲロウ	●				
		ウルマーシマトビケラ	●		●		
	藻類	チャツツケイソウ	●	●	●	●	
		ハリケイソウ（A）		●	●	●	●
水草	オランダガラシ						
やや 汚れて いる ③	魚類	モツゴ	●				
		フナ類					
		オイカワ	●		●		
		カマツカ					
	底生動物	シマイシビル		●		●	
		サカマキガイ					
		ミズムシ	●	●	●		●
		アメリカザリガニ					
		サホコカゲロウ					
	藻類	コガタシマトビケラ属		●			
		マカリケイソウ	●	●	●	●	●
			ナガケイソウ		●	●	
水草	エビモ						
	オオカナダモ						
汚れて いる ④	底生動物	イトミミズ科	●	●	●	●	
		セスジユスリカ					
	藻類	ハリケイソウ（B）		●			●
		アイノコイトモ					
	水草	コカナダモ					
細菌類	ミズワタ						
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	大変きれい（①）		3	3	3	3	1
	きれい（②）		5	2	4	2	2
	やや汚れている（③）		4	4	4	3	2
	汚れている（④）		1	2	1	1	1
水質評価 <sup>※1</sup> （各地点の水質評価を水質階級①～④で表示）			①	①	①	①	②

※1 指標種の生息域（水質階級）に幅があるため、2種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要（2）-ウ-(イ)」を参照してください。

河川の中流・下流域（河川ⅡA・ⅡB・ⅡC）における指標種の出現状況（その3）

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）					
			S1	S2	S3-4	S8	S9	S10
大変 きれい ①	魚類	シマドジョウ						
		アブラハヤ			●			
	底生動物	ヌカエビ						
		オニヤンマ						
		ヤマトフタツメカワゲラ						
		ヘビトンボ						
		シロタニガワカゲロウ		●	●			
	藻類	ヒゲナガガガンボ属						
コバンケイソウ		●	●	●		●	●	
		イタケイソウ	●	●	●	●		
きれい ②	魚類	ドジョウ			●			
		メダカ				●	●	●
		ウグイ						
		アユ						
	底生動物	ナミウズムシ						
		カワニナ						●
		シロハラコカゲロウ		●				
		ウルマーシマトビケラ		●	●			
	藻類	チャツツケイソウ	●	●	●	●	●	●
		ハリケイソウ（A）				●		
	水草	オランダガラシ						
	やや 汚れて いる ③	魚類	モツゴ	●		●		
フナ類					●			
オイカワ			●	●	●	●	●	●
カマツカ				●				
底生動物		シマイシビル						
		サカマキガイ					●	
		ミズムシ	●	●	●		●	●
		アメリカザリガニ						●
		サホコカゲロウ			●		●	
		コガタシマトビケラ属	●	●	●	●	●	●
藻類		マガリケイソウ		●	●	●		●
		ナガケイソウ	●			●		
水草		エビモ						
	オオカナダモ							
汚れて いる ④	底生動物	イトミミズ科	●			●	●	●
		セスジユスリカ					●	
	藻類	ハリケイソウ（B）			●	●	●	
	水草	アイノコイトモ						
コカナダモ								
細菌類	ミズワタ							
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	大変きれい（①）		2	3	4	1	1	1
	きれい（②）		1	3	3	3	2	3
	やや汚れている（③）		5	5	7	4	5	5
	汚れている（④）		1	0	1	2	3	1
水質評価 <sup>※1</sup> （各地点の水質評価を水質階級①～④で表示）			①	①	①	②	②	②

※1 指標種の生息域（水質階級）に幅があるため、2種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要（2）-ウ-(イ)」を参照してください。



(ウ) 河川の感潮域（河川Ⅲ）における指標種の出現状況

水質階級	生物群	指標種の名称	2022年度冬季調査の結果（地点別。確認された指標種に●を記載）			
			T5-3	O4	M2	J2
きれい (②)	魚類	ピリンゴ		●	●	●
		ミミズハゼ				
		クサフグ				
やや汚れている (③)	魚類	シマイサキ				
		ヒメハゼ				
	海岸動物	オサガニ				
		マテガイ				
	藻類	オゴノリ				
汚れている (④)	魚類	チチブ		●	●	●
		ボラ	●		●	
		マハゼ			●	●
	海岸動物	ニホンスナモグリ				
		シオフキガイ				
	藻類	アナアオサ				
ハネモ						
非常に汚れている (⑤)	魚類	アベハゼ			●	●
	海岸動物	アサリ				
		ケフサインガニ				
		ミズヒキゴカイ				
		ハナオカカギゴカイ				
出現した指標種の 合計数（水質階級別）	きれい (②)	0	1	1	1	
	やや汚れている (③)	0	0	0	0	
	汚れている (④)	1	1	3	2	
	非常に汚れている (⑤)	0	0	1	1	
水質評価※1（各地点の水質評価を水質階級②～⑤で表示）		④	②	②	②	

※1 海域の生物指標の評価方法に合わせ、1種以上の指標種が確認され、かつ最も良い水質階級をその地点の評価としています。

※2 水域区分ごとの指標種は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (2)-ウ-(イ)」を参照してください。

(8) 赤潮発生回数

測定地点名	年度別の赤潮観測回数※1				
	2018	2019	2020	2021	2022
鶴見川河口先	2	3	3	4	2
横浜港内	2	5	4	5	4
磯子沖	0	1	2	2	0
平潟湾内	0	0	2	1	0
本牧沖	1	3	3	3	2
富岡沖	1	2	2	2	0
平潟湾沖	0	1	2	1	0
合計 (回)	6	15	18	18	8

※1 毎月1回の調査において、目視等により確認したものを集計しています。各年度内に発生した全ての赤潮を把握したものではありません。

## 4-3 地盤環境の監視

### (1) 地下水質の調査

#### ア 調査概要 (2022 年度)

概況調査	定点調査	時期	2022 年 10 月			
		地点	6 点	回数	年 1 回	
		項目	環境基準項目等 32 項目※ <sup>1</sup>			
		方法	市内 6 地点の地下水を採水する。長期的な観点から経年変化を調査する。			
	メッシュ調査	時期	2022 年 10 月			
		地点	20 地点	回数	年 1 回	
項目		環境基準項目等 32 項目※ <sup>1</sup>				
方法		市内全域を 2 km 又は 4 km メッシュに区切り、各メッシュ内の 1 つの井戸を選定し、その井戸の水質を調査する。4 年間で市内全体の調査を行う。				
継続監視調査	時期	2022 年 10 月				
	地点	18 地点	回数	年 1 回		
	項目	汚染関連物質				
	方法	過去に行った概況調査により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。				
汚染井戸	周辺地区調査	時期	-			
		地点	0 地点	回数	年 1 回	
		項目	汚染関連物質			
		方法	2022 年度概況調査で新たに発見された汚染物質について、その汚染範囲を確認するために調査する。			
	監視調査	時期	2022 年 10 月			
		地点	6 地点	回数	年 1 回	
		項目	汚染関連物質			
		方法	過去に行った調査により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。			
	追跡調査	時期	2022 年 9 月～2022 年 11 月			
		地点	7 地域の 17 地点	回数	年 1 回	
		項目	汚染関連物質			
		方法	過去に行った調査や事業者からの報告により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のために定期的に調査する。			

※<sup>1</sup> 地下水の水質汚濁に係る環境基準が定められている 28 項目のうち、アルキル水銀を除いた 27 項目と電気伝導率、pH、水温など 5 項目の合計 32 項目です。アルキル水銀は、総水銀が検出された場合のみ調査しています。



ウ 測定結果

2022 年度調査											
調査項目		概況調査				継続監視調査		汚染井戸			
		定点調査		メッシュ調査				周辺地区調査		監視・追跡調査	
		調査検体数	超過環境基準	調査検体数	超過環境基準	調査検体数	超過環境基準	調査検体数	超過環境基準	調査検体数	超過環境基準
環境基準項目	カドミウム	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	全シアン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	鉛	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	六価クロム	6	0	20	0	-	-	-	-	6	0
	ヒ素	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	総水銀	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	アルキル水銀 <sup>※1</sup>	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	PCB	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	ジクロロメタン	6	0	20	0	-	-	-	-	1	0
	四塩化炭素	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	塩化ビニルモノマー	6	0	20	0	-	-	-	-	17	0
	1,2-ジクロロエタン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	1,1-ジクロロエチレン	6	0	20	0	1	0	-	-	23	0
	1,2-ジクロロエチレン	6	0	20	0	1	0	-	-	23	3
	1,1,1-トリクロロエタン	6	0	20	0	1	0	-	-	6	0
	1,1,2-トリクロロエタン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	トリクロロエチレン	6	0	20	0	1	0	-	-	23	3
	テトラクロロエチレン	6	0	20	0	1	0	-	-	22	7
	1,3-ジクロロプロペン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	チウラム	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	シマジン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	チオベンカルブ	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	ベンゼン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	セレン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	6	0	20	0	17	12	-	-	0	0
	ふっ素	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0
ほう素	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0	
1,4-ジオキサン	6	0	20	0	-	-	-	-	0	0	
市独自項目	クロロホルム	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
一般項目	pH	6	0	20	0	18	0	-	-	6	0

※1 アルキル水銀は、総水銀が検出された場合にのみ分析しています。

※2 環境基準は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (3)-ア」を参照してください。

エ 環境基準の超過項目

2022 年度調査						
調査区分	地点番号	測定地点	項目	測定結果 (mg/L)	環境基準 (mg/L)	
定点調査	-	環境基準を超過した測定地点はありませんでした。				
メッシュ調査	-	環境基準を超過した測定地点はありませんでした。				
継続監視調査	KK01	神奈川区松見町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10 以下	
	KK03	港北区高田町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	26	10 以下	
	KK06	都筑区東方町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	14	10 以下	
	KK07	都筑区大熊町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	12	10 以下	
	KK08	青葉区市ケ尾町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	14	10 以下	
	KK12	旭区今川町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	18	10 以下	
	KK13	旭区下川井町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	25	10 以下	
	KK14	中区本牧元町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	30	10 以下	
	KK15	南区六ツ川三丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	44	10 以下	
	KK16	戸塚区平戸町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10 以下	
	KK18	泉区新橋町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10 以下	
	KK19	神奈川区片倉二丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	13	10 以下	
汚染井戸	周辺地区調査	-	定点調査・メッシュ調査で環境基準を超過した測定地点がなかったため、周辺地区調査は行いませんでした。			
	監視調査	OK02	神奈川区羽沢町	トリクロロエチレン	0.016	0.01 以下
	追跡調査	701	鶴見区矢向二丁目	1,2-ジクロロエチレン	0.056	0.04 以下
		705	港南区日野五丁目	1,2-ジクロロエチレン	0.073	0.04 以下
				トリクロロエチレン	0.10	0.01 以下
		720	戸塚区東俣野町	テトラクロロエチレン	0.17	0.01 以下
				テトラクロロエチレン	0.023	0.01 以下
		722	泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.42	0.01 以下
		723	泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.065	0.01 以下
		724	泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.18	0.01 以下
		726	泉区中田北一丁目	テトラクロロエチレン	0.085	0.01 以下
		729	泉区和泉中央北二丁目	テトラクロロエチレン	0.11	0.01 以下
	741	保土ヶ谷区新井町	1,2-ジクロロエチレン	0.17	0.04 以下	
トリクロロエチレン			0.10	0.01 以下		

## (2) ダイオキシン類の測定結果

### ア 地下水

番号	調査地点	2022年度の測定結果 <sup>※1</sup>
		地下水 (pg-TEQ/L) <sup>※2</sup>
1	青葉区鴨志田町	0.077
2	港北区篠原町	0.079
3	西区西戸部町	0.077
4	旭区今宿南町	0.077
5	戸塚区名瀬町	0.078
6	磯子区東町	0.077

※1 ダイオキシン類（水質（水底の底質を除く。））の環境基準は「1 pg-TEQ/L 以下」です。

※2 「TEQ」は「毒性等量」を示す符号です。ダイオキシン類には多数の異性体が存在するため、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを示します。

### イ 土壌

番号	調査地点	所在地	2022年度の測定結果 <sup>※1</sup>
			土壌 (pg-TEQ/g) <sup>※2</sup>
1	平安小学校	鶴見区平安町2丁目9-1	0.37
2	三ツ沢小学校	神奈川区三ツ沢中町4-17	0.34
3	浜松町公園	西区浜松町9	0.16
4	日野小学校	港南区日野七丁目11-1	0.021
5	保土ヶ谷小学校	保土ヶ谷区神戸町129-4	0.076
6	奥座公園	金沢区釜利谷西四丁目19	0.71
7	大綱小学校	港北区大倉山四丁目2-1	0.00031
8	あざみ野第二小学校	青葉区あざみ野三丁目29-3	0.14
9	橋戸原公園	瀬谷区橋戸一丁目28-3	1.7
10	東品濃小学校	戸塚区品濃町559番地	0.37

※1 ダイオキシン類（土壌）の環境基準は「1,000 pg-TEQ/g 以下」です。

※2 「TEQ」は「毒性等量」を示す符号です。ダイオキシン類には多数の異性体が存在するため、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを示します。

(3) 地盤沈下の監視（精密水準測量結果）

ア 精密水準測量結果（2022年度）

区名	観測点数 ※1	成果点数 ※2	沈下点数	内訳（沈下量(mm)による分類）					年間最大変動量		
				10未満	10以上 20未満	20以上 30未満	30以上 40未満	40以上	沈下量 (mm)	町名	点番号
鶴見	7	7	0	0	0	0	0	0	－	－	－
神奈川	8	8	4	4	0	0	0	0	4.2	西神奈川三丁目	141
西	7	7	1	1	0	0	0	0	0.6	西平沼町	234
中	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－
南	4	4	1	1	0	0	0	0	0.9	永田東三丁目	I 10828
港南	2	2	0	0	0	0	0	0	－	－	－
保土ヶ谷	4	4	3	3	0	0	0	0	0.6	神戸町	I 32-1
旭	0	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－
磯子	3	3	2	2	0	0	0	0	1.0	杉田一丁目	439
金沢	12	12	0	0	0	0	0	0	－	－	－
港北	14	14	10	10	0	0	0	0	6.0	小机町	991
緑	2	2	0	0	0	0	0	0	－	－	－
青葉	5	5	0	0	0	0	0	0	－	－	－
都筑	4	4	0	0	0	0	0	0	－	－	－
戸塚	5	5	0	0	0	0	0	0	－	－	－
栄	20	20	0	0	0	0	0	0	－	－	－
泉	11	11	0	0	0	0	0	0	－	－	－
瀬谷	10	10	0	0	0	0	0	0	－	－	－
合計	118	118	21	21	0	0	0	0	－	－	－

※1 観測基準日は2023年1月1日です。

※2 観測点のうち、前年度の調査結果と比較できるものを成果点としています。

イ 水準点の変動状況

年度	観測点数	成果点数	(内訳)			隆起点数	(内訳)		沈下点数	(内訳)					
			隆起点数	不動点数	沈下点数		10～ 19.9 (mm)	10 未満 (mm)		0～ 9.9 (mm)	10～ 19.9 (mm)	20～ 29.9 (mm)	30～ 39.9 (mm)	40～ 49.9 (mm)	50.0 以上 (mm)
2018	101	99	3	1	95	3	0	3	95	87	8	0	0	0	0
2019	98	97	95	1	1	95	0	95	1	1	0	0	0	0	0
2020	98	98	32	4	62	32	0	32	62	62	0	0	0	0	0
2021	119	97	3	1	93	3	0	3	93	86	7	0	0	0	0
2022	118	118	94	3	21	94	0	94	21	21	0	0	0	0	0



(4) 地盤沈下の監視（地下水位、地盤変動の観測結果）

ア 観測地点の位置図

地下水位の観測地点を①～⑩で示し、地盤変動も観測している地点には※を付しました。



## イ 観測結果

観測所名 <sup>※1</sup>	2022年度の観測結果	
	地下水位変化 (m) <sup>※2</sup>	地盤変動 (mm) <sup>※3</sup>
市場小学校	-0.07	-0.24
横浜公園	0.00	-0.60
岡野公園	0.78	-0.06
新羽公園-1 (80m)	-0.28	-
新羽公園-2 (40m)	-0.18	-1.37
戸塚区秋葉町	-0.03	-0.61
新横浜駅前公園-1 (25m)	-0.22	-0.16
新横浜駅前公園-2 (70m)	-0.21	-1.02
新横浜駅前公園-3 (117m)	-0.09	-1.53
佐江戸公園-1 (16m)	-0.31	-1.66
佐江戸公園-2 (88m)	-1.00	-1.80
西寺尾公園	-0.11	-
矢部団地	-0.09	-
上倉田団地	-0.22	-

※1 1箇所の観測地点において、観測用の井戸を複数設置している場合、それぞれの井戸の深さを括弧書きで記載しています。

※2 地下水位変化は、前年度3月と観測年度3月の観測データの差し引きです(欠測の場合は直前の観測数値)。

※3 地盤変動は、前年度末をゼロ値とした場合の今年度の変動値です。値がマイナスの場合は、収縮を表しています。観測結果が「-」となっている地点では地盤変動を観測していません。



イ 面的評価（全体空間）の結果（2022年度）

路線名	評価 道路長 (km)	評価 戸数	昼間・夜間とも 環境基準適合※1		昼間 環境基準適合※1		夜間 環境基準適合※1	
			適合戸数	%	適合戸数	%	適合戸数	%
1 国道16号（横浜横須賀道路）	17.0	5,952	4,640	78.0	4,644	78.0	4,805	80.7
2 県道戸塚茅ヶ崎	0.3	181	130	71.8	167	92.3	130	71.8
3 県道荏田綱島	7.6	5,594	5,545	99.1	5,559	99.4	5,546	99.1
4 県道鶴見停車場	0.3	581	529	91.0	540	92.9	530	91.2
5 県道中山停車場	0.2	136	136	100.0	136	100.0	136	100.0
6 県道大船停車場矢部	6.1	3,228	3,190	98.8	3,206	99.3	3,204	99.3
7 県道弥生台桜木町	10.6	9,984	9,716	97.3	9,770	97.9	9,743	97.6
8 横浜駅根岸線	6.9	8,311	8,104	97.5	8,153	98.1	8,104	97.5
9 青木浅間線	2.7	4,213	3,771	89.5	4,178	99.2	3,771	89.5
10 環状4号線（鴨志田線）	8.8	3,947	3,579	90.7	3,876	98.2	3,579	90.7
11 本牧第22号線	1.0	42	30	71.4	34	81.0	30	71.4
12 本牧第28号線	1.1	726	661	91.0	719	99.0	661	91.0
13 山下町第132号線	1.6	1,857	1,460	78.6	1,568	84.4	1,460	78.6
14 山下町第39号線	1.4	8	7	87.5	7	87.5	7	87.5
15 関内本牧線	3.3	2,981	2,829	94.9	2,841	95.3	2,829	94.9
16 尾上本町線	0.4	490	173	35.3	475	96.9	173	35.3
17 新港第78号線	0.4	145	33	22.8	138	95.2	33	22.8
18 山下高砂線	2.9	4,239	1,554	36.7	3,811	89.9	1,554	36.7
19 高島関内線	1.2	1,665	1,154	69.3	1,558	93.6	1,154	69.3
20 六角橋第394号線	0.8	999	785	78.6	984	98.5	785	78.6
21 高島台第94号線	0.3	11	9	81.8	9	81.8	9	81.8
22 高島台第161号線	0.2	31	30	96.8	31	100.0	30	96.8
23 高島台第197号線	0.4	269	247	91.8	254	94.4	247	91.8
24 新羽第74号線	1.2	979	979	100.0	979	100.0	979	100.0
25 新吉田第403号線	1.7	482	482	100.0	482	100.0	482	100.0
26 宮内新横浜線7138	0.6	131	130	99.2	130	99.2	130	99.2
27 菊名第5号線								
28 山下長津田線	4.4	2,502	2,488	99.4	2,497	99.8	2,488	99.4
29 大熊東山田線	2.7	542	533	98.3	533	98.3	533	98.3
30 新羽荏田線	5.0	2,394	2,379	99.4	2,381	99.5	2,381	99.5
31 佐江戸北山田線	3.7	1,571	1,539	98.0	1,539	98.0	1,541	98.1
32 牛久保中川線	1.9	1,083	1,068	98.6	1,072	99.0	1,068	98.6
33 中川第231号線	0.4	73	73	100.0	73	100.0	73	100.0
34 中山北山田線	6.3	2,413	2,244	93.0	2,388	99.0	2,246	93.1
35 新石川第230号線	1.1	923	916	99.2	918	99.5	916	99.2

（次頁へ続きます）

路線名	評価 道路長 (km)	評価 戸数	昼間・夜間とも 環境基準適合※1		昼間 環境基準適合※1		夜間 環境基準適合※1			
			適合戸数	%	適合戸数	%	適合戸数	%		
36	品濃第 185 号線	1.1	1,019	924	90.7	938	92.1	925	90.8	
37	平戸第 109 号線	0.2	32	32	100.0	32	100.0	32	100.0	
38	新山下第 34 号線	1.5	498	414	83.1	473	95.0	414	83.1	
39	豊浦町 52 号線	2.8	483	421	87.2	443	91.7	421	87.2	
40	栄本町線	2.6	668	667	99.9	668	100.0	667	99.9	
41	新港第 79 号線	0.9	657	657	100.0	657	100.0	657	100.0	
42	名瀬第 181 号線	0.8	631	620	98.3	620	98.3	624	98.9	
43	権太坂和泉線	1.7	169	169	100.0	169	100.0	169	100.0	
2022 年度評価 43 路線			116.1	72,840	65,047	89.3	69,650	95.6	65,266	89.6

※1 騒音に係る環境基準は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (4)-ア」を参照してください。

#### ウ 面的評価 (近接空間) の結果 (2022 年度)

路線名	評価 道路長 (km)	評価 戸数	昼間・夜間とも 環境基準適合※1		昼間のみ 環境基準適合※1		夜間のみ 環境基準適合※1		
			適合戸数	%	適合戸数	%	適合戸数	%	
1	国道 16 号 (横浜横須賀道路)	17.0	1,190	1,099	92.4	1,101	92.5	1,099	92.4
2	県道戸塚茅ヶ崎	0.3	80	46	57.5	66	82.5	46	57.5
3	県道荏田綱島	7.6	2,804	2,777	99.0	2,789	99.5	2,778	99.1
4	県道鶴見停車場	0.3	358	306	85.5	317	88.5	307	85.8
5	県道中山停車場	0.2	73	73	100.0	73	100.0	73	100.0
6	県道大船停車場矢部	6.1	1,332	1,315	98.7	1,327	99.6	1,316	98.8
7	県道弥生台桜木町	10.6	5,018	4,955	98.7	4,997	99.6	4,955	98.7
8	横浜駅根岸線	6.9	4,269	4,189	98.1	4,211	98.6	4,189	98.1
9	青木浅間線	2.7	2,131	1,712	80.3	2,118	99.4	1,712	80.3
10	環状 4 号線 (鴨志田線)	8.8	1,716	1,618	94.3	1,660	96.7	1,618	94.3
11	本牧第 22 号線	1.0	23	17	73.9	20	87.0	17	73.9
12	本牧第 28 号線	1.1	356	291	81.7	349	98.0	291	81.7
13	山下町第 132 号線	1.6	1,025	730	71.2	801	78.1	730	71.2
14	山下町第 39 号線	1.4	5	4	80.0	4	80.0	4	80.0
15	関内本牧線	3.3	1,436	1,349	93.9	1,349	93.9	1,349	93.9
16	尾上本町線	0.4	211	173	82.0	196	92.9	173	82.0
17	新港第 78 号線	0.4	53	33	62.3	46	86.8	33	62.3
18	山下高砂線	2.9	1,901	1,554	81.7	1,793	94.3	1,554	81.7
19	高島関内線	1.2	1,347	836	62.1	1,240	92.1	836	62.1
20	六角橋第 394 号線	0.8	591	381	64.5	578	97.8	381	64.5

(次頁へ続きます)



路線名	評価 道路長 (km)	評価 戸数	昼間・夜間とも 環境基準適合※1		昼間のみ 環境基準適合※1		夜間のみ 環境基準適合※1		
			適合戸数	%	適合戸数	%	適合戸数	%	
21	高島台第 94 号線	0.3	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	高島台第 161 号線	0.2	6	5	83.3	6	100.0	5	83.3
23	高島台第 197 号線	0.4	63	56	88.9	63	100.0	56	88.9
24	新羽第 74 号線	1.2	349	349	100.0	349	100.0	349	100.0
25	新吉田第 403 号線	1.7	234	234	100.0	234	100.0	234	100.0
26	宮内新横浜線 7138	0.6	3	3	100.0	3	100.0	3	100.0
27	菊名第 5 号線								
28	山下長津田線	4.4	1,184	1,174	99.2	1,181	99.7	1,174	99.2
29	大熊東山田線	2.7	276	276	100.0	276	100.0	276	100.0
30	新羽荏田線	5.0	1,574	1,563	99.3	1,563	99.3	1,565	99.4
31	佐江戸北山田線	3.7	964	934	96.9	934	96.9	935	97.0
32	牛久保中川線	1.9	477	475	99.6	475	99.6	475	99.6
33	中川第 231 号線	0.4	29	29	100.0	29	100.0	29	100.0
34	中山北山田線	6.3	1,376	1,371	99.6	1,373	99.8	1,373	99.8
35	新石川第 230 号線	1.1	570	563	98.8	565	99.1	563	98.8
36	品濃第 185 号線	1.1	546	498	91.2	504	92.3	498	91.2
37	平戸第 109 号線	0.2	9	9	100.0	9	100.0	9	100.0
38	新山下第 34 号線	1.5	129	123	95.3	129	100.0	123	95.3
39	豊浦町 52 号線	2.8	96	95	99.0	96	100.0	95	99.0
40	栄本町線	2.6	122	121	99.2	122	100.0	121	99.2
41	新港第 79 号線	0.9	284	284	100.0	284	100.0	284	100.0
42	名瀬第 181 号線	0.8	290	290	100.0	290	100.0	290	100.0
43	権太坂和泉線	1.7	56	56	100.0	56	100.0	56	100.0
2022 年度評価 43 路線		116.1	34,558	31,966	92.5	33,576	97.2	31,974	92.5

※1 騒音に係る環境基準は「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (4)-ア」を参照してください。

## (2) 新幹線鉄道の騒音・振動

### ア 測定地点の位置図



●：測定地点（2022年度は No. 4、No. 8 の地点で測定を実施）



## イ 騒音の環境基準適合状況

軌道からの距離※1	2022年度の調査結果					
	地域類型Ⅰ（住居系） （環境基準 70dB 以下）			地域類型Ⅱ（商工業系） （環境基準 75dB 以下）		
	適合数	不適合数	適合率(%)	適合数	不適合数	適合率(%)
12.5m 地点	0	2	0	－	－	－
25m 地点	1	1	50	－	－	－
50m 地点	1	1	50	－	－	－
合計	2	4	33	－	－	－

※1 各測定地点において、手前側の軌道中心から 12.5m、25m、50m の各地点で騒音測定を実施しています。

## ウ 騒音レベルの測定結果

No.	測定地点	地域 類型	軌道からの 距離	年度別の測定結果 (dB) ※1,※2				
				2018	2019	2020	2021	2022
1	港北区日吉四丁目	Ⅰ	12.5m	69	71	－	－	－
			25m	64	67	－	－	－
			50m	58	61	－	－	－
2	港北区綱島東五丁目	Ⅱ	12.5m	73	－	74	－	－
			25m	70	－	71	－	－
			50m	67	－	69	－	－
3	港北区大倉山三丁目	Ⅰ	12.5m	71	－	－	69	－
			25m	66	－	－	65	－
			50m	60	－	－	58	－
4	神奈川区三枚町	Ⅰ	12.5m	68	67	－	－	71
			25m	69	66	－	－	70
			50m	62	61	－	－	66
5	旭区二俣川 2 丁目	Ⅰ	12.5m	72	－	74	－	－
			25m	67	－	69	－	－
			50m	60	－	63	－	－
6	瀬谷区阿久和南四丁目	Ⅰ	12.5m	73	－	－	74	－
			25m	72	－	－	72	－
			50m	65	－	－	66	－
7	泉区和泉町	Ⅰ	12.5m	73	74	－	－	－
			25m	70	72	－	－	－
			50m	62	63	－	－	－
8	泉区上飯田町	Ⅰ	12.5m	75	74	－	－	74
			25m	73	73	－	－	73
			50m	71	71	－	－	71

※1 環境基準は「地域類型Ⅰ 70dB 以下、地域類型Ⅱ 75dB 以下」です。

※2 測定を実施していない地点の測定結果欄には「－」と記載しています。

## エ 振動の指針適合状況

軌道からの距離※1	2022年度の調査結果（指針値 70dB 以下※2）		
	適合数	不適合数	適合率(%)
12.5m 地点	2	0	100
25m 地点	2	0	100
50m 地点	2	0	100
合計	6	0	100

※1 各測定地点において、手前側の軌道中心から 12.5m、25m、50m の各地点で振動測定を実施しています。

※2 新幹線鉄道の振動について、環境基準は設定されていません。

## オ 振動レベルの測定結果

No.	測定地点	軌道からの距離	年度別の測定結果 (dB) ※1,※2				
			2018	2019	2020	2021	2022
1	港北区日吉四丁目	12.5m	66	67	—	—	—
		25m	63	64	—	—	—
		50m	58	57	—	—	—
2	港北区綱島東五丁目	12.5m	64	—	62	—	—
		25m	66	—	65	—	—
		50m	62	—	60	—	—
3	港北区大倉山三丁目	12.5m	61	—	—	61	—
		25m	60	—	—	56	—
		50m	55	—	—	53	—
4	神奈川区三枚町	12.5m	50	49	—	—	50
		25m	38	40	—	—	40
		50m	38	38	—	—	40
5	旭区二俣川2丁目	12.5m	64	—	66	—	—
		25m	58	—	61	—	—
		50m	54	—	54	—	—
6	瀬谷区阿久和南四丁目	12.5m	65	—	—	68	—
		25m	65	—	—	65	—
		50m	55	—	—	55	—
7	泉区和泉町	12.5m	71	68	—	—	—
		25m	67	65	—	—	—
		50m	62	62	—	—	—
8	泉区上飯田町	12.5m	62	62	—	—	61
		25m	60	61	—	—	60
		50m	54	54	—	—	51

※1 指針値は「70dB 以下」です。

※2 測定を実施していない地点の測定結果欄には「—」と記載しています。

### (3) 在来鉄道の騒音・振動の測定結果

路線名	測定場所	鉄道構造	2022年度の定点測定結果	
			騒音レベル (dB)	振動レベル (dB)
根岸線	中区根岸町3丁目 176-97	盛土	67	67
横浜線	緑区いぶき野 48	盛土	60	56
東海道線	保土ヶ谷区岩崎町 22-1	盛土	52	56
横須賀線	保土ヶ谷区岩崎町 22-1	盛土	66	59

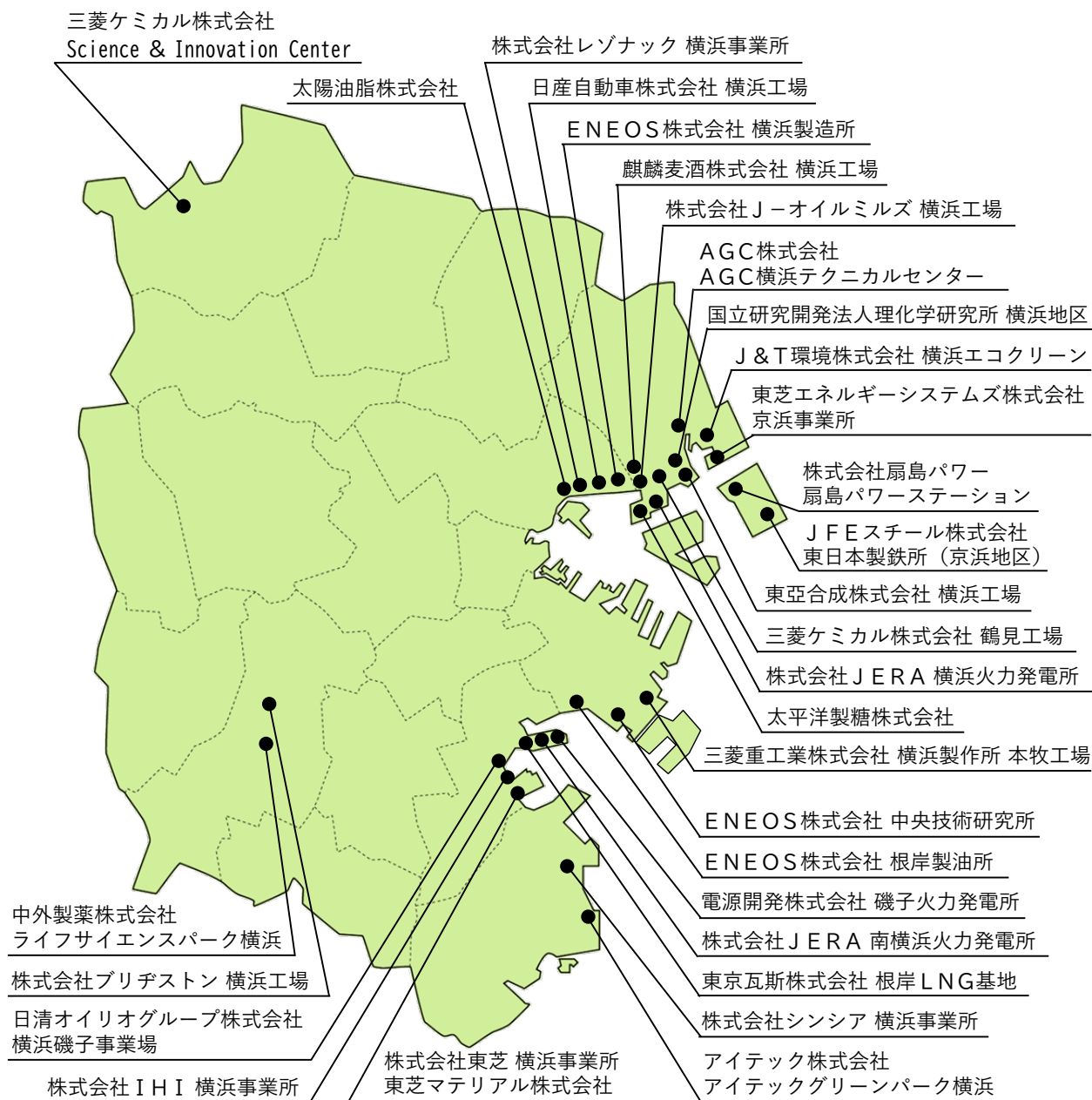
※1 在来鉄道の騒音・振動について、環境基準は設定されていません。

---

※ 一般環境騒音の測定は2019年度から、東海道貨物線（新貨物線）による騒音・振動の測定及び航空機騒音の測定は2020年度から実施していません。

## 4-5 各種協定

### (1) 環境保全協定締結事業所の位置図 (2022 年度末時点)



※ 三菱ケミカル株式会社鶴見工場は、2023年10月6日に三菱ケミカル株式会社関東事業所鶴見工場へ名称が変更されました。

(2) 環境保全協定の締結状況 (2022 年度末時点)

事業所名※1	締結/改定※1		主な協定内容※1	旧公害防止協定※2
	年月日	根拠		
電源開発株式会社 磯子火力発電所	2004.3.31 (締結)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばい煙排出濃度及び排出量の低減</li> <li>・市民開放施設（緑化、ビオトープを含む）の整備</li> <li>・温暖化対策の推進（省エネルギー対策、風力発電施設の設置）</li> <li>・未規制物質への対応</li> <li>・廃棄物の資源化推進</li> </ul>	1964.12 (締結)
ENEOS株式会社 根岸製油所	2002.3.8 (締結)	既設工場 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばい煙及び汚濁負荷量に係る排出総量協議</li> <li>・タンクローリー車の低公害化等交通環境対策</li> <li>・悪臭、炭化水素類の排出防止対策</li> <li>・タンカー事故防止等の安全対策</li> <li>・白煙影響への適切な対応</li> </ul>	1965.1 (締結)
東京瓦斯株式会社 根岸LNG基地	2004.3.31 (締結)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物の一層の低減</li> <li>・窒素酸化物排出量及び汚濁負荷量に係る排出総量協議</li> <li>・LNG 船等の船舶ばい煙対策</li> <li>・新エネルギーの導入と LNG の冷熱利用の推進</li> </ul>	1965.5 (締結)
株式会社 J E R A 横浜火力発電所	2005.2.25 (締結) 2019.3.27 (改定)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・PCB の的確な処理</li> <li>・化学物質の自主管理</li> <li>・環境学習のための発電所見学会の実施</li> <li>・再生可能エネルギー利用施設の設置</li> </ul>	1965.8 (締結)
三菱ケミカル株式会社 Science & Innovation Center	2003.12.25 (締結) 2020.8.3 (改定)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動のあり方</li> <li>・排水処理水の可能な限り再利用</li> <li>・ドラフトチャンバー排ガス等の適切な処理</li> <li>・化学物質対策</li> <li>・自然林の保全</li> <li>・高圧ガス、危険物等に対する災害・安全対策</li> </ul>	1967.7 (締結)
株式会社 J E R A 南横浜火力発電所	2004.3.31 (締結)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・温排水による海生生物への影響配慮</li> <li>・PCB の的確な処理</li> <li>・新エネルギー利用施設の設置</li> </ul>	1967.7 (締結)
ENEOS株式会社 中央技術研究所	2004.2.27 (締結)	市条例 第 150 条 第 1 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動のあり方</li> <li>・汚濁負荷量の排出総量協議</li> <li>・実験プラント排ガス等の最適処理</li> <li>・新エネルギー技術開発及びその導入</li> <li>・試験、研究施設に係る環境負荷の低減</li> </ul>	1969.7 (締結)
J F E スチール株式会社 東日本製鉄所 (京浜地区)	2008.3.31 (締結)	既設工場 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硫黄酸化物、窒素酸化物排出量の低減</li> <li>・排水濃度の低減</li> <li>・エコドライブの実施等の交通環境対策</li> </ul>	1970.12 (締結)

(次頁へ続きます)

事業所名 <sup>※1</sup>	締結/改定 <sup>※1</sup>		主な協定内容 <sup>※1</sup>	旧公害防 止協定 <sup>※2</sup>
	年月日	根拠		
ENEOS株式会社 横浜製造所	2002.1.23 (締結) 2016.3.11 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばい煙及び汚濁負荷量に係る排出総量協議</li> <li>・悪臭及び炭化水素類の排出防止対策</li> <li>・化学物質の自主管理及び最適排出防止技術の導入</li> <li>・白煙の影響監視及び適切な対策</li> <li>・油流出事故防止対策</li> </ul>	1971.10 (締結)
AGC株式会社 AGC横浜テクニカルセンター	2004.10.29 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばい煙排出量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・大気汚染物質の一層の低減</li> <li>・土壌、地下水汚染の未然防止対策</li> <li>・PCB処理の事前協議</li> <li>・温室効果ガス削減対策の推進</li> </ul>	1972.5 (締結)
株式会社 J-オイルミルズ 横浜工場	2006.3.10 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・積載効率向上、近場生産等による物流に係る環境負荷の低減</li> <li>・温室効果ガスの削減と省エネルギー対策</li> </ul>	1972.11 (締結)
日産自動車株式会社 横浜工場	2005.3.29 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・塗装作業等におけるVOC排出抑制対策</li> <li>・試験、研究施設に係る環境負荷の低減対策</li> <li>・省エネルギー対策の推進</li> </ul>	1973.3 (締結)
三菱ケミカル株式会社 鶴見工場 <sup>※3</sup>	2004.9.28 (締結) 2016.3.17 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・雨水の監視及び対策</li> <li>・船舶ばい煙対策</li> <li>・化学物質の合理的使用及び排出抑制等</li> <li>・省エネルギー対策の推進</li> </ul>	1974.1 (締結)
東亜合成株式会社 横浜工場	2004.9.14 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・化学物質の合理的使用及び排出抑制対策等</li> <li>・特定有害物質による地下水、土壌汚染の未然防止</li> <li>・温室効果ガスの削減と省エネルギー対策</li> </ul>	1974.5 (締結)
麒麟麦酒株式会社 横浜工場	2005.2.10 (締結) 2018.3.1 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・物流に係る環境負荷の低減</li> <li>・臭気対策</li> <li>・廃棄物の資源化の推進</li> <li>・風力、太陽光発電等の新エネルギー利用施設の設置</li> <li>・ピオトープ、緑地の適切な維持管理</li> <li>・環境学習のための工場見学会の実施</li> </ul>	—
株式会社IHI 横浜事業所	2005.3.24 (締結) 2015.3.23 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・実験施設からの排ガス規定及び環境負荷の一層の低減</li> <li>・VOC排出抑制対策</li> <li>・新エネルギー利用施設の設置検討</li> <li>・環境に関する地域貢献</li> <li>・廃棄物対策</li> </ul>	—

(次頁へ続きます)

事業所名※1	締結/改定※1		主な協定内容※1	旧公害防 止協定※2
	年月日	根拠		
株式会社レゾナック 横浜事業所	2005.3.24 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硫黄酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・船舶ばい煙対策の推進</li> <li>・産業廃棄物の資源化及び適正処理技術等の研究開発推進</li> <li>・関連企業の指導</li> </ul>	—
株式会社東芝 横浜事業所 東芝マテリアル株式会社	2006.3.31 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・排水処理施設の適正管理による汚濁負荷量の低減</li> <li>・雨水の監視及び対策</li> <li>・緑地、ビオトープ（ラグーン）の適切な維持管理</li> <li>・環境学習のための積極的な見学会の実施</li> <li>・新エネルギー利用施設の設置</li> </ul>	—
東芝エネルギーシステムズ 株式会社 京浜事業所	2006.3.31 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・物流に係る環境負荷の低減</li> <li>・新エネルギー利用施設の設置</li> <li>・省エネルギー対策の推進</li> </ul>	—
三菱重工業株式会社 横浜製作所 本牧工場	2006.3.31 (締結) 2018.10.31 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・物流に係る環境負荷の低減</li> <li>・再生可能エネルギー利用施設の設置</li> </ul>	—
日清オイリオグループ 株式会社 横浜磯子事業場	2006.3.31 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・積載効率の向上等による物流に係る環境負荷の低減</li> <li>・臭気対策</li> <li>・化学物質対策</li> <li>・市民参加イベントの開催、環境施設の見学会の実施</li> </ul>	—
太平洋製糖株式会社	2007.3.20 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・電動式フォークリフトの採用による排ガス対策</li> <li>・共同配送システムの採用など物流に係る環境負荷の低減</li> </ul>	—
株式会社ブリヂストン 横浜工場	2007.3.30 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・臭気対策</li> <li>・化学物質対策</li> <li>・太陽光発電等の新エネルギー利用施設の設置</li> </ul>	—
株式会社シンシア 横浜事業所	2007.6.15 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物等排出総量の総合的協議</li> <li>・搬出入車両への走行ルートの指導等の交通環境対策</li> <li>・粉じん対策</li> <li>・廃棄物対策</li> <li>・太陽光、風力発電等の新エネルギー利用施設の設置等</li> <li>・緑地の適切な維持管理</li> </ul>	—
株式会社扇島パワー 扇島パワーステーション	2007.8.7 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窒素酸化物排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>・温排水による海生生物への影響配慮</li> <li>・新エネルギーの利用や普及等の地球温暖化防止の取組</li> <li>・緑地の適切な維持管理</li> <li>・地域の環境保全施策への貢献、環境教育への支援</li> </ul>	—

(次頁へ続きます)



事業所名 <sup>※1</sup>	締結/改定 <sup>※1</sup>		主な協定内容 <sup>※1</sup>	旧公害防 止協定 <sup>※2</sup>
	年月日	根拠		
J & T環境株式会社 横浜エコクリーン	2010.3.12 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>搬出入車両への走行ルートの指導等の交通環境対策</li> <li>粉じん対策</li> <li>産業廃棄物対策</li> <li>太陽光、風力発電等の新エネルギー利用施設の設置等</li> <li>緑地の適切な維持管理</li> </ul>	—
太陽油脂株式会社	2010.3.29 (締結) 2019.11.1 (改定)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>積載効率の向上等による物流に係る環境負荷の低減</li> <li>再生可能エネルギーの利用等の地球温暖化防止の取組</li> <li>製品のライフサイクル全体における持続可能な社会への貢献</li> </ul>	—
国立研究開発法人 理化学研究所 横浜地区	2011.11.15 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動のあり方</li> <li>臭気対策</li> <li>化学物質対策</li> </ul>	—
アイテック株式会社 アイテックグリーンパーク横浜	2017.3.3 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>窒素酸化物等排出総量及び汚濁負荷量の総合的協議</li> <li>搬出入車両への走行ルートの指導等の交通環境対策</li> <li>粉じん対策</li> <li>廃棄物対策</li> <li>新エネルギーの利用や普及等の地球温暖化防止の取組</li> <li>緑地の適切な維持管理</li> <li>地域の環境保全施策への貢献</li> </ul>	—
中外製薬株式会社 ライフサイエンスパーク横浜	2020.2.10 (締結)	市条例 第150条 第1項	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動のあり方</li> <li>化学物質対策</li> <li>再生可能エネルギーの利用等の地球温暖化防止の取組</li> <li>緑地の適切な維持管理</li> </ul>	—

※1 環境保全協定の締結状況は、生活環境保全条例（市条例）第150条第2項の規定に基づき公表しています。

※2 環境保全協定の前身である公害防止協定を締結していた事業所について、その締結年月を掲載しています。

※3 三菱ケミカル株式会社鶴見工場は、2023年10月6日に三菱ケミカル株式会社関東事業所鶴見工場へ名称が変更されました。

### (3) 農薬の使用に係る環境保全協定

協定の名称	農薬の使用に係る環境保全協定
締結年月日	2003年9月1日（当初締結 1991年3月15日）
締結先 （ゴルフ場の名称）	磯子カントリークラブ（磯子区） 鎌倉カントリークラブ（栄区／鎌倉市） 戸塚カントリー倶楽部（旭区） 程ヶ谷カントリー倶楽部（旭区） 横浜カントリークラブ（保土ヶ谷区）
協定の概要	(1) 農薬の散布における留意事項 (2) 低毒性農薬への転換及び使用量の低減 (3) 農薬使用予定計画書の提出及び使用実績の報告 (4) コースからの排出水等の濃度の管理目標値等 (5) 横浜市による立入調査への協力等

### (4) 災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定

協定の名称	災害時における有害化学物質調査の協力に関する協定
締結年月日	2020年12月1日（当初締結 1999年8月31日（9月1日発効））
締結先団体の名称	横浜市環境技術協議会
協定の概要	(1) 災害時に環境中に飛散、漏えい又は流出した有害化学物質の調査への協力 (2) 平常時の訓練や研修等を連携して実施 (3) 協力体制の整備及び連絡体制の確認

### (5) 災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定

協定の名称	災害時における被災建築物のアスベスト調査に関する協定
締結年月日	2019年1月17日
締結先団体の名称	一般社団法人建築物石綿含有建材調査者協会
協定の概要	(1) 災害時における被災建築物のアスベスト（石綿）調査に関する協力 (2) 業務内容 ・被災建築物におけるアスベスト含有建材の施工箇所等の調査 ・建材中のアスベスト含有の有無の調査 ・被災建築物からのアスベスト飛散防止に必要な支援 (3) 平常時の協力 ・被災建築物からのアスベスト飛散による被害を未然に防止するための準備 (4) 協力体制の整備及び連絡体制の確認

## 4-6 生活環境に関する苦情相談及び水質事故

### (1) 生活環境に関する苦情相談件数

苦情相談の種類		年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
苦情件数※1	大気汚染	369	291	445	362	459
	悪臭	335	307	466	358	391
	騒音	463	387	555	430	504
	振動	161	108	151	147	195
	水質汚濁	84	63	74	57	73
	土壌汚染	2	1	0	0	0
	地盤沈下	2	0	0	2	0
	その他	5	8	13	6	10
	小計 (①)	1,421	1,165	1,704	1,362	1,632
相談件数※2 (②)		1,104	843	1,003	1,269	1,198
合計 (①+②)		2,525	2,008	2,707	2,631	2,830

※1 「苦情件数」は、公害苦情として受け付け、現地調査等の対応を行った件数です。

※2 「相談件数」は、苦情件数とは別に、日常生活に伴う騒音や悪臭、その他公害全般に関すること等について寄せられ、電話等により一定の解決に至った相談の件数です。

### (2) 発生源別の苦情件数

#### ア 大気汚染

苦情の種類			年度別件数				
			2018	2019	2020	2021	2022
固定発生源	ばい煙	屋外燃焼	204	163	315	214	246
		その他	18	20	26	12	17
		小計 (①)	(222)	(183)	(341)	(226)	(263)
	粉じん	建設作業	96	80	78	100	159
		製造作業	3	4	1	3	3
		その他	32	11	17	23	18
		小計 (②)	(131)	(95)	(96)	(126)	(180)
移動発生源	自動車の駐車時におけるアイドリング		12	10	7	8	15
	自動車の走行		4	3	0	1	1
	その他 (船舶等)		0	0	1	1	0
	小計 (③)		(16)	(13)	(8)	(10)	(16)
合計 (①+②+③)			369	291	445	362	459

## イ 悪臭

苦情の種類	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
屋外燃焼	204	163	315	214	246
飲食店等	17	20	30	14	19
建設作業	7	20	11	12	8
塗装	8	8	7	5	5
金属加工	4	1	1	2	4
畜産・農業	7	4	4	6	19
その他	88	91	98	105	90
合計	335	307	466	358	391

## ウ 騒音

苦情の種類		年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
固定発生源	建設作業	206	163	238	156	214
	事業所 <sup>※1</sup>	118	109	140	129	130
	開放型事業所	37	28	48	54	42
	夜間飲食店	27	35	56	32	54
	その他	31	25	32	24	24
	小計 (①)	(419)	(360)	(514)	(395)	(464)
移動発生源	航空機	36	21	29	23	21
	道路交通	7	2	8	6	3
	鉄道交通	0	3	2	2	2
	その他	1	1	2	4	14
	小計 (②)	(44)	(27)	(41)	(35)	(40)
合計 (①+②)		463	387	555	430	504

※1 開放型事業所、夜間飲食店を除いた件数です。

## エ 振動

苦情の種類		年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
固定発生源	建設作業	110	72	92	95	151
	事業所 <sup>※1</sup>	6	5	10	5	13
	開放型事業所	10	6	14	18	14
	その他	2	0	1	0	1
	小計 (①)	(128)	(83)	(117)	(118)	(179)
移動発生源	道路交通	33	22	32	27	15
	鉄道交通	0	2	2	1	1
	その他	0	1	0	1	0
	小計 (②)	(33)	(25)	(34)	(29)	(16)
合計 (①+②)		161	108	151	147	195

※1 開放型事業所を除いた件数です。

### (3) 水質事故

#### ア 水質汚濁の状況（発生源別）

発生源	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
製造業	3	4	5	5	2
建設業	10	6	11	9	4
サービス・卸売業	1	1	1	2	3
その他	4	8	7	6	7
不明	66	44	50	35	57
合計	84	63	74	57	73

#### イ 水質汚濁の水系・原因別受理件数

水域		原因別の受理件数（2022年度）※1							合計	
		魚浮上死		油浮遊		着色・汚濁など		その他		
河川・水路	鶴見川	1	(0)	6	(1)	9	(2)	0	16	(3)
	入江川	1	(0)	1	(1)	0	(0)	0	2	(1)
	帷子川	1	(1)	3	(1)	11	(5)	0	15	(7)
	大岡川	1	(0)	2	(0)	3	(2)	0	6	(2)
	宮川	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)
	侍従川	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)
	境川	0	(0)	3	(2)	13	(2)	0	16	(4)
	柏尾川	1	(0)	5	(0)	9	(1)	0	15	(1)
海域	扇島沖	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)
	横浜港	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	1	(0)
	本牧根岸沖	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	1	(0)
	平潟湾	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)
	その他水域	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	1	(1)
上記水域外※2		0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)
合計		5	(1)	22	(6)	46	(12)	0	73	(19)

※1 括弧内の数値は、原因別の受理件数のうち、その発生原因が判明した件数です。

※2 河川・海域以外の湧き水や側溝等で生じた事故を集計したものです。

#### ウ 魚浮上事故の被害魚種と原因

2022年度の 発生年月日	事故発生地点		被害魚種	原因
2022.5.27	帷子川小川アメニティ	旭区都岡町	コイ他	次亜塩素酸ナトリウム
2022.6.13	入江川	神奈川区入江二丁目	ボラ他	原因不明
2022.7.31	舞岡川	戸塚区舞岡町	コイ	原因不明
2022.8.2	奈良川	青葉区奈良町	コイ他	原因不明
2022.8.15	大岡川	南区弘明寺町	コイ他	原因不明

## 4-7 環境法令に基づく届出等の件数

### (1) 大気汚染防止法

届出の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
ばい煙発生施設	設置届出書（第6条第1項）	61	38	38	38	26
	使用届出書（第7条第1項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第8条第1項）	11	5	6	5	4
	氏名等変更届出書（第11条）	95	99	159	87	84
	使用廃止届出書（第11条）	45	60	43	60	44
	承継届出書（第12条第3項）	20	14	12	14	8
揮発性有機化合物 排出施設	設置届出書（第17条の5第1項）	1	1	1	0	0
	使用届出書（第17条の6第1項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第17条の7第1項）	0	0	0	0	0
	氏名等変更届出書（第17条の13第2項）	4	2	2	6	1
	使用廃止届出書（第17条の13第2項）	0	1	0	0	0
	承継届出書（第17条の13第2項）	1	0	0	0	0
一般粉じん発生施設	設置届出書（第18条第1項）	12	3	10	5	4
	使用届出書（第18条の2第1項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第18条第3項）	4	4	0	3	2
	氏名等変更届出書（第18条の13第2項）	11	11	17	9	14
	使用廃止届出書（第18条の13第2項）	10	4	7	8	4
	承継届出書（第18条の13第2項）	0	1	3	0	2
解体等工事 <sup>※1</sup>	事前調査結果報告（第18条の15第6項）	-	-	-	-	21,761
特定粉じん排出等 作業	実施届出書 （第18条の17第1項又は第2項）	251	273	317	147	232
水銀排出施設	設置届出書（第18条の28第1項）	0	0	1	0	0
	使用届出書（第18条の29第1項）	14	0	0	0	0
	変更届出書（第18条の30第1項）	2	4	1	0	0
	氏名等変更届出書（第18条の36第2項）	2	2	8	0	0
	使用廃止届出書（第18条の36第2項）	0	0	1	0	0
	承継届出書（第18条の36第2項）	0	0	0	0	0
合計		544	522	626	382	22,186

※1 解体等工事における石綿事前調査結果の報告は、大気汚染防止法の改正により、2022年度から追加されました。

## (2) 水質汚濁防止法

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定施設（①）	設置届出書（第5条第1項）	106	88	122	109	103
	使用届出書（第6条第1項）	8	0	0	3	2
有害物質使用特定施設※ <sup>1</sup> ・ 有害物質貯蔵指定施設（②）	設置届出書（第5条第3項）	12	13	11	12	15
	使用届出書（附則第3条）	2	4	6	4	2
①・② 共通	変更届出書（第7条）	76	92	61	73	63
	氏名等変更届出書（第10条）	121	95	153	112	133
	使用廃止届出書（第10条）	118	99	69	100	89
	承継届出書（第11条第3項）	16	25	14	14	19
	汚濁負荷量測定手法届出書 （第14条第3項）	7	7	7	6	2
	使用等開始報告書※ <sup>2</sup>	168	148	140	158	141
合計	634	571	583	591	569	

※<sup>1</sup> 特定施設（①）に係る届出を提出した場合は除きます。

※<sup>2</sup> 制度運用による報告書様式です。

※<sup>3</sup> 表中の「附則」は、「水質汚濁防止法の一部を改正する法律（平成23年法律第71号）の附則」です。

## (3) 土壌汚染対策法（土壌汚染対策に係る届出等）

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染状況調査結果報告書（第3条第1項）		13	24	6	10	10
特定有害物質の種類のお知らせ申請書（規則第3条第4項）		0	0	0	1	0
土壌汚染対策法第3条第1項ただし書の確認申請書 （第3条第1項ただし書）		62	69	40	70	46
承継届出書（規則第16条第5項）		5	9	3	4	5
土地利用方法変更届出書（第3条第5項）		6	6	1	0	2
一定の規模以上の土地の形質の変更届出書 （第3条第7項又は第4条第1項）		85	95	110	134	129
土壌汚染状況調査結果報告書 （第3条第8項又は第4条第2項若しくは第3項）		9	28	20	30	38
土壌汚染状況調査結果報告書（第5条第1項）		0	0	0	0	0
汚染除去等計画書（新規・変更）（第7条第1項又は第3項）※ <sup>1</sup>		—	1	0	0	1
工事完了報告書（第7条第9項）※ <sup>1</sup>		—	0	0	0	0
実施措置完了報告書（第7条第9項）※ <sup>1</sup>		—	0	1	0	0
帯水層の深さに係る確認申請書 （規則第44条第1項又は規則第50条第2項）		0	0	0	0	0
指示措置等と一体として行われる土地の形質の変更の確認申 請書（規則第45条第1項。旧様式）		0	0	0	0	0

（次頁へ続きます）



届出等の種類（根拠条項）	年度別受付件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
実施措置等と一体として行われる土地の形質の変更の確認申請書（規則第45条第1項）※1	－	2	0	0	0
地下水の水質の測定又は地下水汚染の拡大の防止が講じられている土地の形質の変更の確認申請書（規則第46条第1項又は規則第50条第3項）	0	0	0	0	0
形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書（第12条第1項、第2項又は第3項）	49	49	54	48	48
施行管理方針に係る確認申請書/変更届出書※1（第12条第1項第1号又は規則第52条の6第1項若しくは第2項）	－	0	0	0	0
施行管理方針の確認を受けた土地内における土地の形質の変更届出書（第12条第4項）※1	－	0	0	0	0
施行管理方針の確認を受けた土地の汚染状態が人為等に由来することが確認された場合等の届出書（規則第52条の5第1項）※1	－	0	0	0	0
施行管理方針の廃止届出書（規則第52条の7第1項）※1	－	0	0	0	0
指定の申請書（第14条第1項）	9	4	4	5	6
要措置区域等に搬入された土壌に係る届出書（規則第59条の2第2項第3号）※1	－	0	0	0	0
搬出しようとする土壌の基準適合認定申請書（第16条第1項）	2	3	1	0	1
汚染土壌の区域外搬出届出書（第16条第1項）	26	27	28	32	27
汚染土壌の区域外搬出変更届出書（第16条第2項）	10	8	9	10	2
非常災害時における汚染土壌の区域外搬出届出書（第16条第3項）	0	0	0	0	0
搬出汚染土壌の 運搬/処理 状況確認届出書（第20条第6項）	0	0	0	0	0
要措置区域における汚染の除去等の措置完了報告書※2	2	3	2	4	6
形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更完了報告書※2	53	41	57	56	32
土壌汚染状況調査結果報告期限延長申請書（規則第1条第1項ただし書）	2	2	0	6	1
その他の届出書	48	56	33	59	34
合計	381	427	369	469	388

※1 土壌汚染対策法の改正により、2019年度から追加された申請書等です。

※2 制度運用による報告書様式です。

(4) 土壌汚染対策法（土壌汚染対策に係る措置内容等）

措置内容等の種類（申請根拠）	年度別件数				
	2018	2019	2020	2021	2022
特定有害物質の種類のお知らせ（規則第3条第3項）	0	0	0	1	0
土壌汚染対策法第3条第1項のただし書の確認 （第3条第1項ただし書）	72	79	37	73	44
帯水層の深さに係る確認 （規則第44条第1項又は規則第50条第2項）	0	0	0	0	0
実施措置と一体として行われる土地の形質の変更の確認 （規則第45条第1項）	0	2	0	0	0
地下水の水質の測定又は地下水汚染の拡大の防止が講じられている土地の形質の変更の確認 （規則第46条第1項又は規則第50条第3項）	0	0	0	0	0
施行管理方針に係る確認（第12条第1項）※1	-	0	0	0	0
指定（第14条第1項）	12	5	4	5	6
搬出しようとする土壌の基準適合認定（第16条第1項）	2	3	1	0	1
土壌汚染状況調査結果報告の期限の延長 （規則第1条第1項ただし書）	3	2	0	0	1
合計	89	91	42	79	52

※1 土壌汚染対策法の改正により、2019年度から追加されたものです。

(5) 土壌汚染対策法（汚染土壌処理業に係る申請等）

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
汚染土壌処理業	許可申請書（第22条第1項）	1	2	2	0	0
	地下水の水質が地下水基準に1年間継続して適合している旨の確認申請（省令第5条第20号ただし書）	0	0	0	0	0
	1年間継続して省令の規定に従って大気汚染有害物質を排出している旨の確認申請（省令第5条第21号口括弧書）	0	0	0	0	0
	変更許可申請書（第23条第1項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第23条第3項）	7	16	10	8	12
	休止/廃止/再開届出書（第23条第4項）	0	0	0	1	0
	廃止措置実施報告書（第27条第1項）	0	0	0	0	0
	譲渡及び譲受承認申請書（第27条の2第1項）	0	0	0	0	0
	合併・分割承認申請書（第27条の3第1項）	0	0	0	0	0
	相続承認申請書（第27条の4第1項）	0	0	0	0	0
	許可証の再交付/書換え申請書（省令第17条第2項）	2	0	2	0	2
合計	10	18	14	9	14	

※1 表中の「省令」は、「汚染土壌処理業に関する省令（平成21年環境省令第10号）」です。

(6) 土壌汚染対策法（汚染土壌処理業に係る措置内容等）

措置内容等の種類（申請根拠）		年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
汚染土壌処理業	許可（第22条第1項）	1	0	0	0	0
	地下水の水質が地下水基準に1年間継続して適合している旨の確認（省令第5条第20号ただし書）	0	0	0	0	0
	1年間継続して省令の規定に従って大気汚染有害物質を排出している旨の確認（省令第5条第21号口括弧書）	0	0	0	0	0
	更新の許可（第22条第5項）	0	2	1	1	0
	変更の許可（第23条第1項）	0	0	0	0	0
	譲渡及び譲受の承認（第27条の2第1項）	0	0	0	0	0
	合併及び分割の承認（第27条の3第1項）	0	0	0	0	0
	相続の承認（第27条の4第1項）	0	0	0	0	0
	許可証の再交付/書換え（省令第17条第2項）	2	0	2	0	2
合計	3	2	3	1	2	

※1 表中の「省令」は、「汚染土壌処理業に関する省令（平成21年環境省令第10号）」です。

## (7) 騒音規制法

届出の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定施設	設置届出書（第6条第1項）	56	46	35	19	24
	使用届出書（第7条第1項）	0	0	0	0	0
	種類ごとの数変更届出書（第8条第1項）	69	74	48	49	62
	騒音の防止の方法変更届出書（第8条第1項）	11	8	9	3	6
	氏名等変更届出書（第10条）	151	169	431	176	173
	使用全廃届出書（第10条）	25	25	31	22	28
	承継届出書（第11条第3項）	31	30	24	31	14
特定建設作業	実施届出書（第14条第1項又は第2項）	1,844	1,912	2,053	2,192	2,253
合計		2,187	2,264	2,631	2,492	2,560

## (8) 振動規制法

届出の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定施設	設置届出書（第6条第1項）	30	25	17	12	14
	使用届出書（第7条第1項）	0	0	0	0	0
	種類及び能力ごとの数変更届出書（第8条第1項）	60	62	41	33	47
	使用の方法変更届出書（第8条第1項）	1	0	2	3	3
	振動の防止の方法変更届出書（第8条第1項）	5	5	7	3	4
	氏名等変更届出書（第10条）	75	75	125	81	92
	使用全廃届出書（第10条）	20	15	13	13	20
	承継届出書（第11条第3項）	9	7	6	15	5
特定建設作業	実施届出書（第14条第1項又は第2項）	966	1,015	1,034	1,168	1,288
合計		1,166	1,204	1,245	1,328	1,473

## (9) ダイオキシン類対策特別措置法

届出の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定施設	設置届出書（第12条第1項）	1	0	2	0	0
	使用届出書（第13条第1項又は第2項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第14条第1項）	3	2	1	0	0
	氏名等変更届出書（第18条）	6	5	13	3	0
	使用廃止届出書（第18条）	11	4	1	0	2
	承継届出書（第19条第3項）	1	0	0	0	0
合計		22	11	17	3	2

(10) 下水道法・横浜市下水道条例

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
特定施設 ①	設置届出書（法第12条の3第1項）	112	84	111	97	93
	使用届出書（法第12条の3第2項又は第3項）	2	0	0	1	1
	構造等変更届出書（法第12条の4）	91	73	67	69	67
	使用廃止届出書（法第12条の7）	135	103	120	116	92
	工事完了届出書（要綱第5条）	160	139	131	121	114
除害施設 ②	新設等届出書（条例第7条第1項）	33	44	41	53	49
	使用廃止届出書（条例規則第11条第2項）	20	24	29	39	33
	工事完了届出書（条例第7条第2項）	29	32	34	44	37
①・②共通	氏名変更等届出書（法第12条の7）	160	169	275	215	236
	氏名等変更届出書（条例規則第11条第2項）					
	承継届出書（法第12条の8第3項） 承継届出書（条例規則第11条第3項）	25	34	42	30	48
除害施設等 管理責任者	選任届出書（条例第9条第2項）	134	168	105	172	162
	承認申請書（条例規則第15条第2項）	34	40	36	57	36
	解任届出書（条例規則第15条第5項）	127	152	116	164	142
	資格認定講習修了証再交付願 （要綱第12条第6項）	3	6	1	3	4
公共下水道	使用開始（変更）届（法第11条の2第1項）	189	154	137	153	135
	使用開始届（法第11条の2第2項）					
	使用開始（変更）届出の氏名等変更連絡 （要綱第6条）	13	17	20	24	13
合計		1,267	1,239	1,265	1,358	1,262

※1 表中の「要綱」は、「横浜市環境創造局事業場排水指導要綱」です。

(11) 工業用水法

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
井戸	使用許可申請書（第3条第1項）	0	0	0	0	0
	使用届出書（第6条第3項）	0	0	0	0	0
	変更許可申請書（第7条第1項）	0	0	0	0	0
	氏名等変更届出書（第9条）	0	0	0	0	0
	許可承継届出書（第10条第3項）	0	0	0	0	0
	許可井戸廃止届出書（第11条）	0	0	0	0	0
	変更報告書（第24条）	0	0	0	0	0
	使用状況報告書（第24条）	1	1	1	1	1
合計		1	1	1	1	1

## (12) 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数					
		2018	2019	2020	2021	2022	
公害防止統括者 （第3条第3項又は第6条第2項）	選任等 <sup>※1</sup>	55	42	48	55	43	
	代理者の選任等 <sup>※1</sup>	38	48	44	55	29	
公害防止主任管理者 （第5条第3項又は第6条第2項）	選任等 <sup>※1</sup>	2	2	0	4	2	
	代理者の選任等 <sup>※1</sup>	2	2	0	0	0	
公害防止管理者 （第4条第3項 又は第6条第2項）	大気関係	選任等 <sup>※1</sup>	24	40	29	34	34
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	28	27	21	29	35
	水質関係	選任等 <sup>※1</sup>	12	27	18	18	11
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	8	23	12	12	21
	騒音関係	選任等 <sup>※1</sup>	5	3	2	6	0
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	4	1	1	1	2
	特定粉じん関係	選任等 <sup>※1</sup>	0	0	0	0	0
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	0	0	0	0	0
	一般粉じん関係	選任等 <sup>※1</sup>	9	10	11	12	10
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	19	8	7	14	10
	振動関係	選任等 <sup>※1</sup>	6	3	4	2	0
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	4	2	3	3	0
	ダイオキシン類 関係	選任等 <sup>※1</sup>	0	0	0	0	0
		代理者の選任等 <sup>※1</sup>	0	0	0	2	0
	承継届出書（第6条の2第2項）		2	3	1	1	1
	合計		218	241	201	248	198

※1 公害防止統括者、公害防止主任管理者及び公害防止管理者に係る届出事由は「選任、死亡・解任」です。

## (13) 化学物質排出把握管理促進法

届出等の種類（根拠条項）	年度別受付件数 <sup>※1</sup>				
	2018	2019	2020	2021	2022
第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書（第5条第2項）	373	360	373	347	360
電子情報処理組織使用届出書（規則第12条第1項）	5	3	7	5	7
電子情報処理組織変更（廃止）届出書（規則第12条第3項）	48	41	45	46	63
変更届出書 <sup>※2</sup>	35	21	49	21	17
過年度新規届出書 <sup>※2</sup>	1	1	20	7	11
取下げ願い <sup>※2</sup>	1	0	0	0	0
合計	463	426	494	426	458

※1 各年度内に届出され、受理した件数を集計しています。（把握対象年度ごとに有効な届出を集計した結果ではありません。）

※2 PRTR 制度の運用に基づく届出等です。

※3 法律の正式名称は「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」です。

## (14) 横浜市生活環境の保全等に関する条例（申請等）

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
指定事業所	設置許可申請書（第3条第1項）	33	31	31	30	31
	事業開始等届出書（第7条）	31	31	33	26	33
	変更許可申請書（第8条第1項）	189	180	169	160	175
	変更完了届出書（第8条第2項）	163	155	147	131	139
	変更計画中止届出書（第8条第3項）	2	0	0	1	0
	変更計画届出書（旧規定※ <sup>1</sup> ）	—	—	—	—	—
	変更届出書（第10条）	280	284	354	303	273
	地位承継届出書（第11条第3項）	34	28	24	27	22
	廃止等届出書（第12条）	65	64	45	50	56
	現況届出書（第15条第2項）	0	0	0	0	0
	環境配慮書（旧規定※ <sup>1</sup> ）	—	—	—	—	—
環境管理事業所	認定申請書（第18条第2項）	15	10	1	3	9
	変更届出書（第21条第1項）	31	37	32	32	14
騒音・振動	騒音測定結果報告書（第33条）	37	32	10	17	35
	振動測定結果報告書（第33条）	25	15	5	3	22
夜間営業	開始届出書（第55条第1項）	0	0	0	0	0
	変更計画届出書（第55条第2項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第55条第3項）	2	2	4	1	1
	廃止等届出書（第55条第4項）	0	1	0	0	0
	地位承継届出書（第56条第2項）	0	0	0	0	0
	既設届出書（附則第9項）	0	0	0	0	0
地下水汚染	地下水汚染原因調査報告書（第61条の2第2項）	1	0	0	1	1
	地下水浄化措置結果報告書（第61条の3第2項）	13	13	13	6	6
土壌汚染	特定有害物質使用等事業所廃止届出書 （第64条の2第1項又は第7項）	40	35	22	30	25
	条例土壌汚染状況調査結果報告書 （第64条の2第2項又は第7項）	19	19	6	15	9
	条例第64条の2第2項第3号の確認申請書 （第64条の2第2項第3号又は第7項）	3	5	3	4	3
	土地利用方法変更届出書 （第64条の2第5項又は第7項）	0	1	0	1	1
	条例土壌汚染状況調査結果報告書期限延長申 請書（規則第59条の2第2項ただし書）	8	3	4	5	1
	承継届出書（規則第59条の3第5項）	0	0	2	0	2
	土地の形質の変更届出書（第65条第1項）	54	25	71	60	51
	条例第65条に基づく条例土壌汚染状況調査結 果報告書（第65条第2項又は第3項）	31	17	33	36	26
	条例汚染除去等計画書（新規・変更） （第66条の2第1項又は第3項）※ <sup>2</sup>	—	0	0	0	0

(次頁へ続きます)



届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染	工事完了報告書（第66条の2第9項）※ <sup>2</sup>	—	0	0	0	0
	条例実施措置完了報告書 （第66条の2第9項）※ <sup>2</sup>	—	0	0	0	0
	帯水層の深さに係る確認申請書 （規則第59条の25第1項又は規則第59条の31第2項）	0	0	0	0	0
	条例実施措置と一体として行われる土地の形質の変更の確認申請書 （規則第59条の26第1項）	0	0	0	0	0
	地下水の水質の測定又は地下水汚染の拡大の防止が講じられている土地の形質の変更の確認申請書 （規則第59条の27第1項又は規則第59条の31第3項）	0	0	0	0	0
	条例形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書 （第67条の2第1項、第2項又は第3項）	9	18	12	12	7
	条例形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更完了/中間報告書※ <sup>3</sup>	11	16	13	13	8
	土壌汚染による地下水への影響調査報告書 （第68条の2第1項）	26	33	22	25	23
	搬出しようとする土壌の基準適合認定申請書 （第69条第1項）	0	0	1	0	0
	条例汚染土壌の区域外搬出届出書 （第69条第1項）	7	12	11	12	6
	条例汚染土壌の区域外搬出変更届出書 （第69条第2項）	1	2	1	4	0
	非常災害時における条例汚染土壌の区域外搬出届出書（第69条第3項）	0	0	0	0	0
	搬出条例汚染土壌の運搬/処理状況確認届出書（第69条の5第6項又は第9項）	0	0	0	0	0
	条例土壌汚染状況調査結果報告書 （追完・詳細）※ <sup>3</sup>	1	1	1	3	0
	条例要措置区域における汚染の除去等の措置完了/中間報告書（旧規定※ <sup>1</sup> ）	0	—	—	—	—
	その他の届出書（土壌汚染対策）※ <sup>3</sup>	43	23	54	47	12
土壌汚染 （ダイオキシン類管理対象地に係るもの）	ダイオキシン類管理対象事業所廃止届出書 （第70条の2第1項）	1	1	1	0	1
	土壌汚染状況調査結果報告書 （第70条の2第2項）	2	1	1	2	1
	土地の形質の変更届出書 （第70条の3第1項又は第7項）	24	10	16	17	26
	土地形質変更土壌汚染状況調査結果報告書 （第70条の3第2項又は第7項）	13	9	8	7	0
	公害防止措置完了報告書 （第70条の3第4項）	0	0	0	0	0

（次頁へ続きます）

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染 （ダイオキシン類管理対象地に係るもの）	非常災害のために必要な応急措置として行った土地の形質変更届出書（第70条の3第5項又は第7項）	0	0	0	0	0
	地下水への影響調査報告書（第70条の5第1項）	0	0	0	0	0
地下水採取	許可申請書（第72条第1項）	3	0	1	0	25
	開始届出書（第74条第1項）	2	1	1	1	2
	変更許可申請書（第75条第1項）	3	3	8	2	4
	変更完了届出書（第75条第2項）	3	0	1	0	0
	変更計画中止届出書（第75条第3項）	0	0	0	0	0
	変更届出書（第76条）	17	20	60	22	14
	地位承継届出書（第77条第3項）	1	3	4	3	1
	廃止届出書（第78条）	2	6	1	3	4
	地下水採取量及び水位測定結果報告書（第81条）	242	222	263	240	241
特定小規模施設	設置届出書（第86条第1項）	210	149	76	46	4
	承継届出書（第86条第2項）	6	5	14	1	0
	変更届出書（第87条第1項又は第2項）	546	44	597	24	6
	廃止届出書（第88条）	47	36	46	19	0
	既設届出書（附則第17項）	1	0	0	0	0
石綿排出作業	開始届出書（第92条）	19	18	21	27	35
	完了届出書（第94条）	271	286	331	204	226
焼却施設解体工事	開始届出書（第99条第1項又は第2項）	1	3	4	2	4
	完了届出書（第100条）	4	2	4	2	3
工事排水	工事排水届出書（第105条）	7	7	4	8	7
	変更届出書（第106条第1項又は第2項）	1	3	7	5	1
	完了届出書（第107条）	3	3	5	6	3
屋外作業	開始届出書（第111条）	0	3	4	1	2
	変更届出書（第112条第1項又は第2項）	1	2	4	4	0
	中止届出書（第113条）	1	1	3	0	0
	使用届出書（附則第23項）	0	0	0	0	0
掘削作業	開始届出書（第117条）	20	14	24	17	13
	変更届出書（第118条第1項又は第2項）	17	46	24	26	20
	完了届出書（第120条）	16	37	21	27	18
小規模揚水施設	設置届出書（第124条第1項）	5	8	6	7	6
	承継届出書（第124条第2項）	0	5	0	0	2
	変更届出書（第126条第1項又は第2項）	7	15	15	16	8
	廃止届出書（第127条）	2	4	2	4	2

（次頁へ続きます）

届出等の種類（根拠条項）		年度別受付件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
土壌汚染 （土壌汚染有害 物質使用地に 係るもの） （旧規定※1）	土壌汚染有害物質使用事業所廃止等報告書	0	0	0	0	0
	土壌調査計画書	0	0	0	0	0
	土壌調査報告書	0	0	0	0	0
	土壌汚染対策計画書	1	0	0	0	0
	土壌汚染対策完了報告書	5	1	2	0	1
土壌汚染 （土壌汚染有害 物質使用地に 係るもの） （旧規定※1）	土地形質変更届出書	0	0	0	0	0
	土地形質変更土壌調査計画書	0	0	0	0	0
	土地形質変更土壌調査報告書	0	0	0	0	0
	土地形質変更土壌汚染対策計画書	3	2	2	2	5
	土地形質変更土壌汚染対策完了報告書	3	6	3	3	2
	周知計画届出書	0	0	0	0	0
	周知完了届出書	0	0	0	0	0
適正処分・その他の届出書	3	2	1	18	42	
合計		2,687	2,071	2,709	1,824	1,720

※1 表中「旧規定」と記載されているものは、現在の生活環境保全条例では削除されているものです。ただし、経過措置の対象となるものは、旧規定に基づく届出等を受付しています。

※2 生活環境保全条例の改正により、2019年度から追加された様式です。

※3 制度運用に基づく届出等です。

#### (15) 横浜市生活環境の保全等に関する条例（措置内容等）

措置内容等の種類（申請根拠）		年度別件数				
		2018	2019	2020	2021	2022
指定事業所	設置の許可（第3条第1項）	35	29	32	29	34
	変更の許可（第8条第1項）	189	186	170	157	165
環境管理事業所	認定（第18条第1項）	14	9	3	3	8
土壌汚染	条例第64条の2第2項第3号の確認 （第64条の2第2項第3号又は第7項）	4	4	3	4	3
	条例土壌汚染状況調査結果報告書の期限の 延長（規則第59条の2第2項ただし書）	5	2	2	5	1
	帯水層の深さに係る確認 （規則第59条の25第1項又は規則第59条の31第2項）	0	0	0	0	0
	条例実施措置と一体として行われる土地の 形質の変更の確認（規則第59条の26第1項）	0	0	0	0	0
	地下水の水質の測定又は地下水汚染の拡大の 防止が講じられている土地の形質の変更の確認 （規則第59条の27第1項又は規則第59条の31第3項）	0	0	0	0	0
	搬出しようとする土壌の基準適合認定 （第69条第1項）	0	0	1	0	0
地下水採取	許可（第72条第1項）	3	0	1	0	25
	変更の許可（第75条第1項）	3	3	8	2	4
合計		253	233	220	200	240

## 4-8 環境管理事業所

### (1) 環境管理事業所の認定状況（2022年度末時点）

事業所の名称	所在地	認定の有効期間	
		開始	終了
東芝環境ソリューション株式会社 本社	鶴見区寛政町 20-1	2022.9.16	2025.7.31
山村フォトニクス株式会社 横浜工場	神奈川区恵比須町 7-8	2021.4.28	2024.2.17
国際埠頭株式会社	中区豊浦町 3	2022.9.28	2025.9.27
神奈川機器工業株式会社	磯子区岡村八丁目 19-1	2020.10.30	2023.10.29
東芝マテリアル株式会社	磯子区新杉田町 8	2022.8.31	2025.8.7
アネスト岩田株式会社 本社	港北区新吉田町 3176	2023.3.23	2026.3.22
株式会社デスポ 池辺工場	都筑区池辺町 3970	2023.3.29	2026.3.28
株式会社デスポ 池辺コンポスト工場	都筑区池辺町 3978-1	2023.3.29	2026.3.28
山村フォトニクス株式会社 本社工場	都筑区池辺町 4207	2021.4.28	2024.2.17
住友電気工業株式会社 横浜製作所	栄区田谷町 1	2023.2.17	2026.2.4
千代田化工建設株式会社 子安オフィスリサーチパーク	神奈川区守屋町 3-13	2022.4.27	2025.2.5

※この表は、生活環境保全条例第 18 条第 1 項の規定に基づき認定した環境管理事業所について、同第 20 条の規定に基づき、2022 年度末時点の認定状況を掲載しています。（所在地の区ごとに整理して掲載）

## 4-9 低公害車の普及促進

### (1) 市内の次世代自動車（EV、PHV、FCV）登録台数

次世代自動車の種別	年度末時点の登録台数				
	2018	2019	2020	2021	2022
電気自動車（EV）	3,792	3,917	4,139	4,691	6,689
プラグインハイブリッド自動車（PHV）	2,842	3,096	3,388	3,936	4,769
燃料電池自動車（FCV）	122	150	199	282	306
合計	6,756	7,163	7,726	8,909	11,764

※特種（殊）車を除きます。

## 4-10 広報物による情報発信

### (1) ガイドラインに基づく取組に関する広報物（2022年度作成）

名称	概要	形式
横浜市生活環境の保全等に関する条例関係規程集	生活環境保全条例の関係規程（条例・施行規則・指針・指導基準等）をとりまとめた規程集	電子データ
生活環境保全推進ガイドライン 年次報告書（2021年度実績）	生活環境の状況やガイドラインに基づく取組の実施状況について2021年度実績をとりまとめた年次報告書	印刷物 電子データ
横浜市大気汚染調査報告書 （第62報）	大気汚染物質等の常時監視測定、有害大気汚染物質測定などの結果をとりまとめた年次報告書	電子データ
令和3年度 横浜市公共用水域 及び地下水の水質測定結果報告書	神奈川県の水質測定計画に基づく水質調査（公共用水域及び地下水）結果などをとりまとめた年次報告書	電子データ
横浜市における騒音・振動の 測定結果報告書 （平成29年度版～令和3年度版）	道路交通騒音などの騒音・振動に関する環境測定の結果をとりまとめた年次報告書 （令和4年度は過年度分の報告書も作成）	電子データ
横浜市環境科学研究所報第47号	2021年度に環境科学研究所が行った試験検査、調査研究の概要及び成果をとりまとめた年次報告書	印刷物 電子データ
2022年度 環境に関する市民意識 調査 調査結果報告書	環境に対する意識や環境行動の実践状況等に関する市民への意識調査の結果をとりまとめた報告書	電子データ
大気汚染防止法による ばい煙発生 施設に係る届出の手引	大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
大気汚染防止法による 一般粉じん 発生施設に係る届出の手引	大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
大気汚染防止法による 揮発性有機 化合物排出施設に係る届出の手引	大気汚染防止法に基づく揮発性有機化合物排出施設の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
アスベスト除去工事について（届 出対象）	大気汚染防止法及び生活環境保全条例に基づくアスベスト除去に関する届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
建築物等を解体、改造又は補修す るにあたって（届出対象外工事）	大気汚染防止法及び生活環境保全条例に基づく届出不要なアスベスト除去について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
水質汚濁防止法届出作成マニュアル （届出記載例等について）	水質汚濁防止法の届出作成に的を絞って詳細をまとめたパンフレット	印刷物 電子データ
横浜市電子申請・届出システム による届出書作成の手引き （横浜市土壌汚染対策手引）	土壌汚染対策法、生活環境保全条例に基づく土壌汚染関連手続の電子申請について説明したパンフレット	印刷物 電子データ

（次頁へ続きます）

名称	概要	形式
土壤汚染対策法第3条第1項ただし書の確認申請書作成の手引き	土壤汚染対策法第3条第1項ただし書に基づく確認申請書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
土壤汚染対策法第3条第7項に基づく土地の形質の変更届出書作成の手引き	土壤汚染対策法第3条第7項に基づく土地の形質の変更届出書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
土壤汚染対策法第4条第1項に基づく土地の形質の変更届出書作成の手引き	土壤汚染対策法第4条第1項に基づく土地の形質の変更届出書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書等作成の手引き	形質変更時要届出区域内における土地の形質の変更届出書等について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
土壤汚染対策法第14条第1項に基づく指定の申請書作成の手引き	土壤汚染対策法第14条第1項に基づく指定の申請書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
汚染土壌の区域外搬出届出書作成の手引き	汚染土壌の区域外搬出届出書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
横浜市生活環境の保全等に関する条例第65条に基づく土地の形質の変更届出書作成の手引き	生活環境保全条例第65条に基づく土地の形質の変更届出書について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
騒音規制法及び振動規制法による特定施設に係る届出の手引	騒音規制法及び振動規制法に基づく特定施設の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
より静かな建設作業を目指して！ －特定建設作業実施届出の手引－	騒音規制法及び振動規制法に基づく特定建設作業の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
特定建設作業実施届出の手引 (横浜市電子申請・届出システム用)	騒音規制法及び振動規制法に基づく特定建設作業の届出の電子申請について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
下水道法・横浜市下水道条例届出書作成マニュアル	下水道法に基づく特定施設等や横浜市下水道条例に基づく除害施設の届出について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
横浜市生活環境の保全等に関する条例の手引【夜間営業の騒音防止】	生活環境保全条例に基づく夜間営業の届出等について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
横浜市生活環境の保全等に関する条例の手引【屋外作業の騒音・振動の防止】	生活環境保全条例に基づく屋外作業の届出等について説明したパンフレット	印刷物 電子データ
研究機関で施設の設置等をお考えの方へ	研究機関で施設を設置等する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
金属加工施設の設置等をお考えの方へ	金属加工施設を設置等する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
資源の再生・廃棄物処理で施設の設置等をお考えの方へ	資源の再生・廃棄物処理で施設を設置等する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ

(次頁へ続きます)



名称	概要	形式
商業ビルやオフィスビル等の建設をお考えの方へ	商業ビルやオフィスビル等を建設する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
洗濯施設の設置等をお考えの方へ	洗濯施設を設置等する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
ガソリンスタンドで施設の設置をお考えの方へ	ガソリンスタンドで施設を設置等する場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
事業所の廃止等をお考えの方へ	事業所の一部廃止や建替えをする場合に適用される環境法令に基づく規制の例を紹介したリーフレット	印刷物 電子データ
土壌汚染対策に必要な手続き	土壌汚染関連法令の周知と土壌汚染の未然防止を目的とした、特定有害物質を扱っている事業者向けの動画	動画 電子データ
土壌汚染対策に関する Q & A	土壌汚染対策法及び生活環境保全条例に基づく土壌汚染対策に関する Q & A 集	印刷物 電子データ
住まいの音に気配りを	日常生活に伴って発生する生活騒音について、側面的な支援を行うためのリーフレット	印刷物 電子データ
飲食店のみなさまへ (騒音の防止にご協力を！)	飲食店営業騒音の規制に関する事項をまとめたリーフレット	印刷物 電子データ
工事排水に必要な届出はお済みですか？	工事で発生する排水を下水管や河川・海域に流す際の届出について説明したリーフレット	印刷物 電子データ
【Y-Labo】 みんなできれいな川を守ろう	「動画で横浜の環境を学ぼう！」水質事故編。川が白くなってしまう原因をゆるキャラが調査する啓発動画	動画
化学物質について知ろう！ (動画版、PDF 版)	「化学物質と環境リスク」と「PRTR ってなんだろう？」をテーマにした化学物質に関する啓発資料。動画版(2022 年度末まで公開)と PDF 版で公表	動画 電子データ

## 4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要

この節では、横浜市内に適用される主な環境基準等（原則として 2022 年度末時点）の概要を整理しています。市内に適用されないもの※は省略しています。

※ 例えば、水質汚濁に係る環境基準では、市内に適用されない類型の基準値は掲載されていません。

### (1) 大気環境

#### ア 大気の汚染に係る環境基準

項目	環境基準	評価方法
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	日平均値が 0.04 ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1 ppm 以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
一酸化炭素 (CO)	日平均値が 10 ppm 以下であり、かつ、8 時間平均値が 20 ppm 以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
浮遊粒子状物質 (SPM)	日平均値が 0.10 mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20 mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	長期的評価※ <sup>1</sup>
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	日平均値が 0.04 ppm から 0.06 ppm までのゾーン内、又はそれ以下であること。※ <sup>2</sup>	98% 値評価※ <sup>3</sup>
光化学オキシダント (Ox)	1 時間値が 0.06 ppm 以下であること。	昼間 (5 ~ 20 時) の測定値による評価
微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	年平均値が 15 μg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、日平均値が 35 μg/m <sup>3</sup> 以下であること。	年平均値の評価及び 98% 値評価の併用※ <sup>4</sup>

※<sup>1</sup> 年間の日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるものを除外した後の最高値 (2% 除外値) を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合は、不適合と評価します。

※<sup>2</sup> 横浜市では環境基準のゾーン下限値 (0.04 ppm) を環境目標値としています。

※<sup>3</sup> 年間の日平均値を小さいものから順に並べ、低い方から 98% に相当するもの (日平均値の年間 98% 値) を環境基準と比較して評価します。

※<sup>4</sup> 年平均値が長期基準である 15 μg/m<sup>3</sup> 以下であり、かつ、日平均値の年間 98% 値が短期基準である 35 μg/m<sup>3</sup> 以下である場合に、適合と評価します。

#### イ 有害大気汚染物質に係る環境基準

項目	環境基準※ <sup>1</sup>
ベンゼン	0.003 mg/m <sup>3</sup> 以下
トリクロロエチレン	0.13 mg/m <sup>3</sup> 以下
テトラクロロエチレン	0.2 mg/m <sup>3</sup> 以下
ジクロロメタン	0.15 mg/m <sup>3</sup> 以下

※<sup>1</sup> 年間平均値で評価します。

## ウ 有害大気汚染物質に係る指針値

項目	指針値 <sup>※1,※2</sup>	項目	指針値 <sup>※1,※2</sup>
アクリロニトリル	2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	水銀及びその化合物	0.04 $\mu\text{g Hg}/\text{m}^3$ 以下
アセトアルデヒド	120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	ニッケル化合物	0.025 $\mu\text{g Ni}/\text{m}^3$ 以下
塩化ビニルモノマー	10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	ヒ素及びその化合物	6 ng As/ $\text{m}^3$ 以下
塩化メチル	94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	1,3-ブタジエン	2.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
クロロホルム	18 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	マンガン及びその化合物	0.14 $\mu\text{g Mn}/\text{m}^3$ 以下
1,2-ジクロロエタン	1.6 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下		

※1 年間平均値で評価します。

※2 「指針値」は、環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値であり、環境目標値の一つとして環境省が設定したものです。

## エ ダイオキシン類の環境基準（大気）

項目	環境基準 <sup>※1,※2</sup>
ダイオキシン類（大気）	0.6 pg-TEQ/ $\text{m}^3$ 以下

※1 年間平均値で評価します。

※2 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾーパラジオキシンの毒性に換算した値です。符号「TEQ」は毒性等量であることを示し、2,3,7,8-四塩化ジベンゾーパラジオキシンの量に換算していることを表しています。

## オ 光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針

光化学オキシダントの日最高1時間値 0.06ppm に対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmC から 0.31ppmC の範囲にある。

※1 「光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について（答申）」（中央公害対策審議会 1976年8月13日）別添の専門委員会報告から指針に係る部分を抜粋して掲載しています。

※2 この指針は、光化学オキシダント生成防止のための必要条件としての環境大気中の非メタン炭化水素濃度レベルとして設定されたものです。

## (2) 水環境

### ア 水質汚濁に係る環境基準

#### (ア) 人の健康の保護に関する環境基準

項目	環境基準 <sup>※1</sup>	項目	環境基準 <sup>※1</sup>
カドミウム	0.003 mg/L 以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/L 以下
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
鉛	0.01 mg/L 以下	テトラクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
六価クロム <sup>※2</sup>	0.02 mg/L 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/L 以下
ヒ素	0.01 mg/L 以下	チウラム	0.006 mg/L 以下
総水銀	0.0005 mg/L 以下	シマジン	0.003 mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 mg/L 以下
PCB	検出されないこと	ベンゼン	0.01 mg/L 以下
ジクロロメタン	0.02 mg/L 以下	セレン	0.01 mg/L 以下
四塩化炭素	0.002 mg/L 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/L 以下	ふっ素 <sup>※3</sup>	0.8 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/L 以下	ほう素 <sup>※3</sup>	1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/L 以下	1,4-ジオキサン	0.05 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/L 以下		

※1 年間平均値で評価します。ただし、全シアンに係る基準値は、最高値で評価します。

※2 六価クロムの環境基準は2022年4月1日に変更されました。

※3 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用されません。

#### (イ) 生活環境の保全に関する環境基準（河川）

##### 生活環境項目（河川） ア<sup>※1</sup>

類型	水素イオン濃度指数 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数 <sup>※2,※3</sup>
B	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上	1,000 CFU/100mL 以下
C	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上	—
D	6.0 以上 8.5 以下	8 mg/L 以下	100 mg/L 以下	2 mg/L 以上	—

※1 日間平均値で評価します。ただし、BODは「75%水質値」で、大腸菌数は「90%水質値」で評価します。「75%水質値」とは、年間の日間平均値を小さいものから順に並べ、低い方から75%に相当する値をいいます。同様に、「90%水質値」は、年間の日間平均値の低い方から90%に相当する値です。

※2 2022年4月1日から大腸菌数の環境基準が新たに追加され、大腸菌群数は削除されました。ただし、横浜市内の河川には大腸菌数に係る環境基準は設定されていません。

※3 大腸菌数は、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数から算出する値（単位 CFU/100mL）で評価します。CFUはコロニー形成単位（Colony Forming Unit）の意味です。

##### 生活環境項目（河川） イ<sup>※1</sup>

類型	全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩
生物B	0.03 mg/L 以下	0.002 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下

※1 年間平均値で評価します。

(ウ) 生活環境の保全に関する環境基準（海域）

生活環境項目（海域） ア ※1

類型	水素イオン濃度指数 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数※2	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)
B	7.8 以上 8.3 以下	3 mg/L 以下	5 mg/L 以上	－	検出されないこと
C	7.0 以上 8.3 以下	8 mg/L 以下	2 mg/L 以上	－	－

※1 日間平均値で評価します。ただし、BODは「75%水質値」で、大腸菌数は「90%水質値」で評価します。「75%水質値」とは、年間の日間平均値を小さいものから順に並べ、低い方から75%に相当する値をいいます。同様に、「90%水質値」は、年間の日間平均値の低い方から90%に相当する値です。

※2 2022年4月1日から大腸菌数の環境基準が新たに追加され、大腸菌群数は削除されました。ただし、横浜市内の河川には大腸菌数に係る環境基準は設定されていません。

生活環境項目（海域） イ ※1

類型	全窒素	全りん
Ⅲ	0.6 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下
Ⅳ	1 mg/L 以下	0.09 mg/L 以下

※1 年間平均値で評価します。

生活環境項目（海域） ウ ※1

類型	全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩
生物A	0.02 mg/L 以下	0.001 mg/L 以下	0.01 mg/L 以下

※1 年間平均値で評価します。

生活環境項目（海域） エ ※1

類型	底層溶存酸素量
生物1	4.0 mg/L 以上
生物2	3.0 mg/L 以上

※1 日間平均値で評価します。

※2 東京湾に係る底層溶存酸素量の水域及び類型は2021年12月28日に指定されました。類型指定後、環境基準点の設定の検討が行われています。

イ ダイオキシン類の環境基準（水質、水底の底質）

項目	環境基準※1
ダイオキシン類（水質（水底の底質を除く。））	1 pg-TEQ/L 以下※2
ダイオキシン類（水底の底質）	150 pg-TEQ/g 以下


※1 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。符号「TEQ」は毒性等量であることを示し、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを表しています。

※2 水質（水底の底質を除く。）は、年間平均値で評価します。

## ウ 水環境目標

横浜市水と緑の基本計画（2016年6月改定）では、横浜の水環境の目指すべき目安として、水環境目標を定めています。水環境目標は、水域ごとに定める「達成目標」・「補助目標」と、市内全水域に定める「全水域の一律達成目標」で構成されています。









### (ア) 達成目標・補助目標（河川）

水域区分		達成目標			補助目標			
		生物指標による水質評価	BOD	ふん便性 大腸菌群数	水深※1	流速※1	川床状況 と美観	周辺環境
I	A	「源流・上流域」の “大変きれい”  アブラハヤ	3 mg/L 以下	1,000 個 /100mL 以下	5～15 (10) cm※2	30cm/s 程度	自然河床 の保全 ・ ごみの ないこと	自然環境の保全を重視し、自然生態系の保全を図るとともに、澄んだせせらぎの復元に努める。
	B	 ホトケドジョウ  サワガニ			10～25 (15) cm※2		自然河床 の復元 ・ ごみの ないこと	河川の自然環境の復元や周辺農地等も含めた生物生息環境の復元に努めるとともに親水性に配慮する。
II	A	「中流～下流域」の “大変きれい”  シマドジョウ  ヘビトンボ	5 mg/L 以下	-	10～30 (20) cm※2		ごみの ないこと	親水性の向上を図ることができる拠点を設置する等、市民にとっての身近な憩いの場として、うるおいのある水辺空間の整備に努めるとともに、生物生息環境にも可能な限り配慮する。
	B	「中流～下流域」の “きれい”  ウグイ			30～50 (40) cm※2			川幅や周辺空間に余裕のあるこの水域においては、豊かな流れと河川敷や沿川遊歩道を生かした水遊び、自然観察等、多様なレクリエーション利用が可能な水辺空間の整備に努める。
C	 シロハラコカゲロウ  アユ	河川としては中規模にあたるこの水域においては、うるおいのある水の存在を感じられるよう、遊歩道の整備に努める。						
III		「感潮域」の“きれい”  ピリンゴ  クサフグ  オサガニ	3 mg/L 以下	-	-	ヘドロの 堆積が ないこと	運河も含めたこの水域においては、緑化を中心とした修景性を重視し、町の中でのうるおいのある水辺空間の整備に努める。	

※1 水深・流速の補助目標値は、「晴天時の平均的な値」とします。

※2 水深の補助値欄の（ ）内の数値は、代表的な値です。

(イ) 達成目標・補助目標（海域）

水域 区分	達成目標				補助目標	
	生物指標による水質評価	COD	窒素・リン	ふん便性 大腸菌群数	底質状況 と美観	周辺環境
I	「内湾」の“きれい” 「干潟」の“きれい”  シロギス  クサフグ	2 mg/L 以下	T-N 0.3 mg/L 以下  T-P 0.03 mg/L 以下	100 個 /100mL 以下	ごみが 散乱して	砂浜の保全、後背緑地の保 全・復元等の生態系の保全を 重視し同時に海浜レクリ エーション等の親水性にも 配慮する。
II	「干潟」の“きれい” 「内湾」の“きれい”  ビリンゴ  ミミズハゼ	3 mg/L 以下	T-N 0.6 mg/L 以下  T-P 0.05 mg/L 以下	—	いない こと	底質の改善等、閉鎖性海域の 環境の改善や干潟の保全に 努め、プロムナードや親水公 園の整備等、親水機能の改善 に配慮する。
III	「岸壁」の“きれい” 「内湾」の“きれい”  ヨロイイソギンチャク  クサフグ	3 mg/L 以下	T-N 1.0 mg/L 以下  T-P 0.09 mg/L 以下	—	ヘドロが 堆積して いない こと	湾や湾内に位置する波の穏 やかなこの水域においては、 親水性と修景性の両面を重 視し、臨海公園における水辺 への親しみやすさの創出と ともに、うるおいのある海辺 景観づくりに努める。
IV	「岸壁」の“きれい” 「内湾」の“きれい”  シロギス  マアジ	2 mg/L 以下	T-N 0.3 mg/L 以下  T-P 0.03 mg/L 以下	—	ごみが 浮いて いない こと	この沿岸水域においては、生 物生息環境と眺望へ配慮し、 海釣り施設やマリナーの整 備に努める。

(ウ) 全水域の一律達成目標

水環境目標として定める「全水域の一律達成目標」
環境基本法に基づく公共用水域の水質汚濁に係る環境基準（最新のもの）のうち、「人の健康の保護に関する環境基準」と「生活環境の保全に関する環境基準（水環境目標の達成目標に定める項目を除く。）」



(E) 水域区分ごとの生物指標

河川の源流・上流域における生物指標(河川ⅠA・ⅠB)				
指標種	大変きれい	きれい	やや汚れている	汚れている
魚類	シマドジョウ、ホトケドジョウ、ギバチ、アブラハヤ	■		
	ドジョウ、メダカ		■	
	モツゴ、フナ類			■
底生動物	ヌカエビ、サワガニ、フタスジモンカゲロウ、シロタニガワカゲロウ、オナシカワゲラ科、ヤマトフタツメカワゲラ、カワトンボ、オニヤンマ、ヘビトンボ、カクツツトビケラ科		■	
	カワニナ、ヤマトクロスジヘビトンボ、シロハラコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ		■	
	ミズムシ、アメリカザリガニ、サホコカゲロウ、コガタシマトビケラ属			■
	イトミミズ科、セスジユスリカ			■
藻類	タンスイベニマダラ、カワモズク類、コパンケイソウ、イタケイソウ	■		
	チャツツケイソウ、ハリケイソウ(A)		■	
	マグリケイソウ、ナガケイソウ			■
	ハリケイソウ(B)			■
水草	オランダガラシ		■	
	エビモ、オオカナダモ			■
	アイノコイトモ、コカナダモ			■
細菌類	ミズワタ			■

表の ■ 線は生物のすんでいる範囲をあらわしたものです

河川の中流・下流域における生物指標(河川ⅡA・ⅡB・ⅡC)				
指標種	大変きれい	きれい	やや汚れている	汚れている
魚類	シマドジョウ、アブラハヤ	■		
	ドジョウ、メダカ、ウグイ、アユ		■	
	モツゴ、フナ類、オイカワ、カマツカ			■
底生動物	ヌカエビ、オニヤンマ、ヤマトフタツメカワゲラ、ヘビトンボ、シロタニガワカゲロウ、ヒゲナガガガンボ属		■	
	ナミウズムシ、カワニナ、シロハラコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ		■	
	シマイシビル、サカマキガイ、ミズムシ、アメリカザリガニ、サホコカゲロウ、コガタシマトビケラ属			■
	イトミミズ科、セスジユスリカ			■
藻類	コパンケイソウ、イタケイソウ	■		
	チャツツケイソウ、ハリケイソウ(A)		■	
	マグリケイソウ、ナガケイソウ			■
	ハリケイソウ(B)			■
水草	オランダガラシ		■	
	エビモ、オオカナダモ			■
	アイノコイトモ、コカナダモ			■
細菌類	ミズワタ			■

表の ■ 線は生物のすんでいる範囲をあらわしたものです

(次頁へ続きます)

河川の感潮域・海域の干潟における生物指標(河川Ⅲ、海域Ⅰ・Ⅱ)

指標種		きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	ピリンゴ、ミミズハゼ、クサフグ	■			
	シマイサキ、ヒメハゼ	■			
	チチブ、ボラ、マハゼ	■			
	アベハゼ	■			
海岸動物	オサガニ、マテガイ、バカガイ	■			
	ニホンスナモグリ、シオフキガイ	■			
	アサリ、ケフサイソガニ	■			
	ミズヒキゴカイ、ハナオカカギゴカイ	■			
藻類	オゴノリ	■			
	アナアオサ、ハネモ	■			

表の ■ 線は生物のすんでいる範囲をあらわしたものです

海域の岸壁における生物指標(海域Ⅲ・Ⅳ)

指標種		きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	クサフグ、ウミタナゴ	■			
	ヒイラギ、キュウセン、ナベカ、シマハゼ、アイナメ	■			
	ボラ	■			
海岸動物	ヨロイソギンチャク、カメノテ	■			
	ダイダイイソカイメン、ヒザラガイ	■			
	イソガニ、コウロエンカワヒバリガイ、ムラサキガイ	■			
	ケフサイソガニ、フジツボ類、タマキビガイ、マガキ	■			
藻類	マクサ	■			
	ワカメ、ベニスナゴ	■			
	ムカデノリ	■			

表の ■ 線は生物のすんでいる範囲をあらわしたものです

海域の内湾における生物指標(海域Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)

指標種		きれい	やや汚れている	汚れている	非常に汚れている
魚類	シロギス、マアジ	■			
	ススキ、クロダイ、ネズミゴチ、マコガレイ、カワハギ	■			
	マハゼ、ハタタテヌメリ	■			
海岸動物・底生動物	バラブリオノスピオ	■			
	ミズヒキゴカイ、ハナオカカギゴカイ、ブリオノスピオ・キリフェラ	■			
プランクトン	ユーカンピア・ゾオディアクス、メソディニウム・ルブルム	■			
	プロロケントルム・トリエステリウム、ヘテロシグマ・アカシオ	■			
	スケルトネマ・コスタツム	■			

表の ■ 線は生物のすんでいる範囲をあらわしたものです

### (3) 地盤環境

#### ア 地下水の水質汚濁に係る環境基準

項目	環境基準 <sup>※1</sup>	項目	環境基準 <sup>※1</sup>
カドミウム	0.003 mg/L 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/L 以下
全シアン	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/L 以下
鉛	0.01 mg/L 以下	トリクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
六価クロム <sup>※2</sup>	0.02 mg/L 以下	テトラクロロエチレン	0.01 mg/L 以下
ヒ素	0.01 mg/L 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/L 以下
総水銀	0.0005 mg/L 以下	チウラム	0.006 mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと	シマジン	0.003 mg/L 以下
PCB	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 mg/L 以下
ジクロロメタン	0.02 mg/L 以下	ベンゼン	0.01 mg/L 以下
四塩化炭素	0.002 mg/L 以下	セレン	0.01 mg/L 以下
クロロエチレン (別名 塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	0.002 mg/L 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/L 以下	ふっ素	0.8 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/L 以下	ほう素	1 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/L 以下	1,4-ジオキサン	0.05 mg/L 以下

※1 年間平均値で評価します。ただし、全シアンに係る基準値は、最高値で評価します。

※2 六価クロムの環境基準は2022年4月1日に変更されました。

※3 地下水中のダイオキシン類は、ダイオキシン類の環境基準のうち、水質（水質の底質を除く。）の基準値である1 pg-TEQ/Lにより評価します。（「4-11 市内に適用される主な環境基準等の概要 (2)-イ」参照）

#### イ ダイオキシン類の環境基準（土壌）

項目	環境基準 <sup>※1</sup>
ダイオキシン類（土壌）	1,000 pg-TEQ/g 以下

※1 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。符号「TEQ」は毒性等量であることを示し、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算していることを表しています。

## ウ 土壌の汚染に係る環境基準

項目	環境基準
カドミウム <sup>※1</sup>	検液 1 L につき 0.003 mg 以下であり、かつ、農用地においては、米 1 kg につき 0.4 mg 以下であること。
全シアン	検液中に検出されないこと。
有機りん <sup>※2</sup>	検液中に検出されないこと。
鉛	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であること。
六価クロム	検液 1 L につき 0.05 mg 以下であること。
ヒ素	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であり、かつ、農用地（田に限る。）においては、土壌 1 kg につき 15 mg 未満であること。
総水銀	検液 1 L につき 0.0005 mg 以下であること。
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。
PCB	検液中に検出されないこと。
銅	農用地（田に限る。）において、土壌 1 kg につき 125mg 未満であること。
ジクロロメタン	検液 1 L につき 0.02 mg 以下であること。
四塩化炭素	検液 1 L につき 0.002 mg 以下であること。
クロロエチレン（別名 塩化ビニル 又は塩化ビニルモノマー）	検液 1 L につき 0.002 mg 以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液 1 L につき 0.004 mg 以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液 1 L につき 0.1 mg 以下であること。
1,2-ジクロロエチレン	検液 1 L につき 0.04 mg 以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液 1 L につき 1 mg 以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液 1 L につき 0.006 mg 以下であること。
トリクロロエチレン <sup>※1</sup>	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であること。
テトラクロロエチレン	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液 1 L につき 0.002 mg 以下であること。
チウラム	検液 1 L につき 0.006 mg 以下であること。
シマジン	検液 1 L につき 0.003 mg 以下であること。
チオベンカルブ	検液 1 L につき 0.02 mg 以下であること。
ベンゼン	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であること。
セレン	検液 1 L につき 0.01 mg 以下であること。
ふっ素	検液 1 L につき 0.8 mg 以下であること。
ほう素	検液 1 L につき 1 mg 以下であること。
1,4-ジオキサン	検液 1 L につき 0.05 mg 以下であること。

※1 「カドミウム」及び「トリクロロエチレン」の土壌の汚染に係る環境基準は、2021年4月1日に変更されました。

※2 有機りんとは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいいます。

## (4) 音環境

### ア 騒音に係る環境基準

地域の類型※ <sup>1</sup>	①幹線道路※ <sup>2</sup>		②道路に面する地域 (①を除く)※ <sup>3</sup>		③一般環境 (①②を除く)	
	昼間※ <sup>4</sup>	夜間※ <sup>4</sup>	昼間※ <sup>4</sup>	夜間※ <sup>4</sup>	昼間※ <sup>4</sup>	夜間※ <sup>4</sup>
A 地域 (専ら住居の用に供される地域)	70dB 以下	65dB 以下	60dB 以下	55dB 以下	55dB 以下	45dB 以下
B 地域 (主として住居の用に供される地域)			65dB 以下	60dB 以下		
C 地域 (相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域)			60dB 以下	50dB 以下		

※<sup>1</sup> 横浜市内に適用される類型を抜粋し、掲載しています。市内は、次のとおり指定されています。

A 地域：第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域

B 地域：第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、用途地域の定めのない地域

C 地域：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

※<sup>2</sup> 道路に面する地域のうち「幹線交通を担う道路に近接する空間」に適用される基準です。幹線交通を担う道路とは、高速自動車国道、自動車専用道路、一般国道、都道府県道及び4車線以上の市町村道をいいます。

※<sup>3</sup> 「道路に面する地域」とは、A 地域及び B 地域では「2車線以上の車線を有する道路に面する地域」を、C 地域では「車線を有する道路に面する地域」をいいます。

※<sup>4</sup> 昼間は午前6時から午後10時までの間、夜間は午後10時から翌日の午前6時までの間です。また、時間の区分ごとの全時間を通じた等価騒音レベル  $L_{Aeq}$  によって評価します。

### イ 新幹線鉄道騒音に係る環境基準

地域の類型※ <sup>1</sup>	都市計画法による用途地域※ <sup>2</sup>	騒音の環境基準※ <sup>3</sup>
I	第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、 第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、 田園住居地域、用途地域の定めのない地域	70 dB 以下
II	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域	75 dB 以下

※<sup>1</sup> 新幹線鉄道（一部区間を除く。）の本線の線路の中心線から一定距離の範囲内の地域であって、「地域の類型」が当てはめられた地域について、環境基準が適用されます。

※<sup>2</sup> 神奈川県内（横浜市内含む。）の用途地域に適用される類型を掲載しています。

※<sup>3</sup> 新幹線鉄道のの上り及び下りの列車を合わせて、原則として連続して通過する20本の列車について、当該通過列車ごとの騒音のピークレベルを測定し、上位半数のものをパワー平均して評価します。

### ウ 新幹線鉄道振動に係る指針

① 新幹線鉄道振動の補正加速度レベルが、70 dB を超える地域について緊急に振動源及び障害防止対策等を講ずること。
② 病院、学校その他特に静穏の保持を要する施設の存する地域については、特段の配慮をするとともに、可及的速やかに措置すること。

※<sup>1</sup> 環境保全上緊急を要する新幹線鉄道振動対策について（勧告）（昭和51年3月12日環大特第32号 環境庁）

横浜で初めての万博となる2027年国際園芸博覧会の開催に向けて、  
横浜市では引き続き、環境行政の推進に取り組んでいきます。



横浜市 環境創造局 環境保全部 環境管理課

2024年2月作成

横浜市中区本町6丁目50番地の10

TEL 045-671-2487 / FAX 045-681-2790

e-mail ks-kankyokanri@city.yokohama.lg.jp

生活環境保全推進ガイドラインや年次報告書は、横浜市ウェブサイト（下記URL）で公表しています。右記の二次元コードからアクセスできます。



[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/hozentorikumi/seikatsu\\_guideline.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/hozentorikumi/seikatsu_guideline.html)